

授業科目名： 物理学総論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊地 浩人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 古典力学および熱力学の基本的な考え方と、関連する典型的な問題を理解することを目標とする。			
授業の概要 力学と熱力学に関する諸課題を扱う。力学と熱力学の結びつきや関係性、さまざまな物理量の概念を正確に理解し、中学校や高等学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス、力と運動・講義内容、位置、速度、加速度の表現、単振動と円運動について 第2回：ニュートンの運動の3法則とその適用（1）・運動の3法則について 第3回：ニュートンの運動の3法則とその適用（2）・斜面上の運動、摩擦、単振動について 第4回：ニュートンの運動の3法則とその適用（3）・力積、運動量保存則について 第5回：仕事とエネルギー（1）・仕事の定義、保存力について 第6回：仕事とエネルギー（2）・ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則について 第7回：万有引力・万有引力、中心力場、ケプラーの法則について 第8回：剛体の運動・剛体の運動、角運動量と力のモーメントについて 第9回：熱力学における系の捉え方・気体の分子運動論について 第10回：熱力学第1法則・内部エネルギー、熱力学第1法則について 第11回：系の状態変化とカルノーサイクル・等積過程、等圧過程、等温過程、断熱過程について 第12回：熱力学第2法則とエントロピー・クラウジウスの不等式、エントロピー増大則について 第13回：自由エネルギー・ギブスの自由エネルギー、ヘルムホルツの自由エネルギーについて 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（60%）、課題提出状況（40%）			

授業科目名： 物理学総論II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地 浩人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 前半は、電気回路や電磁気学の理論と、関連する典型的な問題を理解することを目標とする。 後半は、光や原子・分子に対し古典力学では説明ができない現象の存在を示し、粒子性と波動性など、量子力学の基本的な考え方を理解することを目標とする。			
授業の概要 電磁気学、波動、および量子力学の分野に対して、基本的な原理や法則を理解する。物理学の諸原理・法則などを深く理解し、中学校や高等学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成することを目標とする。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス、電気回路（1）・オームの法則、キルヒホッフの第1, 2法則について 第2回：電気回路（2）・ジュール熱、コイルを含む簡単な電気回路について 第3回：静電場：クーロン力と電場の概念について 第4回：電流と磁場（1）・磁場の概念、ローレンツ力、ビオ・サバールの法則について 第5回：磁石と磁場・磁荷と磁気双極子、アンペールの法則について 第6回：電流と磁場（2）・レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則について 第7回：マクスウェルの方程式・電荷保存則と変位電流、電磁現象の基本方程式について 第8回：波動・波の性質、波に対する数学的な表現について 第9回：電磁波と光・電磁波、電磁気学の構成について 第10回：光及び物質の粒子性と波動性・光電効果、コンプトン効果、物質波について 第11回：水素原子のスペクトルと原子の構造・ラザフォードの原子モデル、ボーアの理論について 第12回：量子力学の基本原理・粒子性と波動性、シュレディンガー方程式について 第13回：水素原子に対する量子力学の適用・シュレディンガー方程式の立て方とその解法について 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（60%）、課題提出状況（40%）			

授業科目名： 解析力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 泰一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「力学Ⅰ・Ⅱ」の授業で学んだニュートン力学を変分原理に基礎をおいて解析学の手法を用いて体系化し、複雑な力学の問題を見通しよく、一般的でかつ統一された理論形式で取り扱うことができることを学ぶ。本授業では、解析力学の基本的な考え方と、力学問題を解析的な手法で解く力を身につけることをめざす。</p>			
授業の概要			
<p>解析力学を学ぶ上で必要となるニュートン力学の復習を最初にした後に、一般化座標、オイラー・ラグランジュ方程式、ハミルトンの変分原理、ハミルトンの正準方程式などを学ぶ。これらの概念と解析的手法の理解を深めるために、典型的な問題を解きながら授業を進める。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス、質点の運動の基本法則・質点の運動の基本法則について			
第2回：エネルギー，運動量，角運動量とそれらの保存則・エネルギー，運動量，角運動量とそれらの保存則について			
第3回：中心力と運動・中心力と運動、非直交座標系での運動方程式について			
第4回：ラグランジアンとオイラー・ラグランジュ方程式・ラグランジアンとオイラー・ラグランジュ方程式について			
第5回：オイラー・ラグランジュ方程式の応用・オイラー・ラグランジュ方程式の応用について			
第6回：ハミルトンの変分原理・質点の運動とハミルトンの変分原理について			
第7回：小テスト・前半の授業内容について			
第8回：ハミルトニアンと正準運動方程式・ハミルトンの正準運動方程式の導出とハミルトニアンについて			
第9回：正準形式の理論と電磁場の方程式・正準形式の理論と電磁場の方程式の関係について			
第10回：正準変換・正準変換と母関数について			
第11回：無限小変換と保存則・無限小変換と保存則について			
第12回：ポアソン括弧とその応用・ポアソン括弧とその応用について			
第13回：位相空間とリュウヴィルの定理・ q - p 平面の考え方とリュウヴィルの定理について			
第14回：まとめ・期末試験			
テキスト			

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

力学・解析力学（阿部竜蔵著、岩波書店）、解析力学（久保謙一著、裳華房）

学生に対する評価

期末試験（50%）、小テスト（40%）、課題提出状況（10%）

授業科目名： 理論電磁気学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中嶋 大
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 1年次で学んだ基礎電磁気学をベクトル解析などの数学的手法を用いて一般的に体系化し、静電場と静磁場の基本法則の理解と実際に問題を解く力を身につけることをめざす。			
授業の概要 静電場と静磁場の法則について、主に微分形式で学ぶ。これらの法則の概念と解析的手法の理解を深めるために、典型的な問題を解きながら授業を進める。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・電磁気学とは何か 第2回：クーロンの法則（1）・クーロンの法則のベクトル表現について 第3回：クーロンの法則（2）・重ね合わせの原理と電気力線について 第4回：電場と電気力線（1）・電場と電気力線のベクトル表現について 第5回：電場と電気力線（2）・電気双極子および線上の電荷がつくる電場について 第6回：電場と電気力線（3）・2次元および3次元に分布した電荷がつくる電場について 第7回：ガウスの法則（1）・閉曲面を貫く電気力線の数と、電場の積分形のガウスの法則について 第8回：ガウスの法則（2）・ガウスの法則に関連した演習問題 第9回：静電ポテンシャルと電位（1）・静電ポテンシャルと電位について 第10回：静電ポテンシャルと電位（2）・静電場の基本法則について 第11回：定常電流・電流密度と定常電流の保存則について 第12回：静磁場（1）・電流同士にはたらく力、ビオ・サバールの法則について 第13回：静磁場（2）・静磁場とベクトルポテンシャルの関係、静磁場の基本法則について 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 電磁気学（砂川重信著、岩波書店）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小テスト（40%）			

授業科目名： 基礎力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中嶋 大、山田 泰一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 質点と剛体の力学の基本原理の理解とその応用について講義を行うが、基本概念の理解と同時に、実際に使えるように習得することを目標とする。			
授業の概要 力学の基礎について、微分積分法に基づいて学習する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：力運動の表し方（1）・力のつり合いと、速度の定義と微分を用いた表し方について 第2回：運動の表し方（2）と曲線運動・加速度の定義と微分を用いた表し方について 第3回：運動の法則・ニュートンの運動の3法則について 第4回：等速円運動・等速円運動について 第5回：力と運動（1）・放物運動と雨滴の落下運動について 第6回：力と運動（2）・単振動と減衰振動について 第7回：仕事とエネルギー・仕事の意味、保存力、エネルギー保存則について 第8回：運動量と慣性力（見かけの力）・運動量と力積の関係、慣性力の意味、遠心力について 第9回：実力確認テスト・第1回から第8回までの授業内容について 第10回：質点の回転運動・モーメント、角運動量、万有引力による惑星の運動について 第11回：剛体のつり合い・剛体のつり合いの条件について 第12回：剛体の回転運動（1）・慣性モーメントと固定軸まわりの剛体の運動について 第13回：剛体の回転運動（2）・剛体の平面運動について 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（50%）、実力確認テスト（40%）、課題提出状況（10%）			

授業科目名： 基礎電磁気学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 船木 靖郎、北村 美一郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 自然界における電磁気現象に対する物理的な考え方の確実な理解ができるように、比較的平易な数学的知識で扱える電磁気現象に限定して、電磁気学の基礎的事項の習得を目指す。			
授業の概要 電磁気学についての基礎的知識を学ぶ。静電気力と電荷、静電場、電位、電流とオームの法則、キルヒホッフの法則、静磁場、電流が磁場から受ける力、電磁誘導などについての基本的事項について、典型的な問題を解きながら理解を深める。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：理工分野と電磁気学・理工分野と電磁気学について 第2回：静電気力と電荷・静電気力と電荷について 第3回：静電場・静電場について 第4回：電位・電位について 第5回：コンデンサーの電気容量・コンデンサーの電気容量について 第6回：電流とオームの法則・電流とオームの法則について 第7回：電流のする仕事とジュール熱・電流のする仕事とジュール熱について 第8回：直流回路とキルヒホッフの法則・直流回路とキルヒホッフの法則について 第9回：磁気力と静磁場・磁気力と静磁場について 第10回：電流がつくる磁場・電流がつくる磁場について 第11回：電流が磁場から受ける力・電流が磁場から受ける力について 第12回：磁場中を動く荷電粒子が受ける力・磁場中を動く荷電粒子が受ける力について 第13回：電磁誘導・電磁誘導について 第14回：交流、まとめ・交流について、および期末試験			
テキスト 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（60%）、課題提出状況（40%）			

授業科目名： 波と光の物理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：北村 美一郎、 山田 泰一、 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 「波と光」についての基礎知識の習得、さらに特殊相対論の初歩についての知識と確実な理解を目標とする。			
授業の概要 「波と光の現象」についての基礎的知識と数学的表現を学ぶ。さらに、特殊相対性理論の初歩について学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：波の性質（1）・波の基本的な性質と、正弦波とその数学的表現について 第2回：波の性質（2）・波の重ね合わせの原理、波の干渉と定在波、それらの数学的表現について 第3回：波の性質（3）・波の反射、屈折、反射波の位相、弦の固有振動について 第4回：光の反射と屈折（1）・光の反射と屈折について 第5回：光の反射と屈折（2）・フェルマーの原理による光の屈折の法則について 第6回：音波（1）・気柱の振動とうなりについて 第7回：音波（2）・ドップラー効果について 第8回：実力確認テスト・第1回から第7回までの内容について 第9回：光波（1）・光速、スリットによる回折、フランホーファー回折、フレネル回折について 第10回：光波（2）・2重スリット、回折格子、ホイヘンスの原理の概要について 第11回：光波（3）・ホイヘンスの原理、単スリットと回折格子の干渉縞について 第12回：マイケルソン・モーリーの実験とローレンツ変換・光速度不変の原理、ローレンツ変換について 第13回：特殊相対論の初歩・動いている時計の遅れと動いている棒の収縮、質量とエネルギーなどについて 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 期末試験（50%）、実力確認テスト（40%）、課題提出状況（10%）			

授業科目名： 熱と物質の物理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中嶋 大、船木 靖郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
物理学のうち、熱と物質の分野の基礎知識の習得と確実な理解を目指す。具体的には、熱現象に関する基礎的な知識を学ぶとともに、微視的（ミクロ）な取り扱いによる熱的現象の理解を深め、その後、物質を構成している原子の世界について学び、自然現象を理解する上での重要な概念の習得と論理的な考え方を養う。			
授業の概要			
熱力学と物質・原子の分野の基礎を学ぶ。熱と温度、気体の状態方程式、熱力学の法則、電子の発見と比電荷の測定、光電効果、X線、水素原子、放射線と放射能などの講義内容を確実に理解できるように、典型的な問題を解きながら理解を深める。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：熱現象および物質と原子・熱現象および物質と原子について			
第2回：熱と温度・熱と温度について			
第3回：熱の仕事当量、比熱と熱容量・熱の仕事当量、比熱と熱容量について			
第4回：ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式・左記法則について			
第5回：気体の分子運動論、気体の内部エネルギー・分子運動論、気体の内部エネルギーについて			
第6回：熱力学の第1法則、気体のする仕事・熱力学の第1法則、気体のする仕事について			
第7回：気体の比熱、熱機関と仕事、熱力学の第2法則・比熱、熱機関、熱力学第2法則について			
第8回：電子の発見、比電荷の測定・電子の発見、比電荷の測定について			
第9回：光電効果と光の粒子性・光電効果と光の粒子性について			
第10回：X線の波動性と粒子性、電子の波動性・X線の波動性と粒子性、電子の波動性について			
第11回：水素原子のスペクトル、ボーアの理論・水素原子のスペクトル、ボーアの理論について			
第12回：放射線と放射能、陽子と中性子の発見・放射線と放射能、陽子と中性子の発見について			
第13回：原子核の構造、原子核の崩壊と原子核反応・原子核構造、原子核崩壊と核反応について			
第14回：質量欠損と核エネルギー、まとめ・質量欠損と核エネルギーについて、および期末試験			
テキスト			
基礎物理学（原康夫著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

期末試験（60％）、課題提出状況（40％）

授業科目名： 量子力学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 船木 靖郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 前期量子論（ボーア理論、水素原子のエネルギー準位など）を踏まえて、量子力学の基本方程式であるシュレディンガー方程式について学び、具体的な問題を通して量子力学の基本的な概念についての理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 物理学をはじめとして、化学、生物学、医学、工学、コンピュータなど、科学のあらゆる分野で必要不可欠な知識となっている量子力学の基礎的概念を解説する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・量子力学の授業概要について 第2回：量子力学の起源（1）・空洞輻射とエネルギー量子について 第3回：量子力学の起源（2）・光電効果について 第4回：量子力学の起源（3）・原子の輝線スペクトルとボーア理論、前期量子論の限界について 第5回：ド・ブロイの物質波・アインシュタイン・ド・ブロイの関係式、ボーア量子仮説について 第6回：シュレディンガー方程式と波動関数（1）・波動方程式、シュレディンガー方程式について 第7回：シュレディンガー方程式と波動関数（2）・時間に依存しないシュレディンガー方程式について 第8回：シュレディンガー方程式と波動関数（3）・波動関数の物理的意味と波動関数について 第9回：シュレディンガー方程式と波動関数（4）・波動関数に対する要請について 第10回：量子力学の一般原理と諸性質（1）・物理量の期待値、波動関数と物理量に対する要請について 第11回：量子力学の一般原理と諸性質（2）・固有関数、交換関係、不確定性原理について 第12回：1次元のポテンシャル問題（1）・井戸型ポテンシャル問題について 第13回：1次元のポテンシャル問題（2）・有限の深さのポテンシャル問題の「パリティ偶状態」について 第14回：1次元のポテンシャル問題（3）、まとめ・有限の深さのポテンシャル問題の「パリティ奇状態」について、および期末試験			
テキスト 基礎からの量子力学（上村洸・山本貴博著、裳華房）			

参考書・参考資料等

量子力学入門（阿部竜蔵著、岩波書店）

学生に対する評価

期末試験（100%）

授業科目名： 熱・統計力学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古澤 峻
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 熱力学の諸法則及び種々の熱力学的諸量について理解できること。			
授業の概要 熱的現象を巨視的な立場（熱力学）と微視的立場（統計力学）で理解するための基礎的な考え方や方法論を学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・熱・統計力学の授業概要について 第2回：熱と温度（1）・経験温度、気体の法則について 第3回：熱と温度（2）・熱量、熱と仕事について 第4回：熱力学第1法則（1）・エネルギーの保存、準静変化の基礎について 第5回：熱力学第1法則（2）・準静変化について 第6回：熱力学第1法則（3）・比熱について 第7回：熱力学第1法則（4）・気体の内部エネルギーについて 第8回：熱力学第1法則（5）・理想気体の断熱変化について 第9回：熱力学第2法則（1）・熱機関について 第10回：熱力学第2法則（2）・不可逆な現象について 第11回：熱力学第2法則（3）・熱力学第2法則、可逆機関の効率について 第12回：熱力学第2法則（4）・エントロピーとエントロピー増大の法則について 第13回：マックスウェルの関係式・マックスウェルの関係式について 第14回：まとめ・期末試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 熱学・統計力学：大学演習（久保亮五著、裳華房）、ゼロからの熱力学と統計力学（和達三樹, 十河清, 出口哲生著、岩波書店）			
学生に対する評価 期末試験（60%）、課題提出状況（40%）			

授業科目名： 化学総論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山平（柿澤）多恵子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 化学の全体像を理解し、その中での各単元の持つ意味、内容を把握し、わかりやすく説明できる。			
授業の概要 1. 科学の歴史、2. 物質の構成、3. 物質の変化、4. 無機物質、5. 有機化学—脂肪族化合物の物性と反応、の5分野を中心に講義を行い、レポート課題として問題演習をこなすことで理解を深めて、定着を図る。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：化学の歴史・化学の歴史について 第2回：物質の構成（1）・元素、単体、化合物、同位体について 第3回：物質の構成（2）・周期表と周期律について 第4回：物質の構成（3）・原子量と分子量、元素記号、同位体について 第5回：物質の変化（1）・熱と熱量、反応熱について 第6回：物質の変化（2）・反応式、ヘスの法則、熱化学方程式について 第7回：物質の変化（3）・酸と塩基、中和滴定の原理について 第8回：物質の変化（4）・酸化と還元、酸化剤と還元剤について 第9回：物質の変化（5）・酸化還元反応、金属のイオン化傾向と電池、電気分解について 第10回：無機化学・金属元素と非金属元素、金属イオンの分離法、検出法について 第11回：有機化合物（1）・有機化合物の分類と基本構造について 第12回：有機化合物（2）・脂肪族炭化水素と官能基について 第13回：有機化合物（3）・アルカン、アルケン、アルキンについて 第14回：有機化合物（4）、まとめ・アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル、エーテル、カルボン酸について 期末試験			
テキスト 大学化学への入門（野村浩康、小川英生、山室憲子、向山義治著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 基本有機化学（ブラウン・プーン著、廣川書店）			

学生に対する評価

期末試験（70%）、小テスト・課題（30%）。出席回数が授業日数の3分の2を満たさない場合は不可とすることがある。

授業科目名： 化学総論II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山平（柿澤）多恵子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 化学総論Iで身につけた基礎力を基に、化学の全体像のさらに深く理解し、各単元の持つ意味、内容を把握し説明できる。討論を通して総合的に化学を考え、発言や説明ができる。			
授業の概要 1. 物質の構造、2. 反応速度と化学平衡、3. 有機化学－芳香族化合物の物性と反応、の3分野を中心に講義を行う。化学総論Iで身につけた基礎力を基に、さらなる応用的な思考を身につけ、討論を通して理解を深め、定着を図る。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：物質の構造（1）・粒子の熱運動と物質の三態について 第2回：物質の構造（2）・オクテット則、イオン結合、共有結合、配位結合について 第3回：物質の構造（3）・金属結合、分子間力について 第4回：物質の構造（4）・ボイルの法則、シャルルの法則、理想気体の状態方程式について 第5回：物質の構造（5）・物質質量と濃度について 第6回：物質の構造（6）・溶液の濃度の概念と溶解度について 第7回：物質の構造（7）・沸点上昇と凝固点降下、溶液とコロイドについて 第8回：物質の構造（8）・金属結晶構造について 第9回：物質の構造（9）・原子半径と結晶格子について 第10回：反応速度と化学平衡（1）・化学反応が起こる仕組みと反応速度について 第11回：反応速度と化学平衡（2）・化学平衡、電離平衡について 第12回：有機化学・有機化合物の反応、分離について 第13回：芳香族化合物（1）・芳香族炭化水素の分類について 第14回：芳香族化合物（2）、まとめ・芳香族炭化水素の反応について 期末試験			
テキスト 大学化学への入門（野村浩康、小川英生、山室憲子、向山義治著、学術図書出版）			
参考書・参考資料等 基本有機化学（ブラウン・プーン著、廣川書店）			
学生に対する評価			

期末試験（90%）、小テスト（10%）。出席回数が授業日数の3分の2を満たさない場合は不可とすることがある。

授業科目名： 無機化学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱上 寿一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義を通じて、学生は無機化学の基礎概念（原子構造、化学結合）、原理、および反応機構（酸塩基反応、酸化還元反応）に関する深い理解を培い、「無機化学実験」や「卒業研究」などの実験結果を考察する能力を身につける。			
授業の概要 基本的な原子の構造や無機単体または無機化合物の性質やその反応性などについて理解することを到達目標とする。また、無機化学実験に必要となる基礎的な知識を習得することも目標とする。本講義は、高校で化学を履修していない学生も理解できるように化学の初歩的な内容からはっていく。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・無機化学を学習する意味について 第2回：原子の構造と性質（1）・原子の構成、微視的な粒子の運動、原子軌道の考え方について 第3回：原子の構造と性質（2）・原子の電子配置と周期表、原子の性質について 第4回：中間のまとめ（1）・原子の構造と性質について 第5回：化学結合と分子の構造（1）・ルイス構造と共有構造などについて 第6回：化学結合と分子の構造（2）・分子軌道法と分子間力について 第7回：固体の構造（1）・結晶構造の基礎について 第8回：固体の構造（2）・金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン半径について 第9回：固体の構造（3）・固溶体、欠陥、結晶の電子構造について 第10回：中間のまとめ（2）・化学結合と分子の構造ならびに固体の構造について 第11回：無機物質の反応－酸・塩基と酸化・還元（1）・酸・塩基の概念について 第12回：無機物質の反応－酸・塩基と酸化・還元（2）・ルイス酸とルイス塩基について 第13回：無機物質の反応－酸・塩基と酸化・還元（3）・酸化還元反応について 第14回：まとめ・原子の構造と性質、化学結合と分子の構造、固体の構造、無機物質の反応について 期末試験			
テキスト 無機化学の基礎（田中 勝久著、東京化学同人）			

参考書・参考資料等

新課程 視覚でとらえる フォトサイエンス化学図録（数研出版編集部編、数研出版）など。

学生に対する評価

期末試験（50％）、中間テスト（50％）

授業科目名： 有機化学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 香西 博明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>生体はもとよりわれわれの身の回りに存在する物質のほとんどが有機化合物でできている。したがって、有機化学は最先端の機能性物質までも含む広範囲の物質科学や生命科学の基礎的な学問として重要である。有機化学Iでは、有機化学の基礎概念および有機化合物をその性質や反応を支配する官能基により分類し、次の化合物（アルカン、アルケン、アルキン、立体化学、芳香族化合物、有機ハロゲン化合物、アルコール、エーテル等）について講義、小テストのサイクルで学習を重ねながら理解する。修得した学生は、有機化学分野の応用の新しい領域として、全体像が説明できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>有機化合物の構造と結合、極性や酸・塩基などの基礎的な知識を身につけ、また飽和および不飽和炭化水素、立体化学、芳香族炭化水素やハロゲン化アルキル、アルコール、エーテルなどの調製法や反応について具体例を列挙することができ、またそれらの反応機構を説明することができるようになることが大切である。具体的には、教科書の章中や章末に出ている問題が解けるようになることをめざす。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス・科目の内容の説明、授業のねらいと方針、成績評価方法について			
第2回：IUPAC命名法（1）・アルカン、アルケン、アルキン類の命名について			
第3回：IUPAC命名法（2）・アルコール、アルデヒド、カルボン酸などの命名について			
第4回：種々の反応の整理（1）・アルカンとアルケンの反応性の違いについて			
第5回：種々の反応の整理（2）・芳香族化合物の共鳴安定性とその反応性について			
第6回：配向性・芳香族化合物の置換反応における配向性について			
第7回：種々の反応の理解（1）・有機ハロゲン化合物の置換反応について			
第8回：種々の反応の理解（2）・有機ハロゲン化合物の脱離反応について			
第9回：種々の反応の理解（3）・アルコール、フェノール、チオールの性質について			
第10回：種々の反応の理解（4）・アルコール、フェノール、チオールの反応性について			
第11回：電子論・酸と塩基、電気陰性度および立体化学について			
第12回：種々の反応の理解（5）・エーテル、エポキシドの性質と反応性について			
第13回：有機金属化合物・Grignard反応、有機金属化合物の反応性について			

第14回：まとめ・有機化合物の概観、その構造や反応特性について

期末試験

テキスト

基礎有機化学（大寫幸一郎著、東京化学同人）

参考書・参考資料等

ハート基礎有機化学（H. ハート著、秋葉欣哉・奥彬訳、培風館）など。

学生に対する評価

期末試験（90%）、小テスト（10%）

授業科目名： 生物学総論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾之上 さくら
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物学総論では、生物の遺伝子から生命の誕生、組織の成り立ちや調節機能を学ぶことがテーマである。生物学総論 I では、特に遺伝やゲノム解析、受精と発生、脳や神経系のさまざまな機能について理解し、それらの知識を習得することを目標としている。			
授業の概要 生命現象は、自然界の多くの生物において共通である。そこで、この授業では、生物が共通して持っている遺伝と発生のしくみ、ゲノム解析とゲノムの医療への応用、さらに動物の脳や神経系のはたらきについて学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：遺伝・遺伝子、DNAの構造について 第2回：セントラルドグマ・遺伝子とタンパク質の関係および転写や翻訳について 第3回：ゲノム・遺伝子、ゲノム、DNAについて 第4回：ヒトゲノム解読・ヒトゲノムとゲノム解読技術について 第5回：遺伝子多型と医療・ゲノム多型と遺伝子診断、遺伝子治療について 第6回：男女の違い・脳の認知機能における男女差について 第7回：無性生殖と有性生殖・無性生殖と有性生殖、生物が子孫をつくるための戦略について 第8回：人間の発生・胚発生の過程、体細胞分裂と減数分裂について 第9回：クローン人間・クローン動物の作製法について 第10回：生命の誕生・生命の誕生と進化、ヒトの発生過程について 第11回：神経系・神経系の成り立ちと神経系による調節の仕組み、ニューロンの働きについて 第12回：脳と記憶・脳の働きおよび記憶の仕組みについて 第13回：大脳と知覚・大脳の役割について 第14回：右脳と左脳・右脳と左脳の機能の違いについて 期末試験			
テキスト 好きになるヒトの生物学（吉田邦久著、講談社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

期末試験（90%）、小テスト・課題（10%）。授業を3分の2以上出席した学生に対して期末試験を実施する。

授業科目名： 生物学総論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾之上 さくら
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生物学総論では、生物の遺伝子から生命の誕生、組織の成り立ちや調節機能を学ぶことがテーマである。生物学総論Ⅱでは、特にホメオスタシス機構や病気のしくみ、老化のしくみについて学び、それぞれの知識を習得することを目的としている。また、食糧問題、生物多様性問題、地球温暖化など地球規模での問題についても理解し、それらの解決策について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生命現象は、自然界の多くの生物において共通である。そこで、この授業では、生物が共通して持っている遺伝と発生のしくみ、ゲノム解析の方法と利用、さらに動物の神経系のはたらきについて学んでいく。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：病気と健康（1）・感染症と病原微生物について</p> <p>第2回：病気と健康（2）・アレルギー反応及びガン発症のメカニズムについて</p> <p>第3回：病気と健康（3）・生体防御機構、感染防御機構について</p> <p>第4回：食育・食事に含まれる栄養素や成分について</p> <p>第5回：食糧生産・地球上の食料生産の現状について</p> <p>第6回：ホメオスタシス（1）・ヒトの恒常性のメカニズムについて</p> <p>第7回：ホメオスタシス（2）・血液中の成分のホメオスタシスについて</p> <p>第8回：老化・生物の老化のしくみ、個体の老化と細胞の老化の違いについて</p> <p>第9回：アンチエイジング・老化を遅らせるためのアンチエイジング、寿命を決める遺伝子について</p> <p>第10回：ヒトのルーツ・原核生物から真核生物が誕生したとされる共生説について</p> <p>第11回：日本人のルーツ・日本国内の動植物および日本人のルーツと進化について</p> <p>第12回：生態系と生物多様性・植物と動物が作り出す生態系および生物多様性の意義について</p> <p>第13回：地球温暖化・温暖化による将来の環境変化について</p> <p>第14回：地球環境破壊の現状と回復への取り組み・生物学から見た地球環境破壊の現状と回復への取り組みについて</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>好きになるヒトの生物学（吉田邦久著、講談社）</p>			

参考書・参考資料等

生物学と人間（赤坂甲治・丹羽太貫・渡辺一雄著、裳華房）

学生に対する評価

期末試験（90%）、小テスト・課題（10%）。授業を3分の2以上出席した学生に対して期末試験を実施する。

授業科目名： 生化学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 秀樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では生化学の基礎を固めることを目標としている。前半は生体成分について、順次化学式を確認しながら、その性質を理解する。後半は、DNAからのタンパク質合成、糖の代謝によるATP生成、光合成による糖の合成などの基本的な代謝経路を学び、代謝の全体像を把握することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、すでに生物学の基礎を学んでいるという前提で、生化学の基礎を広く学ぶ科目とする。前半部分で、生体成分1つ1つの化学的な性質を学び、理解する。後半では、エネルギー代謝や生合成などの細胞内での複雑な反応について学んでいく。授業では、英語の教科書の一部をコピーして配布し、生化学用語を英語でも学習できるようにする。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス・生物の分類と細胞形態について</p> <p>第2回：アミノ酸・アミノ酸の化学構造と化学的性質について</p> <p>第3回：タンパク質・アミノ酸とタンパク質の関係、およびタンパク質の立体構造について</p> <p>第4回：糖・糖の種類と化学構造について</p> <p>第5回：多糖・多糖の種類と構造、脂質の種類と構造、および生体内での脂質の役割について</p> <p>第6回：ヌクレオチド・ヌクレオチドと核酸の構造、およびDNAとRNAの違いについて</p> <p>第7回：DNA・RNAの種類と役割、およびDNAの複製と転写について</p> <p>第8回：遺伝子・DNAからタンパク質が生合成される過程について</p> <p>第9回：酵素・脱水素酵素の反応にかかわる補酵素の種類と役割について</p> <p>第10回：解糖系・解糖系の流れと関与する酵素、およびグリコーゲンの合成と分解について</p> <p>第11回：クエン酸回路・クエン酸回路の物質の流れと役割について</p> <p>第12回：酸化的リン酸化・電子伝達系と酸化的リン酸化の機構について</p> <p>第13回：光合成の明反応・光合成の重要性、および光合成の明反応について</p> <p>第14回：炭酸固定反応・光合成の炭酸固定反応、光呼吸、C4植物について</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>ベーシック生化学（畑山巧著、化学同人）</p>			

参考書・参考資料等

生化学キーノート (B. D. Hames, N. M. Hooper 著、田之倉優ら訳、丸善) など。

学生に対する評価

期末試験 (60%)、課題提出状況 (20%)、授業に取り組む態度、熱意 (20%)

授業科目名： 生化学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 秀樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では「生化学I」と関連させて講義を行い、両方の科目を履修することで生化学全体を理解することを目標とする。これらの科目の履修により他の科目や卒業研究を履修するための基礎固めをする。また、生化学分野の実験法についても広く学習し、その知識を2年次、3年次の実験科目あるいは卒業研究に生かすことも目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目の前半では、核酸に関する知識、特に遺伝子組み換え技術に必要とされる実験方法について学ぶ。中盤では、酵素の一般的な性質、反応速度論およびタンパク質に関する実験方法を学習する。さらに後半では、脂質やアミノ酸の代謝について学習する。これにより、生化学の基礎知識を実験法と関連付けて理解することができるプログラムとなっている。授業では、英語の教科書の一部をコピーして配布し、生化学用語を英語でも学習できるようにする。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：制限酵素・DNAの修飾と制限の現象、および制限酵素について</p> <p>第2回：PCR法・PCRによるDNAの増幅の機構と、PCRの利用法について</p> <p>第3回：クローニング・DNAのクローニングの原理と方法について</p> <p>第4回：塩基配列決定方法・DNAの塩基配列決定法について</p> <p>第5回：酵素の一般的性質・酵素の一般的性質、基質特性、および酵素の分類方法について</p> <p>第6回：酵素反応速度論・ミカエリス・メンテンの式やミカエリス定数について</p> <p>第7回：酵素活性の阻害機構・酵素活性の阻害および調節機構について</p> <p>第8回：タンパク質の一般的実験方法・タンパク質の抽出法、および精製法について</p> <p>第9回：タンパク質定量法・タンパク質の定量法と、タンパク質の電気泳動法について</p> <p>第10回：抗体を使った実験法・免疫機構と抗体の学習、および抗体を使った実験法について</p> <p>第11回：脂肪酸の種類、役割・脂肪酸の種類、役割、分解について</p> <p>第12回：脂肪酸の生合成・生合成とベータ酸化の共通点、相違点について</p> <p>第13回：ステロイド化合物・ステロイド化合物の構造、役割、生合成について</p> <p>第14回：アミノ酸の代謝と尿素回路・アミノ酸の合成、分解経路と尿素回路について</p> <p>期末試験</p> <p>テキスト</p>			

ベーシック生化学（畑山巧著、化学同人）

参考書・参考資料等

生化学キーノート（B. D. Hames, N. M. Hooper 著、田之倉優ら訳、丸善）など。

学生に対する評価

期末試験（60%）、課題提出状況（20%）、授業に取り組む態度、熱意（20%）

授業科目名： 地学総論I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 直樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 地震, 火山, テクトニクス, 岩石, 日本列島の歴史, 地球の歴史という固体地球に関する分野の基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 地震, 火山, テクトニクス, 岩石, 日本列島の歴史, 地球の歴史における自然現象に関する自然のしくみを説明することができる。</p>			
授業の概要			
地学は地球から宇宙までを扱う範囲が非常に広い学問である。この授業では、その中から地震, 火山, テクトニクス, 岩石, 日本列島の歴史, 地球の歴史という固体地球に関する分野を取り上げ、講義を行う。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス・科目を履修する上での注意事項, 科目のねらい, 授業計画, 評価基準について			
第2回：地球の概観（1）・地球の形, 大きさ, 内部構造, 大気構造, 海陸分布について			
第3回：地球の概観（2）・日本や世界における地震, 火山の分布について			
第4回：地球の概観（3）・プレートテクトニクスやプルームテクトニクスについて			
第5回：年代決定法・岩石などの年齢を推定する方法について			
第6回：地球の歴史の概観（1）・太陽系の誕生とその後の地球の歴史の分け方について			
第7回：地球の歴史の概観（2）・生命の始まりや酸素の発生について			
第8回：地球の歴史の概観（3）・P/T境界, K/Pg境界における生物の大量絶滅について			
第9回：岩石の種類（1）・堆積岩, 火成岩の成因とその種類について			
第10回：岩石の種類（2）・変成岩の成因とその種類について			
第11回：日本の現在の姿・岩石, 地学的にみた現在の日本の姿について			
第12回：日本列島の歴史（1）・日本列島の大陸からの分離と日本海の形成について			
第13回：日本列島の歴史（2）・日本海誕生以前の日本列島の歴史について			
第14回：まとめ・授業の内容についてのまとめ			
期末試験			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

天と地の理を探る地球学と宇宙学（福江純・吉本 直弘・廣木 義久・松本桂・小西啓之著、プレアデス出版）など。

学生に対する評価

期末試験（60%）、小テスト（20%）、復習テスト（20%）

授業科目名： 地学総論II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 直樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 太陽系，銀河系，宇宙に関する分野の基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 太陽系，銀河系，宇宙に関する自然のしくみを説明することができる。</p>			
授業の概要			
地学は地球から宇宙までを扱う範囲が非常に広い学問である。この授業では，その中から太陽系，銀河系，宇宙という分野に関する話題を取り上げて，講義を行う。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス・科目を履修する上での注意事項，科目のねらい，授業計画，評価基準について			
第2回：自転と公転・地球の自転と公転について			
第3回：天動説と地動説・天動説と地動説、および天動説から地動説に至る変遷について			
第4回：太陽系（1）・ケプラーの法則など太陽系に見られる規則性について			
第5回：太陽系（2）・太陽系の範囲，構成について			
第6回：太陽系を構成する星（1）・太陽について			
第7回：太陽系を構成する星（2）・地球型惑星，木星型惑星，天王星型惑星の違いについて			
第8回：太陽系を構成する星（3）・木星型惑星，天王星型惑星，太陽系小天体について			
第9回：宇宙を測るものさし（1）・年周視差，絶対等級と見かけの等級について			
第10回：宇宙を測るものさし（2）・分光視差，超新星爆発，セファイド型変光星などを利用した星までの距離の測り方について			
第11回：天の川銀河・岩石，われわれの住む銀河系である天の川銀河について			
第12回：さまざまな銀河・天の川銀河以外の銀河について			
第13回：膨張する宇宙・膨張する宇宙、ハッブルの法則について			
第14回：まとめ・授業の内容についてのまとめ			
期末試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
天と地の理を探る地球学と宇宙学（福江純ほか著、プレアデス出版）など。			
学生に対する評価			
期末試験（60％）、小テスト（20％）、復習テスト（20％）			

授業科目名： 環境地球科学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 直樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（１）地球の形、地磁気、テクトニクス、地震、火山に関する自然現象に関する基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>（２）地球の形、地磁気、テクトニクス、地震、火山に関する自然現象に関する基礎的な物理的な法則（自然のしくみ）を説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>われわれの住む地球は、空気、水および固体地球からなっている。そこでは、降水や降雪、天気の変化、海水の流れ、地震の発生、火山の爆発等いろいろな自然現象がみられる。これらの奥にはそれぞれ物理的な法則（自然の仕組み）が潜んでいる。本講義では、地球物理学の分野である測地学、地球電磁気学、テクトニクス、地震学、火山学の基礎的な知識について講義を行う。</p>			
<p>授業計画（１回１コマ（１コマは１００分））</p> <p>第１回：ガイダンス、地球の概観・科目の概要、および地球の概観について</p> <p>第２回：地球の形（１）・地球が平面でないことの証拠、地球楕円体について</p> <p>第３回：地球の形（２）・ジオイド、GPS による位置決定について</p> <p>第４回：グローバルテクトニクス（１）・地磁気の三要素、永年変化、地磁気の逆転について</p> <p>第５回：グローバルテクトニクス（２）・大陸移動説と大陸移動説の復活について</p> <p>第６回：グローバルテクトニクス（３）・プレートテクトニクスについて</p> <p>第７回：グローバルテクトニクス（４）・ホットスポットとプレートの絶対運動について</p> <p>第８回：グローバルテクトニクス（５）・プルームテクトニクスについて</p> <p>第９回：地震（１）・地震という現象が断層運動により発生することについて</p> <p>第１０回：地震（２）・震度とマグニチュードについて</p> <p>第１１回：地震（３）・日本付近で発生している地震の震源分布とその特徴について</p> <p>第１２回：火山（１）・日本や世界の火山の分布について</p> <p>第１３回：火山（２）・火山の噴火に伴う現象や噴火がもたらすさまざまな災害について</p> <p>第１４回：まとめ・講義で学んだことの振り返り</p> <p>期末試験</p> <p>テキスト</p>			

地球科学入門（内藤玄一・前田直樹著、米田出版）

参考書・参考資料等

天と地の理を探る地球学と宇宙学（福江純・吉本 直弘・廣木 義久・松本桂・小西啓之著、プレアデス出版）

学生に対する評価

期末試験（60％）、小テスト（20％）、復習テスト（20％）

授業科目名： 環境地球科学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 直樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 地球システム、大気、海洋に関する自然現象について、基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 地球システム、大気、海洋に関する自然現象について、そのしくみについて説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>われわれの住む地球は、空気・水および固体地球からなっている。そこでは、降水や降雪、天気の変化、海水の流れ、地震の発生、火山の爆発等さまざまな自然現象がみられる。これらの奥にはそれぞれ物理的な法則（自然の仕組み）が潜んでいる。近年話題となっている地球規模での環境問題（地球の温暖化、オゾンホール、酸性雨等）は、地球におけるこれらの法則に人間活動の影響が及ぶようになったためと解釈することができる。本授業では、システムとしての地球、大気、海洋に関して、いくつかの自然現象とその法則性、それに関連する環境問題についての基本的なことがらをとりあげる。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス、地球の概観・科目の概要、および地球の概観について			
第2回：太陽放射と地球放射・太陽放射と地球放射における電磁波の波長の違いについて			
第3回：大気の性質（1）・大気的基本的な性質である組成、気圧、気温について			
第4回：大気の性質（2）・大気的基本的な性質である湿度について			
第5回：大気の性質（3）・空気の上昇による温度の低下や凝結、フェーン現象について			
第6回：大気の性質（4）・風向風速などの基本量、風にはたらく力について			
第7回：大気の循環・さまざまなスケールの大気の循環があることについて			
第8回：大気の大循環・地球規模で起こる大気の流れについて			
第9回：オゾンホール・オゾンホールについて			
第10回：海洋の概観・海の概観、塩分、水温など海水の性質とその分布について			
第11回：海の波・海に存在するさまざまな波の性質について			
第12回：エルニーニョ現象・赤道域で発生するエルニーニョ／ラニーニャについて			
第13回：地球温暖化・地球の温暖化について			
第14回：まとめ・講義で学んだことの振り返り			

期末試験

テキスト

地球科学入門（内藤玄一・前田直樹著、米田出版）

参考書・参考資料等

天と地の理を探る地球学と宇宙学（福江純・吉本 直弘・廣木 義久・松本桂・小西啓之著、プレアデス出版）

学生に対する評価

期末試験（60％）、小テスト（20％）、復習テスト（20％）

授業科目名： 物理学実験I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北村 美一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 物理学で学んだ理論や法則を、実験を通して体験的に習得し、これを確実なものとするを目的とする。			
授業の概要 実験を行う上で必要となるマナーや基本的事項、基本的な物理量の測定と基本計器の操作法、データの処理法、表現法について学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・履修上の注意 第2回：測定値の整理法・測定値の整理法および整理することの意味について 第3回：図（グラフ）の作成実習・見やすい図（グラフ）の作成について 第4回：誤差論の講義・誤差とその処理方法の原理について 第5回：長さの基本測定の実験・長さの基本測定の原理、測定値の処理、誤差計算について 第6回：実験ノートチェック・実験ノートの有効的な活用について 第7回：電気計測実験Ⅰ・電気抵抗とダイオードの電流電圧特性について 第8回：実験ノートチェック・電気抵抗やダイオードの電流電圧特性の測定結果について 第9回：電気計測実験Ⅱ・オシロスコープによる整流回路の整流特性の測定について 第10回：実験ノートチェック・オシロスコープによる整流回路の整流特性の測定結果について 第11回：テーマ実験の実験レポートの書き方・実験結果をレポートにまとめることの意味と書き方について 第12回：ばねによる減衰振動の実験・ばねによる減衰振動の理解、測定方法の理解、コンピュータの扱いについて 第13回：実験レポートチェック・ばねによる減衰振動の測定結果について 第14回：まとめ・授業全体の総合的な理解			
テキスト 理工学基礎実験（関東学院大学理工学部物理学実験室編）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 課題提出状況（70%）、取り組み状況（30%）			

授業科目名： 物理学実験II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北村 美一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 「物理学実験 I」を踏まえて、物理学で学んだ理論や法則を、実験を通して体験的に習得し、これを確実なものとするを目的とする。			
授業の概要 力学、熱、光、音波、電磁気などの様々なテーマの物理学実験を通して、計測法、データの処理法、表現法、実験レポートの書き方などを体系的に学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・履修上の注意 第2回：テーマ実験1『物体に作用する力のつりあいと静止摩擦力の測定』・力のつりあいや静止摩擦力について 第3回：テーマ実験1のレポートチェック・テーマ実験1について 第4回：テーマ実験2『ボルダの振り子による重力加速度の測定』・重力加速度について 第5回：テーマ実験2のレポートチェック・テーマ実験2について 第6回：テーマ実験3『電流による熱の仕事当量の測定』・熱の仕事当量について 第7回：テーマ実験3のレポートチェック・テーマ実験3について 第8回：テーマ実験4『空気中の音速の測定』・空気中の音速について 第9回：テーマ実験4のレポートチェック・テーマ実験4について 第10回：テーマ実験5『物質の比熱の測定』・比熱について 第11回：テーマ実験5のレポートチェック・テーマ実験5について 第12回：テーマ実験6『ニュートン・リングの実験』・ニュートン・リングについて 第13回：テーマ実験6のレポートチェック・テーマ実験6について 第14回：まとめ・実施したテーマ実験全体にわたる口頭試問			
テキスト 理工学基礎実験（関東学院大学理工学部物理学実験室編）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 課題提出状況（70%）、取り組み状況（30%）			

授業科目名： 化学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山平（柿澤）多恵子 佐々木 康
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 化学実験器具、化学薬品の取扱方法を説明できる。金属イオンを I 属から VI 属に分類し、分離分析法を説明できる。分類した陽イオンの分析法を習得し、準備から後始末までを計画を立てて、一人で安全に実施できる。			
授業の概要 実験器具の取り扱い、重さや容量の測定機器の取り扱い、ガラス細工などを通して、今後の専門実験の基礎となる技術を習得する。準備から後片付けまでの適切な実験の流れを学ぶとともに、化学関連の実験レポートの作成法を体得する。パソコンによるデータ解析も行い、その解析結果を考察する。			
授業計画（1回3コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス・化学実験の概要と化学実験を安全に行うための心構え 第2回：実験の手順・実験準備から廃液処理を含めた後片付けまでの実験の手順 第3回：分離分析法・I属に属する金属イオンの分離分析の実施 第4回：ガラス器具・ガラス器具の自作、および毛细管（キャピラリー）の作成 第5回：分離分析法・II属に属する金属イオンの分離分析の実施 第6回：ガラス器具・ガスバーナーを用いたL字管、U字管の作成 第7回：口頭試問、レポート作成法・実験レポートの作成、および実験内容の口頭説明 第8回：分離分析法・III属に属する金属イオンの分離分析の実施（Alイオン、Crイオン、Znイオン） 第9回：オームの法則・銅電極および硫酸銅水溶液を用いた、電解質水溶液におけるオームの法則の理解 第10回：ファラデーの法則・食塩水溶液の電気分解の実施、およびファラデーの法則、アボガドロの法則の理解 第11回：分離分析法・III属に属する金属イオンの分離分析の実施（Mnイオン、Feイオン、Coイオン、Niイオン） 第12回：オームの法則、ファラデーの法則・測定値と理論値の比較、誤差の取り扱い、およびパソコンを用いたデータ解析 第13回：追実験・レポート作成時の疑問点を解決する実験法の立案および実施 第14回：口頭試問と追加説明・実験レポートの作成、および実験内容の口頭説明			

テキスト
化学実験テキスト、環境保全と防災安全の手引き（関東学院大学理工学部編）など。
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価
課題提出状況（80%）、取り組み状況（20%）

授業科目名： 生物学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾之上 さくら
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 本科目では、生物や生物材料を扱うなかで、驚きや楽しさを実感するとともに、理科教育の基礎的な知識と実験手技を習得することを目標とする。			
授業の概要 生物を扱った実験や研究を行うための基礎的技術を修得することができるようなテーマを順次行う。具体的には、顕微鏡を使用した観察、タンパク質や核酸を扱う実験、コンピュータを使ったデータの解析法などを学習する。			
授業計画（1回2コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス、マイクロピペッターの使用法・授業の進め方、およびマイクロピペッターの正しい使用法の習得 第2回：顕微鏡の使用法と無菌操作法・タマネギの表皮細胞を観察およびスケッチ、無菌操作の実施 第3回：グラム染色・グラム染色の実施、および染色方法の習得 第4回：タンパク質定量（1）・ウシ血清アルブミンを用いた検量線の作成 第5回：タンパク質定量（2）・タンパク質の定量法（Lowry法）の習得 第6回：タンパク質定量（3）・キャベツおよびニワトリレバー、それぞれのタンパク質量の計算 第7回：レポートチェック、質疑応答・これまで行った実験のレポートに関する質疑応答 第8回：細胞不活性化実験（1）・大腸菌への紫外線照射による、突然変異誘発実験の習得 第9回：細胞不活性化実験（2）・紫外線照射した大腸菌の生存率の算出およびグラフ化 第10回：DNAの分離と精製・DNAの分離、精製方法の習得 第11回：形質転換実験（1）・遺伝子工学の基礎技術の一つである形質転換の習得 第12回：形質転換実験（2）・形質転換実験の結果のまとめ 第13回：遺伝解析、実験・遺伝子の解析方法を実験から習得したうえでレポート作成 第14回：レポートチェック、質疑応答・これまで行った実験のレポートに関する質疑応答			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			

課題提出状況（90%）、取り組み状況（10%）

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 直樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 地学に関連した実験における、実験方法、装置の取り扱い、データの解析などについて、基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>(2) 地学に関連した実験において、実験方法や装置の取り扱いなど適切に実験を行うことができる。</p> <p>(3) 実験で測定したデータの解析や結果の解釈を行うことができ、レポートとして、まとめることができる。</p> <p>(4) 実験グループのメンバーと協力して実験を遂行することができる。</p>			
授業の概要			
地学に関連したいくつかのことから測定、演習を行う。複数の実験課題、演習課題を選び、基本的に1週目に実験、2週目に解析を行う。解析の際には、表計算ソフトを用い、データの計算、グラフの描き方について学ぶ。			
授業計画（1回2コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス・科目の内容、履修する上の注意、授業の進め方について			
第2回：放射線(γ線)の測定・GM管を用いた放射線の測定			
第3回：放射線(γ線)の測定（解析）・表計算ソフトを用いた標準偏差の計算とそのグラフへの表示			
第4回：紫外線量の測定・紫外線量の測定			
第5回：紫外線量の測定（解析）・グラフ化による紫外線量の時間変化、天気との関連などについての理解			
第6回：気温・湿度、黒球温度の測定・アスマン乾湿湿度計による気温・湿度、黒球温度の測定			
第7回：気温・湿度、黒球温度の測定（解析）・表計算ソフトにより湿度の計算、および湿度の変化要因の考察			
第8回：粉塵量の測定・粉塵計を用いた粉塵量の習得			
第9回：粉塵量の測定（解析）・粉塵量の測定結果についての考察			
第10回：大地比抵抗の測定・大地比抵抗の測定			
第11回：大地比抵抗の測定（解析）・両対数グラフの使用、および地下の比抵抗構造の理解			
第12回：岩石標本の作成・岩石標本の作成、および偏光顕微鏡による観察			
第13回：天気図の作図・気象通報の原稿を元にした天気図の作図			

第14回：レポートチェック、質疑応答・これまで行った実験のレポートに関する質疑応答

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

課題提出状況（80%）、取り組み状況（20%）

授業科目名： 理科教育法1	教員の免許状取得のための 必修（中学）／選択（高校）	単位数： 4単位	担当教員名：横山一郎 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校学習指導要領における理科の内容を理解し、生徒に科学的なものの見方・考え方を育成し評価できる教師としての資質・能力を育てる。 到達目標 1) 中学校学習指導要領における理科の目標、おもな内容、全体構造について理解している。 2) 各単元の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 理科の学習評価について、科学的な思考・表現、観察・実験の技能、自然事象について主体的で深い学びの観点から行うことを理解している。 4) 小学校理科や高等学校理科との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。			
授業の概要 学習指導要領の意義、教科書と副教材の位置づけ、および、学習指導要領における中学校理科の目標と各単元の内容を理解する。授業の概要は次の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校学習指導要領解説理科編に示された各単元の内容を理解し、板書案の作成を中心として、生徒に説明できる力を養う。 ・ 科学的で論理的な思考とは何かを理解し、生徒の問題解決学習を支援できる力を養う。 ・ 科学的理解を深めるための観察や実験の技能を習得し、生徒のレポート作成を支援できる力を養う。 ・ 学習指導案の立案・模擬授業の実施・評価を行い、理科教育における実践力を養う。 ・ アクティブラーニングとは何かを理解し、ICT機器を活用できる力を養う。 			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスに基づき、講義内容を説明する。学習指導要領と学習指導要領解説理科編および検定教科書年間の授業計画、成績評価の方法、および、履修上の注意事項を理解している。理科教育の目標とESDとの関係性について理解できる。 第2回：学習指導案の構成・意義と観点別評価 理科の授業とは何か理解できる。塾等との差異を理解できる。学習指導案の作成方法を習得する。 第3回：観察・実験の技能とレポート作成および科学研究論文の理解 科学的な表現とは何か、客観的な表現とは何か理解できる。観察・実験の技能とは何か理解できる。レポート作成について指導する技術を身につけている。 第4回：理科教育の目標としての単元「自然と人間」			

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、理科教育とESDとの関係性について理解し、具体的に授業案に活かすことができる。

第5回：理科教育の目標としての単元「科学技術と人間」

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、理科教育とESDとの関係性について理解し、具体的に授業案に活かすことができる。

第6回：「いろいろな生物とその共通点」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第7回：「いろいろな生物とその共通点」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第8回：「生物の体のつくりと働き」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第9回：「生物の体のつくりと働き」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第10回：「生命の連続性」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第11回：「生命の連続性」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第12回：「身の回りの物質」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第13回：「身の回りの物質」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第14回：「化学変化と原子・分子」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第15回：「化学変化と原子・分子」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第16回：「化学変化とイオン」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第17回：「化学変化とイオン」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第18回：「身近な物理現象」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第19回：「身近な物理現象」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第20回：「電流とその利用」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。

第21回：「電流とその利用」模擬授業の実践と評価

標記テーマの学習指導案に基づいた模擬授業を実践し、評価できる。また、学習指導案に示された目標の達成を含めた、模擬授業の内容を評価できる。

第22回：「運動とエネルギー」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。学習指導案の中で、アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。

第23回：「運動とエネルギー」模擬授業の実践と評価

標記テーマの単元内容について理解でき、学習指導案に基づいた模擬授業を実施できる。また、ICT機器を活用して具体的に学習活動に活かすことができ、模擬授業を評価できる。

第24回：「大地の成り立ちと変化」単元の理解と板書案の作成

標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。学習指導案の中で、アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。

第25回：「大地の成り立ちと変化」模擬授業の実践と評価

標記テーマの単元内容について理解でき、学習指導案に基づいた模擬授業を実施できる。また、ICT機器を活用して具体的に学習活動に活かすことができ、模擬授業を評価できる。

第26回：「気象とその変化」単元の理解と板書案の作成

<p>標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。学習指導案の中で、アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。</p> <p>第27回：「気象とその変化」模擬授業の実践と評価</p> <p>標記テーマの単元内容について理解でき、学習指導案に基づいた模擬授業を実施できる。また、ICT機器を活用して具体的に学習活動に活かすことができ、模擬授業を評価できる。</p> <p>第28回：「地球と宇宙」単元の理解と板書案の作成</p> <p>標記テーマの単元内容と指導内容を理解でき、効果的な板書案を作成できる。また、本時の目標を立て、学習指導案を作成できる。学習指導案の中で、アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。</p> <p>期末試験は実施しない</p>
<p>テキスト：学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年3月公示 文部科学省）、中学校 理科 1・2・3（検定教科書・出版社不問）、理科便覧（浜島書店）</p>
<p>参考書・参考資料等：理科系の作文技術（木下是雄著；中公新書）、空気の発見（三宅泰雄著；角川ソフィア文庫）、ESD入門（佐藤真久・阿部修編著；筑摩書房）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>全授業の2/3以上の出席があり、かつ、板書案および学習指導案・レポートに未提出がないことを基準として成績を評価する。</p> <p>成績は、模擬授業（40%）、学習指導案（20%）、レポート（20%）、ルーブリックを基本としたリアクションペーパー（20%）により総合的に評価する。</p> <p>試験は行わない。</p> <p>詳細は、初回の講義（オリエンテーション）にて説明する。</p>

授業科目名： 理科教育法2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：横山一郎 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校学習指導要領における理科の内容を理解し、生徒の自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成し評価できる教師としての資質・能力を育てる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校学習指導要領における理科の目標、おもな内容、全体構造について理解している。特に、新学習指導要領における改訂のポイントについて理解できる。 2) 各単元の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 理科の学習評価について、科学的な思考・表現、観察・実験の技能、自然事象について主体的で深い学びの観点から行うことを理解している。 4) 中学校理科との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。 			
<p>授業の概要（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>理科教育法1で学修した内容を発展させ、高等学校学習指導要領における理科の目標と各基礎科目の単元等の内容を理解する。授業の概要は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校学習指導要領解説理科編に示された各単元の内容を理解し、板書案の作成を中心にして、生徒に説明できる力を養う（専門としたい科目について配慮する）。 ・科学的で論理的な思考とは何かを理解し、発問・試験作問できる力を養う。 ・科学的理解を深めるための観察や実験について先行研究を学び、プレゼンテーションする力を養う。 ・学習指導案の立案・模擬授業の実施・評価を行い、理科教育における実践力を養う。 ・探究活動について理解し、生徒に指導できる力を養う。 ・アクティブラーニングの理解を深め、ICT機器を活用できる力を養う。 			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：シラバスに基づき、講義内容を説明する。高等学校学習指導要領と教育課程・授業におけるワークショップの説明</p> <p>年間の授業計画、成績評価の方法、履修上の注意事項、および、学習指導案の作成方法について理解できる。</p> <p>理科教育の目標とESDとの関係性について理解できる。</p> <p>第2回：各科目の概要「科学と人間生活」</p> <p>標記テーマの単元内容を理解できる。</p>			

標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。

標記テーマにおいて、理科教育とESDの関係性について、具体的に学習活動に活かすことができる。

第3回：各科目の概要「物理基礎」・「物理」

高等学校物理基礎と物理の各単元構成と学習内容について理解できる。高等学校の理科授業と、塾・予備校等で行われる学習の差異について理解できる。授業の方法には多様な方法があり、単元や授業の目標によって効果的に使い分ける必要性について理解できる。

第4回：各科目の概要「化学基礎」・「化学」

高等学校化学基礎と化学の各単元構成と学習内容について理解できる。安全な科学実験について、具体的な事例を含めた理解ができる。授業の方法には多様な方法があり、単元や授業の目標によって効果的に使い分ける必要性について理解できる。

第5回：各科目の概要「生物基礎」・「生物」

高等学校生物基礎と生物の各単元構成と学習内容について理解できる。
実験・観察の技能の重要性と、探究活動について理解できる。授業の方法には多様な方法があり、単元や授業の目標によって効果的に使い分ける必要性について理解できる。

第6回：各科目の概要「地学基礎」・「地学」

高等学校地学基礎と地学の各単元構成と学習内容について理解できる。
地球科学のもつ特性と、自然災害との関係性を理解できる。授業の方法には多様な方法があり、単元や授業の目標によって効果的に使い分ける必要性について理解できる。

第7回：物理基礎「物体の運動とエネルギー」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第8回：物理基礎「物体の運動とエネルギー」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第9回：物理基礎「様々な物理現象とエネルギーの利用」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第10回：物理基礎「様々な物理現象とエネルギーの利用」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果

的な発問を作成できる。

第11回：化学基礎「化学と人間生活」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第12回：化学基礎「化学と人間生活」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第13回：化学基礎「物質の構成」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第14回：化学基礎「物質の構成」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第15回：化学基礎「物質の変化」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第16回：化学基礎「物質の変化」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第17回：生物基礎「生物と遺伝子」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第18回：生物基礎「生物と遺伝子」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第19回：生物基礎「生物の体内環境の維持」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第20回：生物基礎「生物の体内環境の維持」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果

的な発問を作成できる。

第21回：生物基礎「生物の多様性と生態系」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第22回：生物基礎「生物の多様性と生態系」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第23回：地学基礎「宇宙における地球」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第24回：地学基礎「宇宙における地球」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第25回：地学基礎「変動する地球」板書案の作成と模擬授業

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、複数の学習アプローチができることを理解できる。標記テーマにおいて、ESDの視点をもって、具体的に学習活動に活かすことができる。

第26回：地学基礎「変動する地球」効果的な発問と問題の作問

標記テーマの単元内容を理解できる。標記テーマにおいて、単元内容について効果的な発問を作成できる。

第27回：ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価 1

アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。ICT機器を活用して、具体的に学習活動に活かすことができる。

第28回：ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価 2

アクティブラーニングの技術と効果について理解できる。ICT機器を活用して、具体的に学習活動に活かすことができる。

期末試験は実施しない

テキスト：高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 理科編（平成30年予定 文部科学省）、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」（検定教科書・出版社不問）

参考書・参考資料等：理科系の作文技術（木下是雄著；中公新書）、ESD入門（佐藤真久・阿部修編著；筑摩書房）

学生に対する評価

全授業の2/3以上の出席があり、かつ、学習指導案・作問案・レポートに未提出がないことを基準として成績を評価する。

成績は、模擬授業（40%）、学習指導案（20%）、レポート（20%）、リアクションペーパー（20%）により総合的に評価する。

試験は行わない。

詳細は、初回の講義（オリエンテーション）にて説明する。

なお、「レポート」については①番に、「プレゼンテーション」については②番に、「科学実験」については③番に、「授業内課題（リアクションペーパー等）」については④番のルーブリックを基本に評価を行う。

授業科目名：情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：塚田恭章
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報技術がもたらす問題点を正しく理解し、現代のネット社会で快適かつ安全に過ごせるようにするために、以下に示す基礎的な知識を身につける：①ネット社会でのモラルとマナー、②個人情報とプライバシー、③知的財産権・著作権、④情報セキュリティ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>予備知識となるコンピュータとインターネットの仕組みを概観した後に、ネット社会でのモラルとマナー（ソーシャルメディアの利用法、情報の信ぴょう性、ネット依存、ネット上の誹謗中傷）、個人情報とプライバシーの保護、知的財産権や著作権、情報セキュリティやコンピュータ犯罪などについて、最新動向を交えて講義する。また、生成AIなど情報技術が急速に進展する中、情報倫理を踏まえたこれらの最新技術の利用法についても一部演習を交えながら解説する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスおよび情報倫理概論</p> <p>第2回：コンピュータとインターネットの仕組み</p> <p>第3回：ネット社会でのモラルとマナー（Ⅰ）（スマートフォン、ソーシャルメディア）</p> <p>第4回：ネット社会でのモラルとマナー（Ⅱ）（情報の信ぴょう性、ネット依存）</p> <p>第5回：ネット社会での生活（Ⅰ）（位置情報、画像・動画の共有）</p> <p>第6回：ネット社会での生活（Ⅱ）（オンライン詐欺、ネット上の誹謗中傷）</p> <p>第7回：個人情報とプライバシー</p> <p>第8回：知的財産権・著作権</p> <p>第9回：情報セキュリティ（Ⅰ）（個人認証）</p> <p>第10回：情報セキュリティ（Ⅱ）（マルウェア、不正アクセス、コンピュータ犯罪）</p> <p>第11回：マスメディアと情報操作</p> <p>第12回：情報倫理と研究倫理</p> <p>第13回：これからの情報倫理（情報倫理を踏まえた生成AIの活用）</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>実教出版編修部(編)：事例でわかる情報モラル&セキュリティ，実教出版（2024）.</p>			

参考書・参考資料等

LMS (manaba)を用いて、適宜、講義資料を配付する。

学生に対する評価

授業ごとの課題・小テスト(50%)，総合演習(50%)

授業科目名：KGUデジタル社会基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉川厚
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>デジタル社会の仕組みと未来を理解し、ICTやAIに関する基礎知識とリテラシーを身につけます。</p> <p>目標は下記の3点。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デジタル社会における基本的な概念（ICT、AI、ネットワーク等）を理解する。 2. 情報セキュリティや権利の問題を含め、ICTやAIを適切に利用するための考えを習得する。 3. デジタル技術がもたらす社会的影響や課題を批判的に分析できる能力を涵養する。 			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル社会の基礎をテーマに、情報社会の発展と技術的な仕組み、AIやネットワーク技術の活用、情報リテラシー、そしてデジタル技術がもたらす社会的影響や課題について学びます。事例や最新トピックを交えて講義します。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスと情報社会の概要 情報社会の歴史をたどり、コンピュータやネット社会が果たしてきた役割を学びます。情報社会の進化がどのように人々の生活や働き方を変えたかを解説します。</p> <p>第2回：コンピュータとネットの仕組み コンピュータの基本構成、ネットワークの仕組み、OSの役割について解説します。実際の技術例を挙げながら、情報処理の基礎を理解します。</p> <p>第3回：AI時代の情報リテラシー AIの種類や機能を紹介し、AIとの適切な付き合い方を学びます。また、メディア情報を主体的に読み解き、フェイクニュースを見分けるための知識を身につけます。</p> <p>第4回：オンラインコミュニティとSNS ソーシャルメディアの特性と社会的影響について議論し、オンラインでの発信やコミュニケーションに必要なリテラシーを学びます。</p> <p>第5回：オープンデータと社会データ オープンデータやビッグデータの活用例を学びます。図書館や博物館のデジタル化、文化資源の保存方法など、社会データの可能性を探ります。</p> <p>第6回：ICTと社会</p>			

ICTがもたらす社会的影響（プライバシーや倫理など）について議論し、ソーシャルメディアとの関係性を理解します。

第7回：AIと権利

生成AIが引き起こす課題や権利問題について学びます。著作権やクリエイティブ・コモンズの概要を通じて、情報利用のルールを理解します。

第8回：情報セキュリティ

情報セキュリティの脅威と対策について、マルウェアやフィッシング詐欺の事例を用いながら学びます。データ保護やクラウドのセキュリティも扱います。

第9回：AI時代の言語

自動翻訳や音声認識技術の仕組みを学び、それらがもたらす新しい表現の可能性と課題を議論します。

第10回：人の特性と情報

エコーチェンバー現象など、情報に対する人間の反応や特性を学びます。これにより、情報リテラシー向上の重要性を理解します。

第11回：情報化と社会の仕組み

情報活用が変えた社会の仕組みや具体的な活用事例について学びます。AIの導入が社会にどのような変化をもたらすのかを探ります。

第12回：アクセシビリティ

高齢者や障がい者に配慮したICT活用方法を学びます。また、デジタルデバイドの現状とその克服に向けた課題について議論します。

第13回：ビジネスとICT

ERPやCRMなどのビジネスシステムの導入事例を学び、ICTが新しい産業を生む可能性について理解を深めます。

第14回：これからの社会

デジタル技術が社会・産業・文化に与える影響を考えます。ICTの倫理的課題を含め、持続可能なデジタル社会を構想します。

定期試験：60分の試験を課す。

テキスト

特に定めず、各回において適宜提示する

参考書・参考資料等

特に定めず、各回において適宜提示する

学生に対する評価

授業においてレポートを課す。また期末試験にて到達度をチェックする。また、関東学院大学における成績評価基準に従う。

授業科目名：プログラミング[アルゴリズム論]	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：塚田恭章、平澤一樹、元木誠、篠原直行、大墨礼子、永長知孝、平野晃昭 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラミングの入門として、アルゴリズムの設計、フローチャートの書き方を通じて、プログラムとは何かということについて理解する。構造化プログラミングにおける基本三要素『逐次処理』『条件分岐処理』『繰り返し処理』を学び与えられた課題に対するアルゴリズムを自ら組み立てられることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アルゴリズムの設計、フローチャートの書き方を通じて、プログラムとは何かということについて理解する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション・プログラム設計の必要性</p> <p>第2回：アルゴリズムの設計1（物事のアルゴリズム化と表現方法）</p> <p>第3回：アルゴリズムの設計2（言葉でのアルゴリズム化とフローチャート）</p> <p>第4回：アルゴリズムの設計3（逐次実行のアルゴリズムと変数）</p> <p>第5回：アルゴリズムの設計4（条件分岐のあるアルゴリズム）</p> <p>第6回：アルゴリズムの設計5（複数の分岐を持つ条件分岐）</p> <p>第7回：アルゴリズムの設計6（多段（入れ子）の条件分岐）</p> <p>第8回：中間確認演習</p> <p>第9回：中間確認演習の振り返り・アルゴリズムの設計7（繰り返しのあるアルゴリズム）</p> <p>第10回：アルゴリズムの設計8（繰り返しと配列の考え方）</p> <p>第11回：アルゴリズムの設計9（繰り返しと条件分岐）</p> <p>第12回：アルゴリズムの設計10（複数回の繰り返しの入ったアルゴリズム）</p> <p>第13回：アルゴリズムの設計11（総合演習）・これまでの振り返り</p> <p>第14回：期末確認演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>紙とえんぴつで学ぶアルゴリズムとフローチャート（岩松洋 著）日経BP</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

なし

学生に対する評価

授業内課題（50%）、授業外課題（10%）、中間確認演習（20%）、期末確認演習（20%）

授業科目名：人工知能 演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：元木誠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 人工知能に関する基本的な技術を修得し，ExcelおよびJavaで簡単な課題を解決できるようになる。			
授業の概要 人工知能はさまざまな分野で応用されている。本講義では知能情報学における人工知能を扱い，基本的な技術であるニューラルネットワーク，強化学習，遺伝的アルゴリズムについて解説するとともに，ExcelおよびJavaを用いて演習する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：ガイダンス，知能情報・関連研究の紹介，Javaの実行環境の準備，エクセルの動作確認 第2回：ニューラルネットワーク（1）ニューロンの基本構造，ニューロンのモデル化，ニューロンによる論理関数の実現について理解する。 第3回：ニューラルネットワーク（2）パーセプトロンによるAND関数の学習について理解する。 第4回：ニューラルネットワーク（3）パーセプトロンによるTCLX文字認識，Javaによるパーセプトロンのアルファベット認識について理解する。 第5回：ニューラルネットワーク（4）Javaによるパーセプトロンのアルファベット認識，数字認識について理解する。 第6回：ディープラーニング ディープラーニングで手書き文字を認識するシステムを構築する。 第7回：強化学習（1）強化学習概論，強化学習モデル，エージェントの方策と状態価値関数，強化学習の方法論について理解する。 第8回：強化学習（2）強化学習を用いた迷路探索問題の解法について理解する。 第9回：強化学習（3）強化学習手法の評価の仕方について理解する。 第10回：強化学習（4）強化学習に関連する演習に取り組む。 第11回：遺伝的アルゴリズム（1）遺伝的アルゴリズムの原理，遺伝的アルゴリズムの流れ，遺伝的アルゴリズムによる簡単関数の最小化について理解する。 第12回：遺伝的アルゴリズム（2）ルーレット選択の導入方法について理解する。 第13回：遺伝的アルゴリズム（3）遺伝的アルゴリズムによるナップサック問題の解法について理解する。 第14回：まとめと総合演習			

定期試験
テキスト 大堀隆文，木下正博，西川孝二 著「例題で学ぶ 知能情報入門」コロナ社
参考書・参考資料等 LMSを用いて，適宜，資料および演習用ソースプログラム等を配付する。
学生に対する評価 課題提出状況：50%，定期試験の成績：50%

授業科目名：コンピュータアーキテクチャ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：塚田恭章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンピュータハードウェアについて学び、以下に示す基礎的な知識を修得する：①データの表現、②プロセッサアーキテクチャ、③メモリアーキテクチャ、④システムの性能指標・信頼性評価、⑤オペレーティングシステム（OS）とミドルウェア。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>数値やデータの表現についての振り返りの後に、演算回路・レジスタ・メモリ・バス・I/Oなど基本的なハードウェア構成方式とパイプライン・マルチプロセッサなどの高性能化アーキテクチャ、続いてクライアントサーバシステム・RAIDなどシステム構成方式とシステムの性能指標・信頼性評価、最後にOSのタスク管理・記憶管理やミドルウェアについて、講義する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスおよびコンピュータアーキテクチャ概論</p> <p>第2回：データの表現（2進数・10進数）</p> <p>第3回：文字の表現・集合と論理演算・加算器</p> <p>第4回：CPUの構成・動作の仕組み</p> <p>第5回：CPUの性能・高速化技術</p> <p>第6回：記憶階層・メモリの種類と高速化技術</p> <p>第7回：補助記憶装置</p> <p>第8回：バスのアーキテクチャ・入出力インタフェース</p> <p>第9回：システムの構成・クライアントサーバシステム・RAID</p> <p>第10回：システムの性能指標・信頼性評価</p> <p>第11回：OSの種類・機能・タスク管理</p> <p>第12回：OSの記憶管理・ネットワーク管理</p> <p>第13回：ミドルウェア・ファイルシステム</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>基本情報技術者試験対策テキスト，FOM出版（2023）.</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

LMS (manaba)を用いて、適宜、講義資料を配付する。

学生に対する評価

授業ごとの課題・小テスト(50%)，総合演習(50%)

授業科目名：ロボット インテリジェンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：元木誠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知能ロボットの基礎から応用までを学び、特に人工知能を活用したロボットの行動制御についての理解を深めることを目的とする。ロボット技術の歴史を学び、反応行動・計画行動・適応行動・協調行動の違いを理解するとともに、機械学習を用いた各種行動の実現方法を修得することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>周囲の情報をもとに自分で考え行動するロボットのことを知能ロボットといい、人工知能を搭載している。この講義では、①ロボット技術の歴史と今後について、②反応行動、計画行動、適応行動、協調行動の違いについて、③機械学習を用いて各行動を実現するための手法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスおよびロボット技術の歴史と今後のロボット技術の研究について理解する。</p> <p>第2回：知能ロボットの基本構成（1）知能ロボットの定義、基本構成および応用分野について理解する。</p> <p>第3回：知能ロボットの基本構成（2）知的行動の種類について理解する。</p> <p>第4回：反応行動のための知能（1）感覚運動システムとニューラルネットワークについて理解する。</p> <p>第5回：反応行動のための知能（2）行動の単位と行動の分解・モジュール化について理解する。</p> <p>第6回：反応行動のための知能（3）行動パターンと行動モジュールの階層について理解する。</p> <p>第7回：反応行動のための知能のまとめと理解度確認演習</p> <p>第8回：計画行動のための知能（1）環境地図の構築法、自己位置同定手法について理解する。</p> <p>第9回：計画行動のための知能（2）行動計画・探索のための空間表現法を理解する。</p> <p>第10回：計画行動のための知能のまとめと理解度確認演習</p> <p>第11回：適応行動のための知能（1）学習の種類とニューラルネットワークの学習について理解する。</p> <p>第12回：適応行動のための知能（2）強化学習について理解する。</p>			

第13回：適応行動のための知能（3） 遺伝的アルゴリズムについて理解する。

第14回：適応行動のための知能のまとめと理解度確認演習

定期試験

テキスト

なし。LMSを用いて適宜，講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

浅田 稔，國吉康夫「ロボットインテリジェンス」岩波書店，有本 卓「知能科学ーロボットの“知”と“巧みさ”ー」コロナ社

学生に対する評価

理解度確認演習（3回）：30%，レポート（10回）：30%，定期試験：40%

授業科目名：数値解析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大墨礼子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
数値解析は、自然科学および工学のあらゆる分野で応用されている情報科学の中でも重要な分野である。本講義ではコンピュータでの数の扱いおよび誤差について理解し、そのメカニズムが理解する、また数値計算の各アルゴリズムを理解し、計算が可能になることを目標とする。			
授業の概要			
数値解析における基本的概念から微分方程式、積分、非線形方程式の数値的解法と解の解析について講義する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：オリエンテーション・数の表現と誤差			
第2回：行列の演算及び線形方程式の数値解法（1）（行列の基本演算・逆行列・行列式）			
第3回：行列の演算及び線形方程式の解法（2）（線形連立方程式の解法）			
第4回：積分の数値解法			
第5回：常微分方程式の数値解法（1）（一段法）			
第6回：常微分方程式の数値解法（2）（多段法）			
第7回：中間演習			
第8回：偏微分方程式の数値解法（1）（陽解法）			
第9回：偏微分方程式の数値解法（1）（陰解法）			
第10回：非線形方程式の解法（1）（一変数方程式の解法）			
第11回：非線形方程式の解法（2）（多変数方程式の解法）			
第12回：データ解析と補間（1）（近似アルゴリズム）			
第13回：データ解析と補間（2）（補間）			
第14回：まとめと総合演習			
定期試験は実施しない			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			
数値解析（E・クライツィグ著）培風館			
学生に対する評価			
中間演習（50%）、総合演習（50%）			

授業科目名：情報システム論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：塚田恭章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代において多種多様なITシステムがビジネスや社会の現場でどのように活用されているかを概観し、デジタル化やデジタルトランスフォーメーション（DX）をさらに推進できるようにするために、以下に示す基礎的な知識を身につける：①デジタル化やDXが目指すもの、②デジタル化やDXを支える具体的なITインフラストラクチャー、③デジタル化やDXの最新動向。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>デジタル化やDXの意味、そしてそれらを支える具体的なITインフラストラクチャー（仮想化・クラウド・IoT）、さらにそれらの最新動向（深層学習、生成AI、ブロックチェーン、メタバース）について、講義する。毎回課題を提示し、学生はITシステムのビジネスや社会での活用事例を自主的に調査する。本講義においては、講義時間の約半分を学生による調査結果のプレゼンテーションとディスカッションにあてる。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスおよびITシステム概論</p> <p>第2回：デジタルの基礎知識（デジタイゼーションとデジタルイゼーション）</p> <p>第3回：DX／デジタル・トランスフォーメーション</p> <p>第4回：ITインフラストラクチャー（SDI）</p> <p>第5回：クラウド・コンピューティング（SaaS、PaaS、IaaS）</p> <p>第6回：サイバー・セキュリティ（FIDO2認証、パスキー認証）</p> <p>第7回：IoT／モノのインターネット（Cyber-Physical System）</p> <p>第8回：AI／人工知能（Ⅰ）（機械学習）</p> <p>第9回：AI／人工知能（Ⅱ）（生成AI）</p> <p>第10回：AI／人工知能（Ⅲ）（データサイエンス）</p> <p>第11回：開発と運用（API）</p> <p>第12回：いま注目しておきたいテクノロジー（Ⅰ）（ブロックチェーン）</p> <p>第13回：いま注目しておきたいテクノロジー（Ⅱ）（XR・メタバースと量子コンピュータ）</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			

齋藤昌義：【図解】コレ1枚でわかる最新ITトレンド [増補改訂5版]，技術評論社（2024）.

参考書・参考資料等

LMS（manaba）を用いて，適宜，講義資料を配付する。

学生に対する評価

授業ごとの課題提出およびプレゼンテーション（80%），総合演習（20%）

授業科目名： 人間・脳情報学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：簗 弘幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 人工知能は、ヒトの脳の構造と機能を模倣した技術であり、脳科学を礎に発展してきた。本講義では、脳の計算モデルを理解するために、脳の構造と機能のいろはを学ぶ。各回の授業において、内容をしっかり理解することを到達目標とする。			
授業の概要 「脳の計算モデル」、「神経の計算モデル」、「大脳辺縁系、大脳基底核の計算モデル」、「脳深部刺激療法のための計算モデル」をキーワードに学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：講義概要と学習のポイント 第2回：脳の全体像、発生、細胞 第3回：大脳、間脳、小脳、脳幹 第4回：脳の計算モデル 第5回：神経の分類、脳神経、脊髄神経、自律神経 第6回：運動神経、体性感覚、特殊感覚 第7回：神経の計算モデル 第8回：総合演習、理解度確認 第9回：記憶、学習 第10回：感情、思考、ストレス反応、睡眠 第11回：大脳辺縁系、大脳基底核の計算モデル 第12回：脳の検査、脳神経疾患、精神疾患・障害 第13回：脳深部刺激療法のための計算モデル 第14回：総合演習、定期試験			
テキスト ぜんぶわかる 脳の辞典（坂井建雄、久光正監修、成美堂出版）			
参考書・参考資料等 特に指定しない。毎回資料を配布する			
学生に対する評価 定期試験の成績：45% 理解度確認の成績：45% その他：10%			

授業科目名：オペレーティングシステム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大墨礼子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンピュータだけでなく携帯端末の普及で、オペレーティングシステムは使用はしているが意識して何かをすることは少ない。本講義ではオペレーティングシステムの主要概念や動作原理の基本を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>オペレーティングシステムとは何か、また主要な概念や基本的な仕組みについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション・オペレーティングシステムの役割と構造</p> <p>第2回：ユーザインタフェース</p> <p>第3回：API</p> <p>第4回：OSの構成</p> <p>第5回：ファイル管理</p> <p>第6回：プロセス管理（1）（概念・OS内部の実現方法及び実行制御方式）</p> <p>第7回：プロセス管理（2）（排他制御・事象の連絡機能およびプロセス間通信）</p> <p>第8回：メモリ管理</p> <p>第9回：仮想メモリ（1）（仮想メモリの概念）</p> <p>第10回：仮想メモリ（2）（仮想メモリの制御の仕組み）</p> <p>第11回：ネットワークの制御</p> <p>第12回：セキュリティと信頼性</p> <p>第13回：システムの運用管理</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>オペレーティングシステム（野口健一郎・光来健一・品川高廣 著）オーム社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業ごとの課題・小テスト(60%)，総合演習（40%）</p>			

授業科目名：データベース	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大墨礼子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大量の情報をデータベース化することにより、効率よく必要な情報を検索・処理・利用することに関する方法を学び、そのためのデータベースシステムの設計の基礎について学ぶ。特に、リレーショナルデータベースシステムの基本的な操作について理解を深める。データベースの本質、データベース利用への認識を高め、データベースの実際の操作をも経験することにより、より高度な知識、経験のための足がかりとすることを本科目の到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>効率よく必要な情報を検索・処理・利用することに関する方法を学び、そのためのデータベースシステムの設計の基礎について学ぶ。特に、リレーショナルデータベースシステムの基本的な操作について理解を深める。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション・データベースと表計算ソフトウェア</p> <p>第2回：データベースの基礎（関係代数）</p> <p>第3回：データモデル</p> <p>第4回：データベースの設計</p> <p>第5回：データベースの正規化</p> <p>第6回：データベース管理システムと格納構造</p> <p>第7回：データベースの最適化</p> <p>第8回：データベースシステム実習（1）（SQLの基礎）</p> <p>第9回：まとめと中間確認演習</p> <p>第10回：データベースシステム実習（2）（SELECT句・条件文）</p> <p>第11回：データベースシステム実習（3）（SELECT句・複数の条件文）</p> <p>第12回：データベースシステム実習（4）（表の結合）</p> <p>第13回：データベースシステム実習（5）（複数の表の結合・表の定義）</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は行わない</p>			
<p>テキスト</p> <p>楽しく学べるデータベース（川越恭二 著）共立出版</p>			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回の授業課題(60%)、中間確認演習(20%)、期末確認演習(20%)

授業科目名：ネットワーク工学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永長 知孝
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現在のインターネットを支えるTCP/IPアーキテクチャと各種プロトコルの仕組みと動作を理解する。特にIP、TCP、UDPと各種アプリケーションプロトコルについて、ネットワーク上での振る舞いが説明できるようにする。また、IPアドレスの構造やネットワークへの割り振り方法についても理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報通信システムで中心的な役割を果たすコンピュータネットワークでは、コンピュータは通信プロトコルに従って情報交換を行っている。本講義では、インターネットで用いられるプロトコル、すなわち、TCP/IPを中心とした現在利用されているネットワークプロトコルについて学習する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：シラバスに基づく講義内容の説明・コンピュータネットワークの基礎 本講義の履修内容を把握する。コンピュータネットワークの概要と歴史、構成について理解する。</p> <p>第2回：ネットワークアーキテクチャとプロトコル ネットワークアーキテクチャとプロトコルの基本的な階層について理解する。</p> <p>第3回：物理層、データリンクの基礎 通信を伝送する媒体、機器や接続方式について理解する。</p> <p>第4回：各種データリンク イーサネット他の各種データリンクについて理解する。</p> <p>第5回：ネットワーク層、インターネットプロトコル(IP)の基礎 ネットワーク層の役割とIPの基礎について理解する。</p> <p>第6回：インターネットプロトコル IPの役割、動作とIPアドレス、サブネットマスク、アドレス割り当て方法について理解する。</p> <p>第7回：理解度確認演習 講義前半の内容のまとめ・理解度の確認を行う。</p> <p>第8回：IP関連プロトコル ICMP、ARP等のIP関連プロトコルとその動作について理解する。</p>			

第9回：トランスポート層の基礎とユーザデータグラムプロトコル(UDP)

トランスポート層の役割とUDPについて理解する。

第10回：トランスミッションコントロールプロトコル(TCP)

TCPの役割、動作と信頼性の向上手法について理解する。

第11回：ネットワークアプリケーション

インターネットにおけるネットワークアプリケーションとそのプロトコル、動作について理解する。

第12回：経路制御プロトコル

経路制御の基礎と各種経路制御プロトコルについて理解する。

第13回：ネットワークセキュリティの基礎

ネットワークセキュリティの基礎について理解する。

第14回：まとめ

講義後半のまとめ・理解度の確認を行う。

定期試験

テキスト

マスタリングTCP/IP 入門編(第6版)(または最新版) オーム社

ISBN: 978-4-274-22447-8

参考書・参考資料等

講義関連資料はLMSにより適宜配布する

学生に対する評価

理解度確認演習：30%、定期試験：50%、小テスト・レポート：20%

授業科目名：IoT基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：平澤一樹
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
IoTの基礎技術を学ぶとともに、実機を用いて実際の動作について学び、簡単なIoT装置の作成ができるようになることを目標とする。			
授業の概要			
IoTはハードウェア、ネットワーク、ソフトウェアといった複数の分野の基礎知識が必要である。さらにセンサや電子回路の基礎知識を実機を用いて実際の動作について学ぶとともに、これまでの科目の必要性と応用について学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンスおよびソフトウェアのアプリケーション 本科目の内容を理解するとともに、電気電子回路、プログラミング、ネットワーク工学の内容を復習し、理解する。また、マイコンプログラミング環境を構築する。			
第2回：ESP32のプログラミング ESP32を用いたLチカおよびシリアル通信を実行し、その内容を理解する。			
第3回：光センサとAD変換 光センサの仕組みについて簡単に理解するとともに、AD変換のプログラミングについて理解し、光センサを用いた回路およびAD変換プログラムの作成を行う。			
第4回：温度センサと湿度センサ 温度センサと湿度センサの仕組みについて簡単に理解し、温度センサと湿度センサを用いた回路およびプログラムの作成を行う。			
第5回：圧力センサと超音波センサ 圧力センサと超音波センサの仕組みについて簡単に理解し、圧力センサと超音波センサを用いた回路およびプログラムの作成を行う。			
第6回：ガスセンサと味覚センサ、I2C通信 ガスセンサと味覚センサの仕組みについて簡単に理解するとともにI2C通信についても簡単に理解し、ガスセンサと味覚センサを用いた回路およびプログラムの作成を行う。			
第7回：加速度センサとジャイロセンサ 加速度センサとジャイロセンサの仕組みについて簡単に理解し、加速度センサとジャイロセンサを用いた回路およびプログラムの作成を行う。			

第8回：その他のセンサ

これまでに紹介していないセンサの仕組みについて簡単に紹介し、回路およびプログラムの作成を行う。

第9回：PWM出力とサーボモータ

PWM出力の仕組みとサーボモータについて簡単に理解し、回路およびプログラムの作成を行う。

第10回：Bluetooth

Bluetoothについて簡単に紹介し、PCとESP32のBluetooth通信のプログラムを作成し、動作を確認する。

第11回：Webサーバ

Webサーバについて簡単に紹介し、ESP32を用いたWebサーバを構築し、動作を確認する。

第12回：データ分析とWebサーバ

IoT機器により得られたデータを分析する手法についていくつか紹介するとともに、ESP32を用いたWebサーバを構築し、動作を確認する。

第13回：IoTのネットワーク

IoTのネットワークについて紹介する。

第14回：まとめ

これまでの授業の内容を振り返る。

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

IoT技術テキスト第3版（モバイルコンピューティング推進コンソーシアム著、ISBN:4865942777）

学生に対する評価

授業中に作成したプログラムおよびレポート

授業科目名：信号処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：水井 潔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
様々な信号を分析し、それらに目的に沿った操作や変換を施す「信号処理」の基本事項を学び、「信号処理」の重要事項を理解することを到達目標とする。			
授業の概要			
連続時間信号処理のためのフーリエ級数展開，フーリエ変換及びラプラス変換と離散時間信号処理のためのDTFTとDFT, FFT及びz変換，並びにこれらを利用したシステムの解析方法を学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス，信号と信号処理			
第2回：信号とシステム			
第3回：連続時間信号の解析（1）～フーリエ級数～			
第4回：連続時間信号の解析（2）～フーリエ変換～			
第5回：連続時間信号の解析（3）～ラプラス変換～			
第6回：前半部総合演習			
第7回：前半部まとめと第1回実力確認テスト			
第8回：サンプリング			
第9回：離散時間信号の解析（1）～DTFT～			
第10回：離散時間信号の解析（2）～DFTとFFT～			
第11回：離散時間信号の解析（3）～z変換～			
第12回：システムの解析			
第13回：後半部総合演習			
第14回：後半部のまとめと第2回実力確認テスト			
定期試験			
テキスト			
特に指定しない			
参考書・参考資料等			
特に指定しない。毎回資料を公開する			
学生に対する評価			
演習得点 20% 実力確認テストまたは期末テストの得点 80%			

授業科目名：情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：塚田恭章
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報セキュリティ上の脅威を正しく理解し、適切な対策を講じられるようにするために、以下に示す基礎的な知識を身につける：①暗号技術の基礎と応用、②さまざまなサイバー攻撃の事例、③プライバシー保護の技法</p>			
<p>授業の概要</p> <p>必須の予備知識となるネットワークとコンピュータの仕組みの振り返りの後に、暗号技術の基礎と応用（共通鍵暗号、公開鍵暗号、電子署名、PKI、SSL/TLS）、さまざまなサイバー攻撃の事例（マルウェア、DDoS、標的型攻撃、XSS、SQLインジェクション、CSRF、サイドチャネル攻撃）、情報セキュリティ関連の法律、プライバシー保護・匿名化技法について、最新動向を交えて講義する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンスおよび情報セキュリティの3大要素（C, I, A）</p> <p>第2回：インターネットの仕組み（7つの階層とTCP/IP）</p> <p>第3回：インターネットの仕組み（DNS, HTTP, SMTP, POP, IMAP）</p> <p>第4回：暗号の世界へ飛び込もうⅠ（共通鍵暗号：DES, AES）</p> <p>第5回：暗号の世界へ飛び込もうⅡ（公開鍵暗号：DH鍵送、RSA暗号）</p> <p>第6回：インターネットとセキュリティⅠ（電子署名, PKI）</p> <p>第7回：インターネットとセキュリティⅡ（SSL/TLS）</p> <p>第8回：サイバー攻撃Ⅰ（マルウェア, DDoS, 標的型攻撃）</p> <p>第9回：サイバー攻撃Ⅱ（ドライブバイダウンロード, XSS, SQLインジェクション）</p> <p>第10回：サイバー攻撃Ⅲ（遠隔操作ウイルスとCSRF, Tor, サイドチャネル攻撃）</p> <p>第11回：私たちを取り巻くセキュリティ（情報セキュリティと法律）</p> <p>第12回：プライバシー保護：匿名化技術と法制度</p> <p>第13回：ホットトピック（ブロックチェーン, フォーマルメソッド）</p> <p>第14回：まとめと総合演習</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>猪俣 敦夫：サイバーセキュリティ入門：私たちを取り巻く光と闇，共立出版（2016）。</p>			

参考書・参考資料等

LMS (manaba)を用いて、適宜、講義資料を配付する。

学生に対する評価

授業ごとの課題・小テスト(50%)，総合演習(50%)

授業科目名：ヒューマンコンピュータインタラクション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉川厚
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）の基礎と応用を理解し、教育現場や社会でのデザインや評価に活かせる知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンコンピュータインタラクションに関する基本的な概念を理解する。 2. 教育現場や社会におけるインタフェースの設計・評価の考え方を養う。 3. 人間中心設計（HCD）の原則を基に、対象に適したインタラクションデザインを提案できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>HCIの基本的な理論や原則を学び、教育現場や日常生活における具体的なインタラクション設計・評価手法を学びます。GUI（グラフィカルユーザインタフェース）や音声・タッチなどの多様なインタフェースを取り上げ、実習を交えて学びます。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>HCIの基本的なテーマを説明し、日常のインタフェースの観察を通じて課題点を見出し、デザイン改善の視点を養います。</p> <p>第2回：人間の特性を理解する</p> <p>HCIにおいて重要な人間の情報処理モデルを学びます。教育現場での学習者の特性を考慮したインタラクションデザインについて議論します。</p> <p>第3回：生体計測とデータ活用</p> <p>多様な生体データ（運動、安静時など）の取得方法を学び、それを利用した教育用デバイス設計の可能性を考察します。</p> <p>第4回：色と視覚デザイン</p> <p>人間の視覚効果を活かしたインタフェース設計の基本を学び、色彩を使った教育ツールのデザイン事例を分析します。</p> <p>第5回：ヒューマンエラーとその防止</p> <p>ヒューマンエラーの要因とその対策を学びます。教育現場における安全なインタラクションデザインを考えます。</p> <p>第6回：ハードウェアとインタフェース</p>			

ハードウェアにおける入力・出力デバイスの特性を理解し、それらを教育用システムにどう適用できるか議論します。

第7回：ソフトウェア設計の基礎

GUIやユニバーサルデザイン（UD）の基本を学び、教育におけるアクセシビリティの高いソフトウェア設計を検討します。

第8回：HCIと認知構造

教育に適した「良いデザイン」の認知科学的側面を学び、直感的に使える教育用デザインの要素を探ります。

第9回：HCI設計の原則

デザイン原則を学び、教育現場で利用可能な具体的な設計事例に基づいて、学習支援ツールを考案します。

第10回：定量的評価手法

人間の行動モデルと測定方法について学び、教育システムの設計や改善に役立つ評価手法を学びます。

第11回：ヒューリスティック評価

HCIの評価手法を学び、教育現場に適用可能な評価基準を作成します。実際のインタラクション事例を評価します。

第12回：Webヒューリスティクス

Webを活用したインタラクションの設計を学び、教育現場でのオンライン学習ツールのデザインに活用します。

第13回：ユーザーテストと評価

教育現場向けデザインのユーザーテストを実施し、評価結果を基に改良案を検討します。

第14回：グループデザイン

グループでインタフェースを設計・発表します。受講者間で評価とフィードバックを行います。

定期試験：試験は課さず、期末レポートとしてHCDに基づく改良デザインとする。

テキスト

玉城 絵美：新しいヒューマンコンピュータインタラクションの教科書 基礎から実践まで（講談社(2023)）

参考書・参考資料等

- ・米村俊一：ヒューマンコンピュータインタラクション（コロナ社(2021)）
- ・黒須正明：HCDライブラリー・シリーズ（近代科学社(2016)）

学生に対する評価

授業の中で行う実践や期末レポートにて、どれだけ身についたのかを評価する。

授業科目名：メディア論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：高橋光輝
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの基本的な概念と歴史的背景を理解できる ・情報メディア技術の基礎を学び、それが社会や文化に与える影響を考察できる ・メディアがもたらす課題について理解し、批判的に分析できる 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、メディアに関する技術、表現方法を歴史的な流れに沿って解説する。また、メディアが社会の要請によってどのように変化してきたのか。メディアの社会的課題や未来についても履修者と議論する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス，メディアとは何か，メディアの定義と役割</p> <p>第2回：メディアコミュニケーションの意味</p> <p>第3回：印刷メディア：活版印刷と社会的役割</p> <p>第4回：電話の誕生と通信技術の進化</p> <p>第5回：放送メディアの進化：ラジオ・テレビの歴史，ジャーナリズムとマスメディアの役割</p> <p>第6回：映画の歴史と文化的影響</p> <p>第7回：コンピュータの誕生とパーソナルコンピューティングの概念</p> <p>第8回：MITメディアラボの研究とApple Macintoshの登場</p> <p>第9回：インターネットの普及とデジタル化の進展</p> <p>第10回：スマートフォンの登場と情報社会への影響</p> <p>第11回：メディアリテラシー：情報の評価と批判的思考の重要性</p> <p>第12回：デジタルメディアの倫理：バイアス，プライバシー，フェイクニュースなどの課題</p> <p>第13回：課題発表とフィードバック</p> <p>第14回：授業のまとめと振り返り</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>LMSを用いて，適宜，資料等を配付する。</p>			

学生に対する評価

平常点評価 50% プレゼンテーション 50%

平常点評価：評価基準

リアクションペーパーと主体的な学習姿勢（発言，傾聴，発表など）

プレゼンテーション評価：評価基準

内容のオリジナリティ，論理的な展開，プレゼンテーションの妥当性

授業科目名：コンテンツ産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋光輝
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のコンテンツ産業の現状，法制度，産業構造，ビジネスモデルを理解できる ・コンテンツ産業の国際的な動向や競争環境を理解し，日本のコンテンツ産業の強みと課題を考察できる ・創造性や表現力の重要性を認識し，自らのコンテンツ創作・発信・利用に活かすことができる 			
<p>授業の概要</p> <p>コンテンツ産業の歴史や現状を概観し，主要なコンテンツ分野（映像，音楽，ゲーム，出版など）の特徴や動向を解説する。ビジネスモデルや戦略，創造性について理解し，自らの企画の構想を立てられることを目指す。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス，コンテンツとは何か，コンテンツをめぐる最新の社会変化</p> <p>第2回：日本のコンテンツ産業について—成立過程と発展経緯，市場概況，発展に向けた可能性</p> <p>第3回：日本のコンテンツ産業の構造とビジネスモデル</p> <p>第4回：映画産業の市場規模，流行変遷，産業構造，ビジネスモデル</p> <p>第5回：映画産業の現状分析—地上波放送局コンテンツと視聴方式のオプション化</p> <p>第6回：アニメーション産業の市場規模，流行変遷，産業構造，ビジネスモデル</p> <p>第7回：アニメーション産業の現状分析（米国）—ハリウッド映画製作方式とメディア・コングロマリット</p> <p>第8回：ゲーム産業の市場規模，流行変遷，産業構造，ビジネスモデル，</p> <p>第9回：ゲーム産業の現状分析（米国）—ゲームジャンルと嗜好性</p> <p>第10回：出版産業の市場規模，流行変遷，産業構造，ビジネスモデル</p> <p>第11回：音楽産業の市場規模，流行変遷，産業構造，ビジネスモデル</p> <p>第12回：デジタルコンテンツの潮流—VR/AR/MR/XRの世界</p> <p>第13回：課題発表とフィードバック</p> <p>第14回：授業のまとめと振り返り</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

「新たな局面を迎えたコンテンツビジネス 日本のコンテンツ産業の現状と課題」

ポーンデジタル

著者：高橋 光輝／齊藤 昌幸

ISBN：9784844379836

参考書・参考資料等

LMSを用いて、適宜、資料等を配付する。

学生に対する評価

平常点評価 50% プレゼンテーション 50%

平常点評価：評価基準

リアクションペーパーと主体的な学習姿勢（発言、傾聴、発表など）

プレゼンテーション評価：評価基準

内容のオリジナリティ、論理的な展開、プレゼンテーションの妥当性

授業科目名： 情報科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：北島 茂樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校学習指導要領に示された情報科の目標や内容を理解するとともに、授業作りや評価の方法について考えることを通して、実践的な指導力を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高等学校情報科において、学習指導要領に示された目標や内容を踏まえた実践を行うことができるよう、授業作りや指導方法、評価について、教材研究や模擬授業を行いながら具体的に考えていく。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：情報科教育法の概要</p> <p>第2回：情報科の成立と学習指導要領における情報科の位置づけ</p> <p>第3回：共通科目情報科の目標と内容、その取り扱い</p> <p>第4回：情報Ⅰの教材研究1（情報社会の問題解決）</p> <p>第5回：情報Ⅰの教材研究2（コミュニケーションと情報デザイン）</p> <p>第6回：情報Ⅰの教材研究3（コンピュータとプログラミング）</p> <p>第7回：情報Ⅰの教材研究4（情報通信ネットワークとデータの活用）</p> <p>第8回：情報Ⅱの教材研究1（情報社会の進展と情報技術）</p> <p>第9回：情報Ⅱの教材研究2（コミュニケーションとコンテンツ）</p> <p>第10回：情報Ⅱの教材研究3（情報とデータサイエンス）</p> <p>第11回：情報Ⅱの教材研究4（情報システムとプログラミング）</p> <p>第12回：情報Ⅱの教材研究5（情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究）</p> <p>第13回：専門科目情報科の目標と内容、その取り扱い</p> <p>第14回：情報科の指導法1（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）</p> <p>第15回：情報科の指導法2（情報モラルの育成と情報機器の活用）</p> <p>第16回：情報科における指導計画と学習指導案作成</p> <p>第17回：情報科における学習評価</p> <p>第18回：模擬授業の構想と検討1（情報Ⅰ：情報社会の問題解決）</p> <p>第19回：模擬授業の構想と検討2（情報Ⅰ：コミュニケーションと情報デザイン）</p> <p>第20回：模擬授業の構想と検討3（情報Ⅰ：コンピュータとプログラミング）</p> <p>第21回：模擬授業の構想と検討4（情報Ⅰ：情報通信ネットワークとデータの活用）</p> <p>第22回：模擬授業の構想と検討5（情報Ⅱの内容）</p>			

第23回：模擬授業の実施と協議1（情報Ⅰ：情報社会の問題解決） 第24回：模擬授業の実施と協議2（情報Ⅰ：コミュニケーションと情報デザイン） 第25回：模擬授業の実施と協議3（情報Ⅰ：コンピュータとプログラミング） 第26回：模擬授業の実施と協議4（情報Ⅰ：情報通信ネットワークとデータの活用） 第27回：模擬授業の実施と協議5（情報Ⅱの内容） 第28回：まとめと総合課題
テキスト 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編（文部科学省，開隆堂出版）
参考書・参考資料等 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 情報（国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社） 実践事例で学ぶ生成AIと創る未来の教育（小原豊・金児正史・北島茂樹 編，東洋館出版社） その他，授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 授業における課題（30%），学習指導案と模擬授業（30%），総合課題（40%）

授業科目名：教職実地 体験（指導を含む）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 細谷（松山） 早里 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本学が提携する教育機関で行われているボランティア活動に、ある一定期間、積極的かつ継続的に原則として計30時間以上参加した学生に対して、諸報告を審査した上で単位として認定する科目である。</p> <p>この科目を履修するに際し、科目担当教員もしくは各学部の教職担当専任教員との個人的面談および参加に必要とされる事前説明会に出席することを義務付ける。また、活動継続期間やその前後において、担当教員が指導や助言を随時与える。</p> <p>活動を行うための事前の準備（十分な知識、精神的準備）は活動そのものと同様に重要である。十分な準備を行った上で、活動を行い、活動を行っていくプロセスで課題を見つけていく。さらに、活動後には振り返り報告会を行い、自らが見つけた課題や問題を吟味し、それらを解決、改善するにはどうすべきかということについて考え、報告し合う。これによりさらに学びを深めていくという態度を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、教職を志望する学生が実際の教育現場の状況やそこに要求される資質・能力を知り、児童生徒を支援することの喜びを実体験として捉えながら、学校教育について理解を深めることが重要視されている。この授業の目的は、上記の活動を希望する学生に対して本学が提携する教育機関で行われているボランティア活動を有意義な実践の場として提供することである。特に、その活動に指導や支援を与え、学生自身の活動や学習のふりかえりを促し、より有意義な活動に導くことを目標とする。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：シラバスに基づき内容と進め方を説明する。</p> <p>事前学習</p> <p>履修申請および該当するボランティア活動の募集状況等の説明。活動に従事する際の留意事項等の説明。個人面談。活動の心構えを確認する。</p> <p>第2回：ボランティア活動を統括もしくはその実践の場となる教育機関での説明会に参加</p> <p>参加する活動について十分な知識を持つ</p> <p>第3回：実際の活動、および教員による指導・助言（観察、原則の把握）</p> <p>活動を始めての感想や、課題を記録する。</p> <p>第4回：実際の活動、および教員による指導・助言（実施、報告）</p>			

<p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第5回：実際の活動、および教員による指導・助言（反省を踏まえての実施、報告）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第6回：実際の活動、および教員による指導・助言（実施、初段階のまとめ）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第7回：実際の活動、および教員による指導・助言（初段階のまとめを踏まえての実施、報告）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第8回：実際の活動、および教員による指導・助言（新しい視点を踏まえて）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第9回：実際の活動、および教員による指導・助言（前回は踏まえての実施、報告）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第10回：実際の活動、および教員による指導・助言（周囲との関係性を考える）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第11回：実際の活動、および教員による指導・助言（実施、第二段階のまとめ）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第12回：実際の活動、および教員による指導・助言（更なる発展を考える）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第13回：実際の活動、および教員による指導・助言（最終段階のまとめ）</p> <p>活動を行う中での日々の出来事を記録し、課題、問題点を記録する。</p> <p>第14回：ふりかえり報告会</p> <p>報告のまとめ、レポートの提出および個人面談</p> <p>期末試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>説明会等で配布される資料</p> <p>教職課程履修カルテ</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の活動に対する評価、報告書：60%</p> <p>事前学習、ふりかえり報告会への参加：40%</p>

授業科目名：防災教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤幸也 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自然的、社会的原因による巨大災害と甚大な被害を未然に防ぐ事や最小限にすること。災害発生時の緊急対応、短期的災害復旧と中長期に渡る災害復興に関し、学校教育で求められる知識技術の習得を目指す。また、それらを場面・状況に応じて実践的に活用し、児童生徒の生命を守ることを最優先し、そのために必要な手立てとして、日常的に関係者・関連機関と連携し、各学校における防災教育が有効に働くよう基礎的能力の育成を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近現代日本における巨大災害の歴史を振り返りどのような課題が残ったかを検証する。また今後予測される自然災害等にどのように対応するか、医療、福祉、食料や水、コミュニティの形成による暮らしや生産活動の復興に必要な実践的能力を育成する。その上で、文科省による安全・健康・防災・災害教育の趣旨を理解し、学校経営を含めた指導力育成を目指す。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーションシラバスに基づいて、防災教育の目的、授業計画や準備物、評価などについての説明 目標と全体計画を理解する。</p> <p>第2回：大災害と教育の課題 「阪神淡路大震災」と学校教育（都市部災害の危険性） 阪神淡路大震災及び関連する自然災害について理解する。兵庫県立舞子高校の教育課程や指導方法を理解する。</p> <p>第3回：東日本大震災の状況を理解する。 地震と津波発生メカニズムや被害状況について理解する。</p> <p>第4回：防災教育の教育課程編成 学校経営と指導体制社会に開かれた教育課程と実践を検討する。 「宮城県多賀城高校防災科学科」の教育課程や教育方法を理解する。</p> <p>第5回：「防災教育実践1」 専門家による特別講話と討論自然災害のメカニズムを理解する 横浜市消防局等と協力して防災グッズの使用法や緊急時対応等（AED使用）を学ぶ （実習）警察や横浜市消防局での訓練等に参加し、AED実習含む技術を習得する。</p> <p>第6回：「防災教育実践2」 緊急時、復旧時における専門機関等の対応について理解する。 生徒指導を念頭に、緊急発生から復旧に係る業務と課題を実践的に学ぶ （医療関係、消防署、警察、電気・水道など、社会福祉施設など）（実習）</p> <p>第7回：「防災教育実践3」 防災訓練の準備や心構え地域の状況把握などを解説する。 横浜市防災センターなどで災害救助から恒常的防災対策の実際について学ぶ（実習）</p>			

<p>第8回：「防災教育実践の検討1」 家庭、地域（福祉・医療等）、学校の連携（宮城県等を例に） 東日本大震災の教育問題についての概要～緊急時及び復旧対応と学校・社会教育を理解する。</p> <p>第9回：「防災教育実践の検討2」 復興の教育と実践 社会福祉の観点から専門家の活動、復興に関わる生活課題や支援活動の実際を理解する。 (支援活動指導者、体験者による講話を予定)</p> <p>第10回：「防災教育演習1」 グループワーク事例調査と演習 事例研究 グループに分かれ、復興に関わる生活課題や支援活動の実際調査し、理解する。 (支援活動指導者、体験者による講話を予定2)</p> <p>第11回：「防災教育演習2」 復興支援グループワーク JA,NPOなどによる復興支援の実際と演習（外部講師による指導がある場合がある）</p> <p>第12回：「防災教育演習3」 グループワーク 地域における事例研究 学習指導要領の防災教育内容をまとめ、近隣地域にある学校の防災教育内容をまとめる。</p> <p>第13回：「防災教育実習4」 個別 地域における事例研究の報告 各自、教育実習予定校または学校ボランティア先の防災教育内容をまとめ、報告する。</p> <p>第14回：防災教育のまとめと課題に関するレポートの作成 防災教育内容のまとめ防災及び災害緊急対応、復興活動に必要な知識と方法を理解したか 確認する。</p>
<p>テキスト</p> <p>中学校、高等学校学習指導要領総則編文部科学省 『教育方法41東日本大震災からの復興と教育方法防災教育と原発問題』日本教育方法学会編 図書文化</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>防災教育各種資料 『防災白書』内閣府 宮城県多賀城高校教育計画 災害・防災関係行政及び新聞資料など</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実習参加20% 事例研究報告30% レポート50%</p>

授業科目名： ESDGs（持続可能な開発のための教育）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 幸也 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>ESDの理論と実践を参考に、国連が定めたSDG s の理念と内容を理解する。 SDG s に示された各項目について課題解決のための教育方法を検討する。 種の保存、生物多様性、文化多様性等について日本で行われている実践を理解する。 SDG s を生徒が担うことができる学習プログラムを構成する。 学校と地域やステークホルダーと協力してSDG s プログラムの模擬体験をする。</p>			
授業の概要			
<p>SDG s とESDの歴史を解説。 「ストックホルム宣言」から「地球環境サミット」の提案と指導方法を解説。 イギリスやカナダなどSDG s 先進事例を学ぶ 企業等のCSRから経済倫理の在り方と社会の持続的発展の在り方について解説する。 低開発国・地域と先進資本主義諸国の連携協力の課題について解説する。 「温暖化」「水問題」「食料問題」「高齢化」等を題材とした指導計画を作成、指導する。 災害時の復旧、復興を例にSDG s の実践を解説する。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：シラバスの学習計画に基づいて、学習全体の特徴や関連する資料などの扱いについて解説する。			
第2回：江戸時代の日本～持続的発展の社会システムと思想 江戸を例に持続的発展の社会システムと思想の在り方を理解する。			
第3回：近現代資本主義システムの論理構造と環境破壊について学ぶ 産業革命、急激な工業化社会への転換がもたらした社会課題について理解する。			
第4回：コモンズの思想とコモンウェルスの論理を解説する コモンズの思想とコモンウェルスの論理について理解する			
第5回：日本における産業革命と社会問題の誕生 近代日本の資本主義的発展と人民の暮らしの実情を理解する。			
第6回：田中正造と谷中村について解説する。 「足尾鉍毒事件」の実情を理解し、現在行われている広域的環境復元運動を理解する。			
第7回：高度経済成長と自然、社会破壊について解説。 「四大公害訴訟」「水俣病」の教訓を踏まえ、望ましい経済活動や環境防止技術開発の重要性を理解する。			
第8回：ストックホルム宣言から「世界環境サミット」への展開について理解する。			

第一次世界大戦以降進んだ化学工業の展開と「沈黙の春」に見る環境問題を理解する。

第9回：UBC博物館や先住民の文化、生物多様性等について解説する

縄文世界の展開やカナダの文化多様性、環境倫理を理解する。また、「生命誌」から地球という生命体のダイバーシティを理解する。

第10回：「アイヌ」民族や沖縄の「ゆいまーる」の思想と暮らし方からSDGsを考える

日本列島で行われてきたパーマネントカルチャーに学び、社会課題解決方法を考える。

第11回：巨大災害と共生する日本人の生き方について考える。

「東日本大震災」や「能登半島地震」を事例に社会課題解決の方法をSDGsの視点から検討する。

第12回：脱炭素社会のためのエネルギー政策の在り方について検討し、個人、家庭、地域、企業等が連携して自然エネルギーを活用する社会への転換を図る実践を考察する。石炭、石油、原子力依存からの思想的、技術的、政策的課題を提案する。

第13回：「温暖化」「水問題」「食料問題」「高齢化」等を題材とした指導計画を作成、報告。

グループワークにより学習してきたことをまとめて発表する。

第14回：まとめとレポートを作成

SDGsプログラムをパワーポイントで作成し、報告する。

各自、レポートを作成し、学習のまとめを行う。

テキスト

『社会的共通資本』宇沢弘文、岩波書店、2000年

参考書・参考資料等

講義の中で関係資料を配布するほか、参考文献、研究機関などを紹介する。

学生に対する評価

参加状況、SDGsプログラムの作成と発表（40%）、レポート（60%）で総合的に評価する。

授業科目名： 異文化間教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細谷（松山） 早里
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>異文化間教育の理論と実践を学ぶことで、多文化社会における人間形成、学校教育に関する基礎的な知識、技能を身につけることを目指す。</p> <p>また、本講義は講義のみならず、多文化社会の現状を理解するために実際に地域コミュニティに出て、観察、活動を行い、そのふりかえりを行うことにより、より現状および問題についての知識・理解を深め、技能を高める。</p> <p>活動場所、活動内容については授業内で詳しく説明する。</p>			
授業の概要			
<p>「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。本講では国内、国外の状況を学びつつ、教員に求められる資質、能力を考えていく。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
<p>第1回：シラバスに基づき講義内容と進め方を説明する。 異文化間教育についてのオリエンテーション 異文化間教育とは何かについての理解を深める 異文化間教育の意義について考える。</p> <p>第2回：多文化化する日本社会の現状とその課題 多文化社会としての日本の現実について理解を深める。</p> <p>第3回：多文化の子ども（多文化住民）を支える地域 地域社会が、多文化社会に果たす役割について理解を深める。</p> <p>第4回：外国人児童生徒等の教育 異文化であるいは外国で子ども時代を過ごすということはどのようなことを意味するのか考える。</p> <p>第5回：学校の多文化化と多文化学校の実態 外国人児童生徒がおかれている教育現場について理解を深め。問題点、改善策などについて考える。</p> <p>第6回：異文化間教育の基礎概念文化・アイデンティティ 異文化間教育の基礎概念について学ぶ 文化・アイデンティティが人格形成や学習にどのように影響を与えるかについて理解を深める。</p> <p>第7回：異文化間教育の基礎概念マイノリティ 異文化間教育の基礎概念について学ぶ マイノリティとして生きるとはどのようなことを意味するのかについて考える。</p> <p>第8回：異文化間教育の基礎概念異文化理解と国際理解教育</p>			

異文化間教育の基礎概似について学ぶ

異文化理解とは何か、国際理解教育は何を目指すべきかについて考える。

第9回：異文化間教育と海外帰国子女教育

海外帰国子女教育の問題点と課題について理解を深める。

第10回：留学生、留学生教育と日本社会

留学生として学ぶことの意義と日本社会の課題について考える。

第11回：教員に求められる異文化間能力

教員に必要な異文化間能力とはどのようなものかについて理解を深め、その能力をどのように身につけることができるのかを考える

第12回：異文化を理解するという事：グループ討議①

自分の体験と学習を振り返り、自分の考えをまとめ、他者の意見を聞くことにより、理解をさらに深める。

第13回：異文化間に生きるということ：グループ討議②

自分の体験と学習を振り返り、自分の考えをまとめ、他者の意見を聞くことにより、理解をさらに深める。

第14回：まとめ多文化社会を生き抜く子どもたち

自分の体験と学習を振り返り、自分の考えをまとめ、他者の意見を聞くことにより、理解をさらに深める。

期末試験

テキスト

新多文化共生の学校づくり 山脇啓造 明石書店

参考書・参考資料等

日本に住む多文化の子どもと教育 宮崎幸江 上智大学出版

移民から教育を考える 額賀美紗子 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

期末試験（レポート）50%、授業参加および発表30%、その他の提出物20%（学外活動のレポートを含む）

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 千（安藤） 錫烈 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ①学校図書館の役割について理解する。 ②学校図書館の基本的な業務を理解する。 ③司書教諭の役割や業務について理解する。 ④学校図書館の歴史を理解し、今後の学校図書館のあり方について考察することができる。			
授業の概要 司書教諭課程科目の入門となる科目であり、本講義では学校図書館の基本的な役割や活動内容について学んでいく。具体的には、学校図書館の理念と意義、学校図書館の歴史、学校運営と学校図書館の関係、学校図書館メディアの収集・組織・提供、司書教諭の役割や業務などを概説していく。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスに基づく講義内容の説明を行う。学校生活における学校図書館との関わりについて理解する。シラバスの内容を確認して授業の概要を理解しておくこと。配布資料を読み返して、理解を深めること。 第2回：学校図書館に関する法令。学校図書館に関連法規を理解し、学校図書館の機能について理解する。自分の体験・経験を基に学校における図書館の位置づけについて考察を行っておく。授業で配布したプリントを基に復習すること。 第3回：学校図書館の教育機能と理念的役割。学校図書館の意義や役割について理解する。自分の体験・経験を基に学校における図書館の位置づけについて考察を行っておく。授業で配布したプリントを基に復習すること。 第4回：学校図書館の歴史と課題 日本。日本の学校図書館の変遷を歴史を踏まえ理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。 第5回：学校図書館サービス① 閲覧・貸出・リクエスト。学校図書館のサービス内容について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。 第6回：学校図書館のサービス② レファレンスサービス・情報サービス。学校図書館の情報サービスについて理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること			

<p>第7回：学校図書館活用教育の方法と教授法① 調べ学習。図書館利用教育や図書館を活用した調べ学習の授業について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第8回：学校図書館活用教育の方法と教授法② 朝の読書・ブックトーク。図書館利用教育や図書館を活用した授業について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第9回：新聞の活用（ゲストスピーカー：NIE担当の新聞記者）。新聞の理解や新聞を活用した授業（NIE）について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第10回：学校図書館メディアの収集と組織化。メディアの収集の考え方やNDC（日本十進分類法）等の基本的な内容を把握する。生徒にとって理解しやすいNDCにするための工夫についてミニレポートとしてまとめる。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第11回：司書教諭の役割と教職員の協業。司書教諭の基本的な役割と業務について理解する。校内での教職員の連携の重要性について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第12回：学校図書館の実情（ゲストスピーカー：小学校司書教諭）。司書教諭の方にゲストスピーカーに来ていただき、最近の学校図書館の動向について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第13回：学校図書館の見学。学校図書館の見学をすることで、学校図書館の基本的事項を理解することができる。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p> <p>第14回：学校図書館とコミュニティ。公共図書館・教育委員会・家庭との連携のあり方について理解する。事前に配布するプリントを基に予習をすること。授業で配布したプリントを基に復習すること。</p>
<p>期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>学校経営と学校図書館 探究 学校図書館学編集委員会 全国学校図書館協議会</p> <p>学校図書館の基礎と実際 樹村房</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験40% ミニレポート40% 平常点（授業態度）20%</p> <p>ミニレポートについては4番のルーブリックに基づき評価を行う</p>

業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田 淳子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①教育課程の展開の中で学校図書館がどのような役割を果たすべきかを理解する。</p> <p>②情報リテラシーの育成に関する指導について理解する。</p> <p>③多様なメディアを活用した授業展開案を立案できる。</p> <p>④学校図書館におけるレファレンスサービスやレファレンスツールについて理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育において、学校図書館のメディアを利用した学習指導の基本的な考え方と指導方法について講義を行う。本講義では学校図書館の三大機能である「読書支援」「学習支援」「教員支援」の中でも特に「学習支援」について着目し、情報リテラシー教育や学校図書館メディアを利用した学習について考察する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス、学習と学校図書館 授業の概要について把握する。学校教育における学校図書館の役割について理解する。</p> <p>第2回：「学習指導要領」と学校図書館 「学習指導要領」と学校図書館との関連について理解する。 「学習指導要領」の概要について調べておく。授業資料を読み返しておく。</p> <p>第3回：探究的学習と学校図書館 学校図書館を活用した探究的学習の方法について理解する。 探究的学習とは何か調べておく。授業資料を読み返しておく。</p> <p>第4回：図書館利用教育と情報リテラシーの育成 情報リテラシーを育成・支援する学校図書館の役割について理解する。 情報リテラシーとは何か調べておく。授業資料を読み返しておく。</p> <p>第5回：情報リテラシーと探究的学習 情報リテラシーを育成する探究的学習の事例を把握する。 情報リテラシーを育成する探究的学習の事例を調べておく。授業資料を読み返しておく。</p> <p>第6回：学習支援と学校図書館のサービス 学校図書館サービスの種類・内容を把握する。 学習支援に活用できる学校図書館のサービスについて調べておく。授業資料を読み返しておく。</p> <p>第7回：子どもの「調べる」を支援する</p>			

<p>学校図書館が子どもの「調べる」を支援する方法・内容を把握する。</p> <p>児童生徒が調べる時に活用できる情報源について調べておく。児童生徒が調べる時に活用できる情報源を図書館やWebで確認する。</p> <p>第8回：教職員への支援</p> <p>学校図書館が教職員を支援する方法・内容を把握する。</p> <p>教職員が授業に活用できる情報源について調べておく。教職員の授業を支援する情報源を図書館やWebで確認する。</p> <p>第9回：授業と学校図書館の活用</p> <p>学校図書館を活用した授業案を試作する。</p> <p>学校図書館を活用した授業の事例について調べておく。学校図書館を活用した授業の事例をまとめる。</p> <p>第10回：総合的な学習、特別活動と学校図書館の活用</p> <p>学校図書館を活用した総合的な学習、特別活動の授業案を試作する。</p> <p>学校図書館を活用した総合的な学習、特別活動の事例について調べておく。学校図書館を活用した総合的な学習、特別活動の事例をまとめる。</p> <p>第11回：学習指導と学校図書館：課題と展望</p> <p>学習指導と学校図書館の課題とこれからのあり方について考察する。</p> <p>これまでの授業をふりかえり、学習指導と学校図書館の課題とこれからのあり方について考えておく。学習指導と学校図書館の課題と展望についてまとめる。</p> <p>第12回：「調べる」を支援するパスファインダー：企画</p> <p>パスファインダーとは何か理解し作成を企画・立案する。</p> <p>パスファインダーとは何か調べておく。パスファインダー作成の企画についてまとめる。</p> <p>第13回：「調べる」を支援するパスファインダー：作成</p> <p>子どもを対象としたパスファインダーを作成し発表の準備をする。</p> <p>第12回授業の企画をもとにパスファインダー作成と発表原稿を準備する。パスファインダーのデザインや内容と発表原稿を確認する。</p> <p>第14回：「調べる」を支援するパスファインダー：発表と評価</p> <p>各自が作成したパスファインダーと発表を相互に情報共有し、適切に評価する。</p> <p>作成したパスファインダーの発表を準備し、評価を考察する。情報共有と評価の考察をもとに、これからのパスファインダー作成のヒントを把握する。</p> <p>期末試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>テキストは特に指定しない。授業時に毎回授業資料をmanabaで配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>参考文献は適宜授業時に紹介する。</p>

学生に対する評価

平常点（授業態度）30% 演習レポート30% 期末レポート40%

※評価の前提として、出席は全授業回数の3分の2以上（10回以上）とする。

授業科目名： 教育と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤根 雅之 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育という事象を社会学的な手法や観点から分析する。これまで教育の経験を社会的な事象の一部であると位置づけ直すことを通じてその経験を相対化し、また教育についての理想を合理的に根拠づけるという視点を獲得することを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会的な事象としての教育を分析及び研究する方法論を身につけ、教育と社会との関連を読み取る能力を得る。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。講義の進め方を理解する。シラバスを確認する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第2回：学校における能力主義。学校教育における「能力」の位置づけ・扱われ方を理解する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第3回：学力の諸課題。学力をめぐる諸課題について理解する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第4回：教育と社会階層。学校教育と社会階層の関連について理解する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第5回：学校と社会階層の再生産。教育格差をめぐる議論を理解する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第6回：学校におけるジェンダー。学校教育におけるジェンダーの位置づけについて理解する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第7回：カリキュラムの政治性。学校教育のカリキュラム編成におけるポリティクスを批判的に考察する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第8回：学校における監視と規律。ポストモダンの教育研究が指摘する学校教育の諸課題を理論的に把握する。メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第9回：いじめの構造的要因。いじめが発生する構造的要因についての議論を理解する。 メディアにおいて教育問題がいかんに語られているかを把握する。講義中に示された参考文献</p>			

<p>を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第10回：いじめ問題の社会的構築。メディア等におけるいじめ問題の報道と学校教育のいじめ対策との関連について理解する。メディアにおいて教育問題がいかに関与しているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第11回：不登校の社会的要因。不登校の社会的要因についての議論を理解する。メディアにおいて教育問題がいかに関与しているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第12回：不登校問題の社会的構築。メディア等における不登校問題の報道と学校教育の不登校対策との関連を理解する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第13回：教育と労働。若者の就労と教育の関係における諸問題を理解する。メディアにおいて教育問題がいかに関与しているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>第14回：まとめ。社会的現象としての「教育」の捉え方。教育を社会的に捉えるための知識と視点を獲得。メディアにおいて教育問題がいかに関与しているかを把握する。講義中に示された参考文献を図書館等で入手し目を通す。</p> <p>期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教育社会学事典 日本教育社会学会 丸善出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末レポート：60%</p> <p>期末毎回提出のリアクションペーパー：40%</p> <p>本学のルーブリックに基づき、それぞれ評価を行う。</p>

授業科目名： 学校と教育問題	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤根 雅之 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>メディア等で議論されている学校や教育の問題について、批判的に読み解く事ができる。 教育問題を子ども・教師・保護者といった個人の問題として捉える考え方を相対化し、社会的な諸問題の表れとして捉え直す事ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における様々な問題を、特に「隠れた/隠されたカリキュラム」の観点から捉え、現在模索されている様々な教育について考える。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション:シラバスに基づき講義内容を説明する 講義内容を理解する</p> <p>第2回：隠れた/隠されたカリキュラム 「隠れた/隠されたカリキュラム」の観点から自身が受けてきた教育を捉え直す</p> <p>第3回：ジェンダー(1)：学校の中での「女子」と「男子」の区別のあり方 学校の中での「女子」と「男子」の区別のあり方を理解する</p> <p>第4回：ジェンダー(2)：カリキュラムと性別役割分業等との関連 学校の中のジェンダー規範と社会における性別役割分業等との関連を理解する</p> <p>第5回：セクシュアリティ(1)：学校の中での性の扱われ方 学校の中での性の扱われ方を理解する</p> <p>第6回：セクシュアリティ(2)：セクシュアルマイノリティの視点から セクシュアルマイノリティの視点から学校教育の課題を把握する</p> <p>第7回：エスニシティ(1)：カリキュラムにおける「国民」の位置づけ 学校教育制度における「国民」の扱われ方を理解する</p> <p>第8回：エスニシティ(2)：外国にルーツのある子の視点から 外国にルーツのある子の視点から学校教育の課題を把握する</p> <p>第9回：インクルーシブ教育 教育を受ける権利とインクルーシブ教育のあり方について理解する</p> <p>第10回：オルタナティブ教育(1)：教育を受ける権利との関連 教育を受ける権利とオルタナティブ教育のあり方について理解する</p> <p>第11回：オルタナティブ教育(2)：教育の「多様化」との関連 教育の「多様化」をめぐる諸課題について理解する</p>			

第12回：学習権・子どもの権利

学校・教育の問題を「権利」の観点から理解する

第13回：シティズンシップ

シティズンシップの観点から現代の教育問題を捉える

第14回：まとめ

講義内容を振り返り、教育問題を社会的な観点から捉える

期末試験は実施しない

テキスト

なし、資料等は授業内で配布する

参考書・参考資料等

教育社会学事典 日本教育社会学会 2018 丸善出版

学生に対する評価

期末レポート:70%

毎回提出のリアクションペーパー:30%

授業科目名：社会教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米田 佐知子
			担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 社会教育に関する基礎的知識を学び、あらゆる年代の人間形成と、社会の持続可能性を高めるために社会教育が持つ役割と意義を理解する。 (1) 社会教育に関する基礎的知識を身につける。 (2) 社会教育の役割と意義について理解する。 (3) 身近で行われている社会教育活動へ関心をもち、自分に関わる営みとして捉える。			
授業の概要 社会教育の概念や歴史、社会教育行政の仕組み、新しい動きも踏まえながら分野を越えた社会基盤としての社会教育の意義や可能性を考察する。講義は、現場を訪問してレポートする課題やグループ討議などを用いて進める。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：「社会教育とは何か」シラバスに基づき、講義内容を説明する。 第2回：「私の社会教育体験」自らの社会教育体験を振り返り、その意味を考える。 第3回：「社会を動かす社会教育」事例から社会教育がどのように機能しているかを学ぶ。 第4回：「地域社会の変化と社会教育」社会変化から社会教育を概観し現代の位置づけを学ぶ 第5回：「社会教育法と社会教育行政」社会教育に関わる法律や計画、行政の目的や任務を学ぶ。 第6回：「社会教育施設(1)」社会教育施設等を訪ねた体験を共有し合い、機能や意義を考える 第7回：「社会教育施設(2)」公民館、図書館等の果たしている役割を事例から考察する。 第8回：「社会教育の担い手(1)」NPOが社会教育に果たす役割について学ぶ。 第9回：「社会教育の担い手(2)」地域社会での多様な主体と機会について考察する。 第10回：「社会教育活動の内容(1)」社会教育における参加の在り方を考察する。 第11回：「社会教育活動の内容(2)」学びを促進する対話・意識化の重要性を考察する。 第12回：「社会教育活動の内容(3)」連携・協働の重要性とネットワークについて考察する 第13回：「社会教育とSDG's」SDG'sとESD（持続可能な開発のための教育）について学ぶ 第14回：「社会教育と自治」社会教育の可能性と今後を展望する。			
期末試験 テキスト 使用しない（各回でレジュメや資料を用意する）			
参考書・参考資料等 公民館を再発明する 牧野篤 2024 東京大学出版会 被抑圧者の教育学—新訳 パウロフレイレ著・三砂ちづる訳 2011 亜紀書房			
学生に対する評価 期末試験 50%			

平常点(授業への参加態度と貢献度、リアクションペーパーと提出状況) : 50%
試験については1番、平常点のリアクションペーパーは4番のルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：地域社会の形成と教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米田 佐知子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域社会に存在するさまざまな教育的な営みについて学び、地域社会の形成や地域課題の解決に関わる活動と、人が学び成長することの密接な関係を理解する。</p> <p>(1) 社会教育の役割や意義を理解し、自らも社会教育を実践する立場にあることを自覚する</p> <p>(2) 地域社会という概念を理解し、身近なものとして自らの関わりと考えることができる。</p> <p>(3) ディスカッションやグループ作業に積極的に参加し、他者と協力することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>多様化する社会の中で、行政だけではカバーされない地域課題に対し、主体的に取り組む市民活動が持つ教育力について考察する。主に、子育て支援や居場所づくりの活動から生まれる人のつながりと、対話、相互作用による教育的効果に注目する。必要に応じて実践者等をゲストスピーカーとして招き、講話を依頼する。実践例の分析を通して、社会教育事業を進める上での実践的な学びを深める。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：「地域社会の形成と教育」 シラバスに基づき、講義内容と進め方を説明する。</p> <p>第2回：「地域社会における社会教育」社会教育の役割から学びと地域づくりの関わりを考察する</p> <p>第3回：「子ども・子育て支援と社会教育(1)」子育て支援と子ども青少年の育成支援の問題について考える。</p> <p>第4回：「子ども・子育て支援と社会教育(2)」子ども・子育て環境を育てる政策提言活動の実践事例に学ぶ</p> <p>第5回：「子どもの居場所づくり(1)」子どもの居場所づくりの現状と課題について学ぶ。</p> <p>第6回：「子どもの居場所づくり(2)」こども食堂の実践事例に学ぶ</p> <p>第7回：「子どもの居場所づくり(3)」前回の事例や事前課題から考えたことをまとめて発表し、学びを深める。</p> <p>第8回：「外国につながる子どもの教育支援(1)」外国につながる子どもの学びに関する現状と課題について考える。</p> <p>第9回：「外国につながる子どもの教育支援(2)」外国につながる子どもの学習支援事例に学ぶ</p> <p>第10回：「外国につながる子どもの教育支援(3)」前回の事例や事前課題から考えたことをまとめて発表し、学びを深める。</p> <p>第11回：「つながりの場づくりと社会教育(1)」様々な社会分野を背景とするコミュニティカフェの系譜や価値、課題について学ぶ。</p> <p>第12回：「つながりの場づくりと社会教育(2)」コミュニティカフェの実践事例に学ぶ。</p>			

第13回：「つながりの場づくりと社会教育(3)」前回の事例や事前課題から考えたことをまとめて発表し、学びを深める。

第14回：「社会教育と地域づくり」講義のまとめとして学びと行動の循環を考察し、社会教育の可能性を考える。

期末試験

テキスト

使用しない(各回でレジュメや資料を用意する)

参考書・参考資料等

コミュニティカフェと地域社会 倉持香苗 2014 明石出版

学生に対する評価

期末試験 50%

平常点(授業への参加態度と貢献度、リアクションペーパーと提出状況) : 50%

試験については1番、平常点のリアクションペーパーは4番のルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：スクール ソーシャルワーク論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：澁谷 昌史 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：スクールソーシャルワークの基本を理解する。</p> <p>本講義を受講したのちには、以下の3つの目標が達成できるようにする；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校という組織の特性を踏まえて、我が国のスクールソーシャルワーク実践の特徴を説明できる。 2. スクールソーシャルワーカーを雇用する制度の実状を踏まえて、我が国のスクールソーシャルワーク実践の特徴を説明できる。 3. 我が国において、スクールソーシャルワーカーが学校教育をどのように変えていくことが期待されているのかを説明できる。 <p>いずれも、ディプロマ・ポリシーの「知識・理解」の育成と深く関連した目標であるが、学年が進行してから履修する科目として（6セメスターに開講）、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」も視野に入れた総合的な力量形成も目指す</p>			
<p>授業の概要</p> <p>我が国のスクールソーシャルワークの基本的理解に焦点を当てた講義である。具体的には、以下の3つの内容について取り扱う；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校という組織の特性とはどのようなものなのか。 2. どのような制度のもとでスクールソーシャルワーカーの実践の場が作られているのか。 3. スクールソーシャルワーカーが何を考え、どのように行動しているのか。 			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：シラバスに基づき講義内容を説明する／なぜスクールソーシャルワークを学ぶのか 本講義の履修要件と到達目標について理解する／スクールソーシャルワーク論の受講 動機について明確にする</p> <p>第2回：スクールソーシャルワーク論のための予備知識——子育て家庭に見られる社会福祉問 題 とくに貧困が子どもの育ちに及ぼす影響について理解し、社会的な支援の必要性につい て説明できるようになる</p> <p>第3回：スクールソーシャルワーク論のための予備知識——ソーシャルワーク概論 ソーシャルワークが人と環境との相互作用に関心を持つ専門的实践であることを理解 する</p> <p>第4回：学校内の児童生徒支援体制——生徒指導体制をスケッチする 学校の組織的特性について理解する</p> <p>第5回：学校内の児童生徒支援体制——学校教育相談の必要性 学校が教員を中心とした組織であることを理解する</p> <p>第6回：学校内の児童生徒支援体制——「チーム学校」とスクールソーシャルワーク 「チーム学校」が求められる背景を理解し、そこに加わる多専門職に期待される役割に</p>			

ついて学習する

第7回：スクールソーシャルワーク概論——史的発展

我が国におけるスクールソーシャルワークの発展経緯について理解する

第8回：スクールソーシャルワーク概論——スクールソーシャルワーカー活用事業

スクールソーシャルワーカーの活用実態の多様性について理解する

第9回：スクールソーシャルワーク概論——「SSWガイドライン」の概要を把握する

スクールソーシャルワーカーの配置方式について、その特性を踏まえて説明できるようにする

第10回：スクールソーシャルワーク実践論——学校から受け入れられる

スクールソーシャルワーカーが学校に受け入れられるためにどんな工夫ができるか、考える

第11回：スクールソーシャルワーク実践論——スクールソーシャルワーカーの一日

スクールソーシャルワーカーの時間の使い方について理解する

第12回：スクールソーシャルワーク実践論——ケースカンファレンス

スクールソーシャルワーク実践に必要なアセスメント項目について把握する

第13回：スクールソーシャルワーク実践論——模擬事例を通して学修成果の確認をする

スクールソーシャルワーカーと教員との関係性について理解する

第14回：まとめ

スクールソーシャルワーカーの養成

スクールソーシャルワーカーになるための必要な知識や経験をまとめる

期末試験

テキスト

スクールソーシャルワーカーの仕事(中央法規)

参考書・参考資料等

よくわかるスクールソーシャルワーク 山野則子ほか 2016 ミネルヴァ書房

スクールソーシャルワークの可能性 山野則子・峯本耕治 2007 ミネルヴァ書房

スクールソーシャルワーカーの仕事 門田光司・奥村賢一 2009 中央法規

スクールソーシャルワーカー実務テキスト 金澤ますみほか 2016 学事出版

最新 社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学

校連盟 2020 中央法規

学生に対する評価

全出席を基本として、以下の2項目の合計点で評価する;

1. 平常点(授業時間中に記入したワークシートの評価)(50%)
2. 期末試験(正誤判定と記述式の混合)(50%)

授業科目名：グローバル時代の教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細谷（松山）早里 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「社会科学のひとつである「教育」に関する考え方（理論）をさまざまな切り口で学ぶ。①学力とは何か（教育学）、②人的資源とは何か、投資としての教育（教育経済学）、③多様な背景の人たちと生きていくための教育（異文化間教育）などについて学ぶほか、グローバル社会に生きる私たちに求められる資質・能力は何かについて考察する講義として設置する。わたしたちが当然と考えている日本の教育を海外の教育制度や教育に求められている内容と比較しながら考えを深めていく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育を様々な角度からとらえ、批判的に検討する。その過程を経ることにより、教育の目的と理想の教育とは何かを創造的に考える。</p> <p>具体的にはグローバル時代にふさわしい教育のあり方について現状を分析し、問題を発見し、解決する方法を考える。（問題発見・解決力）</p> <p>多文化化が進む社会の中での共生のあり方（多文化での共生）と国際的な問題を自分のことと捉えつつ、問題を分析する力をつける。（国際協働力）</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション・シラバスを参考に授業の概要について説明する。 授業の概要を理解し、与えられた課題を理解する。</p> <p>第2回：教育とは何かについて考える。 なぜ教育は存在するのか、その目的を探る。教育に関する様々な考え方について理解を深める。</p> <p>第3回：教育と社会、社会と教育 教育をめぐる様々な課題、問題について理解を深める。教育の影響力について考える。</p> <p>第4回：投資としての教育 ― 教育と国家の発展 教育と国家の発展にはどのような相関があるのか理解する。</p> <p>第5回：投資としての教育 ― 教育と生産性・賃金 教育は生産性、賃金とどのように関わっているのかを考える。</p> <p>第6回：学力とは 学力とは何か、どのようにしたら身につけられるのかについて考える。</p>			

第7回：教育と格差 ー 教育と貧困問題

国内外における教育と格差の問題、貧困の問題について知識を深める。

第8回：世界の学力調査

様々な学力調査について学び、その結果はどうなっているかについて知識を深める。

第9回：海外の教育 ー 内容と方法

海外の様々な教育のあり方について知る。

第10回：海外の教育 ー 理念と理想

海外の教育がどのような理念に基づき、何を理想としているのかについて知る。

第11回：多文化社会と教育 ー 教育の平等と公平性

多文化社会の現実を知り、全ての人にとって平等で公平な教育とは何かについて考える。

第12回：異文化間教育 ー 教育の平等と公平性

異文化間教育とは何か、教育に何ができるのかを考える。

第13回：グローバル時代に求められる教育とは

グローバル時代になったことにより、教育は何を考慮されるべきか、何を理想とすべきかについて考える。

第14回：レポート報告会

自分なりに調べた内容について、発表を行うことにより分かち合う。

授業で学んだことを元に自分の関心のある事柄についてのレポートを作成し、内容について論理的に説明する。

期末試験は実施しない

テキスト

参考書・参考資料等：学力の経済学（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、教育の世界ド
クラス（明石書店）、日本と世界の学力格差（明石書店）

学生に対する評価

レポート（60%）授業参加および提出物等（40%）

授業科目名：道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための必修(中学校)、選択(高校)	単位数： 2単位	担当教員名：久保田英助 齋藤 孝 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳教育の理論と指導法、大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 道徳教育を支える理論や歴史、道徳の本質ならびに道徳教育とは何か、道徳性の発達等を理解し、説明することができる。</p> <p>(2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育および道徳科の目標や内容、指導計画等を理解し、道徳の指導に結びつけることができる。</p> <p>(3) 道徳科の授業案を作成し、教材研究や模擬授業を通じて、実践的な道徳指導を行うことができ、さらに道徳科の特性を踏まえた学習評価ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人間が集団・社会で生きている限り道徳は必然である。ここでは道徳ならびに道徳教育とは何か、その思想と歴史を学ぶ。また道徳指導に必要な発達理論や道徳教育の理論、指導方法を学び、実際に指導案を作成し模擬授業等を通じて道徳指導の実践力を高めていく。授業は、講義のほか、討論、協働作業、模擬授業など、演習形式の授業を行い、全体を通じて道徳における多面的なものの見方・考え方も培っていく。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：道徳教育とは何か—道徳教育の理論と実践を学ぶ 授業の目標、方法や進め方、評価の方法をシラバスで確認し、この授業における自分の目標を明確にする。</p> <p>第2回：道徳教育の現状と課題—いのちの尊厳・いじめ・情報モラルの問題 命の尊厳、環境問題、平和・平等・正義の問題等、道徳の課題を想起し、道徳的指導を考える。</p> <p>第3回：学習指導要領道徳科の目標、内容、指導計画 学習指導要領「特別の教科道徳」について、目標、内容、指導計画を理解し、説明することができる。</p> <p>第4回：学習指導要領における内容項目と指導の留意点 「命の尊厳」「情報モラル」の指導について、自分の考えをまとめる。</p> <p>第5回：道徳教育の歴史と課題 「修身科」の指導や「儀式」を、戦後道徳教育の理念や特徴と対比させて説明できる。</p>			

第6回：道德教育の理論と方法

道德教育の理論のいくつかを、道德指導を念頭において説明できる。

第7回：道德性の発達と道德授業の編成原理

道德性の発達段階について理解し、実際の道德授業に生かすことができる。

第8回：道德教育と共生、市民性の教育、責任感覚の育成

公共や市民として生きるための責任感覚をどう育てるか、自分なりの考えを持つ。

第9回：家庭生活、社会生活の変容と道德教育

家庭教育の現状を理解し、学校と家庭が連携した道德教育のあり方を探る。

第10回：道德授業の構想、教材の選定、授業案の作成

自分が準備した教材で、道德授業のラフスケッチをする。

第11回：道德授業案の仕上げと模擬授業

自分が構想する授業案を仕上げ、できれば模擬授業にトライする。

第12回：模擬授業と相互評価、評価の方法

模擬授業の結果を評価し合い、道德授業に必要な事項を確認する。

第13回：模擬授業と相互評価、授業案の改善

他の人の模擬授業や授業案について、改善のためのアドバイスができる。

第14回：模擬授業と総合評価、道德とは何か

道德教育に求められているもの、授業のまとめ

模擬授業を終え、それぞれの授業案を総合評価する。完成した授業案を提出する。

科目の到達目標1.2.3.をもとに、自分の到達度を自己評価する。

期末試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省2017株式会社東山書房
プリントを配布します。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説特別の教科道德編文部科学省廣済堂あかつき株式会社
その他随時紹介する

学生に対する評価

模擬授業と道德授業案：60%

平常点（授業内課題、宿題、授業への取り組み）：40%

授業科目名：憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦 一郎 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 人権条項を学問的に理解した上で社会の多くの問題が人権と関わりを持つことを知り、 社会で役に立つように人権感覚を身につける。			
授業の概要 日本国憲法を学ぶということは、日本がどのような国を目指しているのかを知ることであり、「民主主義」とは何か、「自由」・「人権」そして「人間の尊厳」とは何かを一人一人が考えることです。ですから、知識の習得はもちろん、何よりも「自分で考えること」が本講では求められます。 また、講義では身近なニュースやみなさんの憲法感覚に触れながらこれからの憲法のあり方についても考えていきたいと思えます。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスに基づき講義内容を説明する。 憲法とは何か 憲法の特質、憲法の分類を理解する。 第2回：国民主権 国民主権を理解して、象徴天皇制について考える。 第3回：自由権1 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由の理解を理解する。 第4回：自由権2 表現の自由を理解して「知る権利」の重要性を認識すること。 第5回：自由権3 職業選択の自由や財産権と「公共の福祉」の関係の理解と人身の自由の 具体的理解。 第6回：参政権 国民主権における参政権の重要性を理解して選挙権の問題点を認識すること。 第7回：国務請求権 権利としての制度のあり方を理解する。 第8回：社会権 生存権のあり方や問題点を理解して民主主義との関係を考えること。 第9回：法の下での平等 男女平等などを理解して社会に在る差別の問題を考える。 第10回：国会の権能 国会の地位や各議院の権能を理解して民主主義のあり方を考える。 第11回：内閣の権能 行政のしくみや内閣総理大臣の権能を理解した上で「首相公選制」について 考える。 第12回：裁判所の権能 司法の役割理解した上で「なぜ違憲審査権が日本では発動されにくいのか」を 考える。 第13回：憲法と財政 財政の仕組みを理解した上で国民と公的負担のあり方を考える。 第14回：地方自治 国と地方自治体とのあるべき関係を理解する。 期末試験			

テキスト

リアルタイム法学・憲法（改訂6版） 三浦一郎 北樹出版

参考書・参考資料等 なし

学生に対する評価

定期試験の成績：90%

課題提出状況：10%

中間試験の成績：実施しない

その他：オンライン授業時等試験実施が困難な場合は、二つの課題90%、受講状況10%

この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：健康スポーツI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：並木 和彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>提示されたスポーツ種目を他者と公平に実践し、それを理論的に理解することによってチームワークを身につけ、授業場面に留まらず実生活においても高い倫理観を身につける。</p> <p>(1) 競技ルールを理解し、基本的なスキルをゲームで活用できる（幅広い教養）。</p> <p>(2) 授業の準備・実施片付けを他者と共同して行うことができる（チームワーク・他者との協働）。</p> <p>(3) フェアプレーの精神に則り、公平・公正な判断ができる（倫理観・公平・公正な判断）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、バレーボールというスポーツを楽しむ中で基本技術の向上、および応用技術の向上を目指す。また、ルールや試合の進め方等について学び、よりレベルの高い試合が行えるようにする。さらに、授業を通じて多くの人とコミュニケーションをはかり、自己と他者を理解し幅広い教養を身につける。</p> <p>バレーボールの実践を通して、ゲームを楽しむために必要な基礎的技術・戦術・知識・マナーを習得し、生涯にわたって積極的にスポーツを楽しむ方法や習慣を身につける。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス 実技内容の確認。受講の際の諸注意、評価方法等について理解する。</p> <p>第2回：講義1。社会生活と健康問題について。</p> <p>第3回：講義2。健康問題と社会環境について。</p> <p>第4回：バレーボールの基本動作と基本練習（ボールの扱い方に慣れる）。</p> <p>第5回：バレーボールの基本技術の習得。グループ戦術やスペースの創出と活用の習得。 基本動作・基本練習（サーブ、レシーブ）、簡易ゲーム バレーボールの基礎的技術、個人やグループの戦術を習得。</p> <p>第6回：バレーボールの基本技術の習得。グループ戦術やスペースの創出と活用の習得。 基本動作・基本練習（サーブ・レシーブ・パス）、簡易ゲーム バレーボールの基礎的技術、個人やグループの戦術を習得。</p> <p>第7回：バレーボールの基本技術の習得。グループ戦術やスペースの創出と活用の習得。 基本動作・基本練習（サーブ・レシーブ・パス）、簡易ゲーム。ゲーム運営の説明および試合（各グループで試合を行う）</p> <p>第8回：グループ戦術やスペースの創出と活用の習得、積極的なボール回しができるようになる。</p>			

<p>チームにおける攻防の習得。</p> <p>第9回：チームメイトと毎回のゲームプランを考え、個人戦術、グループ戦術を活かしたゲームを行えるようになる。ゲーム中のボールコントロールおよび打球のボールコントロールが出来るよう練習を行う。</p> <p>第10回：バレーボールの基本技術を応用して、チームメイトと協力し、ゲームプランの構築し、実践をする。</p> <p>第11回：バレーボールの基本技術を応用して、チームメイトと協力し、ゲームプランの構築し、実践をする。</p> <p>第12回：バレーボールの基本技術を応用して、チームメイトと協力し、ゲームプランの構築し、実践をする。</p> <p>第13回：バレーボールの基本技術を応用して、チームメイトと協力し、ゲームプランの構築し、実践をする。ボールコントロールの総括。関係プレーの総括。</p> <p>第14回：授業まとめ。総合的な技術の確認。バレーボールゲームの総括。レポートの提出等。これまでの授業内容を振りかえる。総合的な技術の確認やゲーム内容の確認をする。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等 適宜、授業内で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>(1) 平常点(受講態度ほか。遅刻、不適當な服装、危険な行為等は減点対象とする。) 60%、レポート課題もしくは、それに類する物 20%、実技・目標到達度 20%。 授業内で示すルーブリックに基づき評価する。</p> <p>(2) 全出席を基本とする。授業時数の 2/3 以上の出席がなければ成績評価の対象としない。</p> <p>(3) 履修および単位修得には健康診断の受診が必須条件である。</p>

授業科目名：健康スポーツⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：並木 和彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>提示されたスポーツ種目を他者と公平に実践し、それを理論的に理解することによってチームワークを身につけ、授業場面に留まらず実生活においても高い倫理観を身につける。</p> <p>(1) 競技ルールを理解し、基本的なスキルをゲームで活用できる(幅広い教養)。</p> <p>(2) 授業の準備・実施片付けを他者と共同して行うことができる (チームワーク・他者との協働)。</p> <p>(3) フェアプレーの精神に則り、公平・公正な判断ができる (倫理観・公平・公正な判断)。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>バスケットボールの実践を通して、バスケットボールを楽しむために必要な基礎的技術・戦術・知識・マナーを習得し、生涯にわたって積極的にスポーツを楽しむ方法や習慣を身につける。</p>			
<p>授業計画(1回1コマ(1コマは100分))</p> <p>第1回：ガイダンス 受講の際の諸注意、評価方法等について理解する。</p> <p>第2回：講義1 身体における運動・スポーツのトータルバランスについて。</p> <p>第3回：講義2 運動の概念、筋力、体力について</p> <p>第4回：バスケットボールの基本技術の習得(ボールハンドリング、パス、ドリブル、シュートなど) グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得。ハーフコートゲーム(2対2・3対3)。体慣らし。</p> <p>第5回：ゲーム1 バスケットボールの基本技術(ボールハンドリング、パス、ドリブル、シュートなど)の習得。グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得。</p> <p>第6回：ゲーム2 バスケットボールの基本技術を習得する。グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得する。コート全体を使用できる技術や戦術の習得する。</p> <p>第7回：ゲーム3 バスケットボールの基本技術を習得する。グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得する。コート全体を使用できる技術や戦術の習得する。</p> <p>第8回：ゲーム4 バスケットボールの基本技術を習得する。グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得する。コート全体を使用できる技術や戦術の習得する。</p> <p>第9回：ゲーム5 バスケットボールの基本技術を習得する。グループ戦術やスペースの創出と活用、パスアンドランの習得する。コート全体を使用できる技術や戦術の習得する。</p> <p>第10回：ゲーム6 チームメイトと毎回のゲームプランを考え、個人戦術、グループ戦術を活かした</p>			

ゲームを行えるようになる。他のチームとも協力をして、ゲームの運営がスムーズにできるようになる。フェアプレイの精神を学ぶ。

第11回：ゲーム7 チームメイトと毎回のゲームプランを考え、個人戦術、グループ戦術を活かしたゲームを行えるようになる。

第12回：ゲーム8 チームメイトと毎回のゲームプランを考え、個人戦術、グループ戦術を活かしたゲームを行えるようになる。

第13回：ゲーム9 チームメイトと毎回のゲームプランを考え、個人戦術、グループ戦術を活かしたゲームを行えるようになる。

第14回：授業まとめ。バスケットボールゲームの総括。レポートの提出等。

テキスト なし

参考書・参考資料等

エンデバーのためのバスケットボール医科学ハンドブック 日本バスケットボール協会エンデバー委員会 ブックハウス・エイチディ

バスケット教本 改訂版 日本バスケット協会編 大修館書店

バスケットボールにおける分類論の成熟へ向けて 武隈 晃 体育科教育 第46巻

学生に対する評価

(1) 平常点(受講態度ほか。遅刻、不適當な服装、危険な行為等は減点対象とする。)60%、レポートもしくはそれに類する物20%、実技・目標到達度20%。授業内で示すルーブリックに基づき評価する。

(2) 全出席を基本とする。授業時数の2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

(3) 履修および単位修得には健康診断の受診が必須条件である

授業科目名：健康スポーツⅢ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：奥山 靖彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>サッカーを媒介として相手に勝つ為に自身の力量と相手の力量を比較し、駆け引きを体感する事で教養を身に付ける（幅広い教養）。また、サッカーは個人種目ではないため、味方とのコミュニケーションを図りながらプレーする事が求められる（チームワーク、他者との協働）。そしてルールを守り、如何にプレーすれば良いかという判断を個々が行えるようになる事を授業の目的としたい（倫理観、公平・公正な判断）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自らスポーツを楽しむ為の理論と実践を体験する。サッカーの戦術、技術を高めるとともに体力の維持、健康の増進を図る。また、生涯にわたって積極的にスポーツを楽しむ習慣を身に付け、自己の健康を管理する能力を高める。本授業では単にスポーツを遊びとして捉えるだけではなく、他者との積極的な関わりによるコミュニケーション能力を高めるべく協働し、それを基にチームワークを学び、思考力や判断力を高めて倫理観や公平な判断が下せるようになる事、幅広い教養を身に付ける事を目指して行う。（注）第一週目の授業ガイダンス（於：体育館）で詳しい説明がなされるので履修希望者は出席する事。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス（シラバスに基づいて授業内容を説明する） 科目内容、授業参加に際しての諸注意、成績評価とその基準等の説明を理解する。</p> <p>第2回：実技1 ゲーム（スキルチェック）、コミュニケーション ゲームの中での積極的なコミュニケーションを図る。</p> <p>第3回：実技2 1対1（ドリブル突破、ボールキープ） ボールを奪われない為の技術と相手の裏を取り、交わす術を学ぶ。</p> <p>第4回：実技3 ボール保持 グループでボールを回し、相手にとられないようにする術を学ぶ。</p> <p>第5回：実技4 周りを観る、状況判断 チームが勝つ為に如何にすべきかを考えて判断する力を身に付ける。</p> <p>第6回：実技5 サポートの距離と角度 ボールを奪われないために味方を助ける術を学ぶ。</p> <p>第7回：実技6 攻守の切り替え 取られたら即座に取り返し素早く攻撃に繋げて得点を目指す方法を学ぶ。</p> <p>第8回：実技7 マークの原則、素早いアプローチ 相手のボールを奪う為の守備の方法を学ぶ。</p> <p>第9回：実技8 スペースの作り方、サイドチェンジ 相手との駆け引きにより自分のプレーするエリアを広げる方法を学ぶ。</p>			

<p>第10回：実技9 ゴール前の攻防 得点を取る為、取られないための駆け引きを学ぶ。</p> <p>第11回：実技10 数的不利の守備（数的優位の攻撃）、数的不利の攻撃（数的優位の守備） 不利な状況を切り抜ける術を学ぶ。</p> <p>第12回：実技11 ゲーム大会運営法（チーム指導法） ゲームを楽しみながら試合に勝つ為の指導法を学ぶ。</p> <p>第13回：実技12 ゲーム大会運営法（審判法） 主審、副審等の役割について学ぶ。</p> <p>第14回：実技13 ゲーム大会運営法（設営、マネージメント） ゲームを行いながら、主催者として安全で円滑な運営の基、安全に楽しめる為の方法を学ぶ。</p>
<p>テキスト なし</p>
<p>参考書・参考資料等 適宜、授業内で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点（受講態度等。遅刻、不適切な服装、危険な行為等は減点対象とする）：60%、レポート若しくはそれに類する物：20%、実技・目標到達：20% 全出席を基本条件とする。授業時数の2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。履修及び単位修得には健康診断の受診が必須条件となる。授業内で示すルーブリックに基づき評価する。</p>

授業科目名：健康スポーツⅣ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：今野 和志 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 提示されたスポーツ種目を他者と公平に実践し（幅広い教養）、それを理論的に理解することによってチームワークを身につける（チームワーク、他者との協働）、授業場面に留まらず実生活においても高い倫理観を身につける（倫理観、公平・公正な判断）。			
授業の概要 サッカーの実践を通して、サッカーを楽しむために必要な基礎的技術・戦術・知識・マナーを習得し、生涯にわたって積極的にスポーツを楽しむ習慣を身につける。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスに基づき講義内容を説明する。 第2回：ボールに慣れる、ルールとマナー ルールとマナーを理解する。 第3回：シュート シュートの基本から、様々な状況でのシュートテクニックを習得する。 第4回：ドリブル 多様なドリブルを習得する。 第5回：パス 多様なパスが行える。 第6回：トラップとボールコントロール 多様なトラップとボールコントロールを習得する。 第7回：守備の原則 守備の原則を理解し、実践することができる。 第8回：攻撃の原則 攻撃の原則を理解し、実践することができる。 第9回：チーム分け、チーム練習 各ポジションの役割を理解する。 第10回：ゲーム① 協力して試合を運営することができる。 第11回：ゲーム② 協力して大会を運営することができる。 第12回：ゲーム③ 協力して試合を運営することができる。 第13回：ゲーム④ 協力して試合を運営することができる。 第14回：まとめ 達成度及び習熟度の確認を行う。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 適宜、授業内で指示する。			
学生に対する評価 平常点（受講態度、積極性、遅刻、不適当な服装、危険な行為は減点）60%、レポートもしくはそれに類する物20%、実技・目標到達20%。 全出席を基本条件とする。授業時数2/3以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。 履修および単位修得には健康診断の受診が必須条件となります。 この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき評価を行う。			

授業科目名： 教職体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相原 健志、遠藤 大哉
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	文部科学省令（教育職員免許法施行規則第66条の6）に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>複数の実技種目の体験および講義とその予復習を通して、中学校・高校の教員として求められる、心身の健全性のためにスポーツ教育が果たす役割、応急処置の方法を含む学校における健康・安全管理、生涯スポーツに関する知識・技能を得る。</p> <p>これによって、以下の能力を得ることを目標とする。1) 各種目のルールを理解し、基本的スキルをゲームで活用できる。2) 授業の準備・実施・後片付けまでを他者と協働して行うことができる（チームワーク、他者との協働）。3) フェアプレーの精神にのっとり、公平・公正な判断ができる（倫理観、公平・公正な判断）。4) 運動やスポーツの意義、心身の健康と安全について理解している（幅広い教養）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業科目は、複数の実技種目の体験と、3回の講義とその予復習を通じて、将来中学校・高校の教員として求められる知識・技能を得る。実技種目を体験する授業回では、受講学生は自身の健康状態をモニタリングした予習課題を提出しこれによって自身の状態を把握するとともに、実技種目の知識と技能を習得しながら、心身を健康に保つための方法等について理解を深める。講義回ではそれぞれ、事前の予習を踏まえて、スポーツと学校教育、応急処置の方法を含む健康と安全管理、生涯スポーツについて、講義から理解を深める。また実技と講義を踏まえたレポートによって、授業内容の定着度を測るとともに、本授業科目を通じた気づきや成長について受講学生自身が言語化する機会を設ける。なお、以上の点から、本授業科目は教職課程の履修者に限定する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス：シラバスに基づき授業の進め方、講義内容、評価方法等を説明する</p> <p>第2回：バドミントン（基本的なルール）</p> <p>第3回：バドミントン（基本的なスキル）</p> <p>第4回：バドミントン（ゲームの遂行）</p> <p>第5回：講義：スポーツと学校教育</p> <p>第6回：バレーボール（基本的なルール）</p> <p>第7回：バレーボール（基本的なスキル）</p> <p>第8回：バレーボール（ゲームの遂行）</p>			

第9回：講義：健康と安全管理

第10回：卓球（基本的なルール）

第11回：卓球（基本的なスキル）

第12回：卓球（ゲームの遂行）

第13回：講義：生涯スポーツ

第14回：講義：まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小野雄大・梶将徳編著 『新時代のスポーツ教育学』 小学館集英社プロダクション、2022年
文部科学省「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」 (https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1416715.htm)

学生に対する評価

平常点50%（受講態度ほか）、セルフモニタリング課題30%、レポート20%

授業科目名：総合英語 (リスニング)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：本沢 彩 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 教科書の学習をとして理解した英文の内容に対して、自分の意見を英語で論理的に述べる ことができる。			
授業の概要 この講義では、身近な社会問題に関する英文を継続的に聞き、音読し、自分の言葉で要約 するトレーニングとともに、日本人が特に低いとされている「アーギュメント力（明確な 理由を述べて相手を説得する能力）」を鍛えるトレーニングを行います。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：1. シラバスに基づき講義内容、到達目標、成績評価方法を説明する。 2. 講義の予習・復習の方法を説明をする。 3. 教科書Unit 6を使った授業のデモンストレーション Unit 1 Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Part 1)			
第2回：1. 前回の講義の振り返り 2. Unit 6 Hopes and Fears around Casinos? (Part 2) 3. COCET2600 No. 1-50の学習			
第3回：1. 前回の講義の振り返り 2. COCET2600小テスト(No. 501-550)と学習(No. 551-600) 3. Unit 6 Hopes and Fears around Casinos? (Part 3)			
第4回：1. 前回の講義の振り返り 2. COCET2600小テスト(No. 551-600)と学習(No. 601-650) 3. Unit 8 The Pros and Cons of Globalization? (Part 1)			
第5回：1. 前回の講義の振り返り 2. COCET2600小テスト(No. 601-650)と学習(No. 651-700) 3. Unit 8 The Pros and Cons of Globalization? (Part 2)			
第6回：1. 前回の講義の振り返り 2. COCET2600小テスト(No. 651-700)と学習(No. 701-750) 3. Unit 11 Big Government or Limited Government? (Part 1)			
第7回：1. 前回の講義の振り返り 2. COCET2600小テスト(No. 701-750)と学習(No. 751-800) 3. Unit 11 Big Government or Limited Government? (Part 2)			

第8回：1. 前回の講義の振り返り
 2. COCET2600小テスト(No. 751-800)と学習(No. 801-850)
 3. Unit 12 Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Part 1)

第9回：1. 前回の講義の振り返り
 2. COCET2600小テスト(No. 801-850)と学習(No. 851-900)
 3. Unit 12 Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Part 2)

第10回：1. 前回の講義の振り返り
 2. COCET2600小テスト(No. 851-900)と学習(No. 901-950)
 3. Unit 14 Open Borders or Closed Societies? (Part 1)

第11回：1. 前回の講義の振り返り
 2. COCET2600小テスト(No. 901-950)と学習(No. 951-1000)
 3. Unit 14 Open Borders or Closed Societies? (Part 2)

第12回：1. 前回の講義の振り返り
 2. COCET2600小テスト(No. 951-1000)
 3. Unit 15 Takes Hikes: Direct or Indirect? (Part 1)

第13回：1. 前回の講義の振り返り
 2. Unit 15 Takes Hikes: Direct or Indirect? (Part 2)

第14回：授業のまとめ、授業内期末試験

テキスト

Take a Stance Discussing Today's Controversial Issues 2 植田一三、上田敏子、ほか
 センテージ・ラーニング

参考書・参考資料等

COCET 2600 亀山太一(他) Seibido

学生に対する評価

1. この講義の成績評価は100点満点換算で行い、内訳は次のとおりである。講義内課題以外の課題はmanabaの小テストやレポートの機能を用いて実施する。

- 1) COCET2600 (小テスト) 30%
- 2) 復習課題 (リーディング課題) 30%
- 3) 期末試験 40%

※英語基礎力確認テストでの高得点やEnglish Lunch Breakなどの授業外の英語学習のイベント参加等により加点する場合がある。

2. この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：総合英語 (オーラルコミュニケーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：レイモンド D. マサー 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 外国人との対面的なコミュニケーションにおいて、物怖じせずに話すことができる。</p> <p>2) 英語による自己紹介、道を聞く、買い物、電話などの基本的な応答から一日におきたことを英語で表現できる。</p>			
授業の概要			
<p>1) この授業は、外国人教員によって、英語で行われる授業です。</p> <p>2) 外国人との対面的なコミュニケーションに物怖じしない態度を養うことを目指します。</p> <p>3) 英語による自己紹介、道を聞く、買い物、電話などの基本的な応答から一日におきたことを英語で表現できるようになるまで、面接テストなどを課しながら個別演習を行い、英語で身近なテーマについて自己表現できるようになることを目指します。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：Course Introduction / Syllabus Guidelines / You (Unit 1) Students will go over the course guidelines.			
第2回：Your home (Unit 2)			
第3回：Daily Life (Unit 3)			
第4回：Neighborhood (Unit 4)			
第5回：Work (Unit 5)			
第6回：Free Time (Unit 6)			
第7回：Mid-term Assessment / Food and Drink (Unit 7)			
第8回：Travel (Unit 8)			
第9回：Education (Unit 9)			
第10回：Health (Unit 10)			
第11回：Numbers and Prices (Unit 11)			
第12回：People (Unit 12)			
第13回：Final Oral Interviews			
第14回：Course Review / Consolidation / Assessment and Feedback			
テキスト			
World Voices 1 (new version) Alastair Graham-Marr ABAX ELT Publishers			
参考書・参考資料等			
COCET 2600 亀山太一（他） Seibido			

学生に対する評価

1. 単位取得には、第13回のfinal-oral interviewのテストの受験を必須とする。
2. この講義の成績評価は100点満点換算で行い、内訳は次のとおりである。
 - a) Mid-term Written test (20%)
 - b) Mid-term Oral test (20%)
 - c) Final Written test (20%)
 - d) Final Oral Interview test (20%)
 - e) Homework, Online assignments, classroom participation (20%).
3. 教科書の予習・復習とは別に、教科書対応のオンライン学習システム(LMS)での学習を毎週の課題とする。システムの使用方法は初回講義で教えますので、必ず出席すること。
4. この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：総合英語 (オーラルコミュニケーション) (和 訳)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：レイモンド D. マサー 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外国人との対面的なコミュニケーションにおいて、物怖じせずに話すことができる。 2) 英語による自己紹介、道を聞く、買い物、電話などの基本的な応答から一日におきたことを英語で表現できる。 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) この授業は、外国人教員によって、英語で行われる授業です。 2) 外国人との対面的なコミュニケーションに物怖じしない態度を養うことを目指します。 3) 英語による自己紹介、道を聞く、買い物、電話などの基本的な応答から一日におきたことを英語で表現できるようになるまで、面接テストなどを課しながら個別演習を行い、英語で身近なテーマについて自己表現できるようになることを目指します。 			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：シラバスに基づき、授業の概要を説明する / あなた (Unit 1)</p> <p>第2回：あなたの家について (Unit 2)</p> <p>第3回：日常生活について (Unit 3)</p> <p>第4回：近所について (Unit 4)</p> <p>第5回：仕事について (Unit 5)</p> <p>第6回：自由な時間について (Unit 6)</p> <p>第7回：中間試験/食べ物や飲み物について (Unit 7)</p> <p>第8回：旅行について (Unit 8)</p> <p>第9回：教育について (Unit 9)</p> <p>第10回：健康について (Unit 10)</p> <p>第11回：数字と価格について (Unit 11)</p> <p>第12回：民族について (Unit 12)</p> <p>第13回：最終口頭試問</p> <p>第14回：授業のまとめ/評価とフィードバック</p>			
<p>テキスト</p> <p>World Voices 1 (new version) Alastair Graham-Marr ABAX ELT Publishers</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>COCET 2600 亀山太一 (他) Seibido</p>			

学生に対する評価

1. 単位取得には、第13回の最終口頭試問のテストの受験を必須とする。
2. この講義の成績評価は100点満点換算で行い、内訳は次のとおりである。
 - a) 中間筆記試験 (20%)
 - b) 中間口頭試問 (20%)
 - c) 最終筆記試験 (20%)
 - d) 最終口頭試問 (20%)
 - e) 宿題、オンライン学習システム、授業への積極的参加 (20%)
3. 教科書の予習・復習とは別に、教科書対応のオンライン学習システム(LMS)での学習を毎週の課題とする。システムの使用方法は初回講義で教えますので、必ず出席すること。
4. この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき、評価を行う。

授業科目名：KGUデータサイエンス概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樋口 広喜 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>データ駆動型社会において日常の生活を題材に世の中に溢れるさまざまな情報・データからデータサイエンスとは何か、なぜデータが必要なのか、どのようなデータを活用できるかについてデータサイエンスに関する基礎的概念を理解し、データサイエンスを学ぶことの意義を理解する。また、分析目的に応じて、適切なデータ分析手法を学び、専門分野との学修に繋げられるような動機付けの学習とすることが目標である。データサイエンスにおける各分析を説明し、情報・データを利用する上での必要なセキュリティおよび情報倫理を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、データサイエンスの導入科目として、データサイエンスとは何かということを読み、データサイエンスが様々な分野でどのような可能性を持ち、どのような技術開発に繋がっていくかについて講義し、データサイエンスの概論として、一通りの基礎的な学習を行う。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：シラバスに基づき講義内容を説明する。			
<p style="padding-left: 40px;">データは社会をどう変えるか(1) ビジネスパーソンは、データサイエンスがどこまで出来ていけばいいの？</p>			
第2回：統計基礎(1) エクセルで、データの「真ん中」を求める			
第3回：データは社会をどう変えるか(2) AIとは何か			
第4回：統計基礎(2) データの「散らばり」を知る			
第5回：データは社会をどう変えるか(3) 第4次産業革命とは何か			
第6回：統計基礎(3) 2つの数字の間の「関係」を知る			
第7回：データは社会をどう変えるか(4) AIの応用実例：クラファンの成功確率の可視化			
第8回：統計基礎(4) 回帰分析が驚くほど簡単に理解できる・自分でできるようになる講座			
第9回：データは社会をどう変えるか(5) AIを使ってみよう			
第10回：統計基礎(5) 「統計的に有意である」とは、どういうこと？			
第11回：データは社会をどう変えるか(6) DXとデータサイエンス			
第12回：統計基礎(6) 実践：確率思考の戦略論			
第13回：データは社会をどう変えるか(7) 第4次産業革命で必要とされる人材と組織			
第14回：統計基礎(7) 標本の理論			

テキスト なし

参考書・参考資料等 適宜、授業内で指示する。

学生に対する評価

- ・平常点（小テスト、リアクションペーパー・レポートなど）（80%）
- ・最終課題（20%）

なお、受講態度がふさわしくない場合、減点処置を取る。

なお、「レポート」については①番に、「プレゼンテーション」については②番に、「リアクションペーパー」については④番のルーブリックに基づき評価を行う。

授業科目名：KGU情報基礎演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：本橋 友江 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータとネットワークの基礎的な仕組みを理解し、社会で使用するドキュメント作成・表計算やプレゼンテーションの準備ができるようになる。			
授業の概要 情報機器を構成している要素とその仕組み、情報機器の操作について学ぶ。 大学ならびに社会に出て必要なICTスキルを身につける。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスの概要とコンピュータの基本 コンピュータの基本構造と機能 インターネットの歴史と基本的な仕組み 第2回：セキュリティと、プライバシー、マナーについて学ぶ サイバーセキュリティの基礎 パスワード管理と二要素認証 第3回：Microsoft Wordによる基本文書の作成1 文書の新規作成と保存 基本的な書式設定（フォント、スタイル、段落） 第4回：Microsoft Wordによる基本文書の作成2 図、表、リンクの挿入と編集、文書の校正 第5回：Microsoft Wordによる長文（2,3P）の作成 長文書の管理（セクション分割、ページ番号） テンプレートの使用とカスタマイズ、文書の保護 第6回：生成AIによる文書修正 生成AIを使えるようにする、生成AI で自分が作った文章を添削する 第7回：Microsoft Excelの基本 スプレッドシートの作成とセルの操作、基本的な数式と関数の使用 第8回：Microsoft Excelの応用 数式と関数の活用（四則演算とSUM、会計簿に用いるもの） データの分析としての平均など 第9回：Microsoft Excelのデータの受け渡し データのインポートとエクスポート 第10回：Microsoft PowerPointの基本 プレゼンテーションの新規作成 スライドのデザインとレイアウト 第11回：Microsoft PowerPointの発表準備 アニメーションとトランジションの使用 ビデオと音声の挿入 第12回：PowerPointを使った発表 ハイパーリンクとアクションボタン 第13回：情報検索 効率的な情報検索技術、情報の信頼性の評価 第14回：共同作業 クラウドストレージの利用			
テキスト			

参考書・参考資料等 適宜、授業内で指示する。

学生に対する評価

課題提出状況：100%

この授業科目では、本学の共通ルーブリックに基づき、評価を行う

授業科目名：教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細谷（松山） 早里 江津 和也
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育および学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の基本的概念、教育の歴史に関する基礎的知識、教育に関する様々な思想について講義する。さらに教育の基本的概念と教育を成り立たせる諸要因との相互関係、教育の歴史的事項と教育理念との関係、過去から現代に至る教育や学校の変遷、教育の思想と教育理念や教育・学校との関わりなどについて、受講者の主体的・協働的な学びによって教育の本質への理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分）</p> <p>第1回：教育原理を学ぶ－教育の理念や諸概念、教育や学校の歴史－ シラバスを読んで、授業内容を確認する。</p> <p>第2回：「教育」とは何か－教育学の諸概念・教育の本質および教育の目標－ 教育とは何かを考える。</p> <p>第3回：「教育」の要素とそれらの関係性－子ども・教員・家庭・学校の特性と教育－ 教育の要素を考える。</p> <p>第4回：人間の可能性と教育の必要性－教育することの意味と目的－ 人間とはどのような可能性を持っているのかを理解し、 教育がそれにどう関わっているかの理解を深める。</p> <p>第5回：ヨーロッパの教育思想－「子どもの誕生」と親・教師の役割－ ヨーロッパの教育思想について学ぶ。</p> <p>第6回：公教育の成立と展開－家庭から社会・国家による教育－ 公教育の成立について学ぶ。</p> <p>第7回：日本における近代公教育－近代教育制度の成立と展開－ 日本における近代公教育について理解を深める。</p> <p>第8回：日本における教育の変遷－大正自由教育と軍国主義体制下の教育－ 日本における教育の変遷を知る。</p>			

第9回：戦後日本の教育改革－民主主義の教育と学習指導要領－

戦後の日本の教育改革について理解する。

第10回：高度経済成長から情報化・グローバル社会へ－学校をめぐる新たな課題－

情報化・グローバル社会での教育の課題について考える。

第11回：内外の教育実践に学ぶ－個と公共、責任性の教育－

様々な教育実践について学ぶ。

第12回：家庭や子どもに関わる教育の思想

家庭、子どもに関わる教育の考え方を知る。

第13回：学校や学習に関わる教育の思想

学校や学習に関わる教育の考え方について知識を深める。

第14回：まとめ校訓「人になれ奉仕せよ」と本学の教員養成

家庭、子どもに関わる教育の考え方を知る。

期末試験

テキスト

汐見稔幸監修・編著（2020）『教育原理』ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

期末試験または期末レポートおよび発表の成績70%、平常点（リアクションペーパー、その他提出物、および授業の積極的参加）30%

授業科目名：教職論（ チーム学校を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新倉 京子 牧内 義信 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容（研修・サービス及び身分保障を含む）等を身につけ、現代社会における教職の職責の重大さを認識するとともに、教職課程における学びへの関心・意欲を高める。</p> <p>(2) 教職に関する各種の情報を収集し、みずからの適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>教職の意義、教師の職務の実際について、学校現場の状況をふまえ、関連する教育法規や学習指導要領等にふれながら解説する。さらに受講者がその職務にあたることを想定し、教育や教育問題についての事例分析や検討を通じ、教育職員の果たすべき役割を自覚できるような演習形式の授業も取り入れていく。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
<p>第1回：オリエンテーションシラバスに基づき講義概要を説明する 教職の意義について考えるーなぜ教師を目指すのかー 公教育の目的、及び教職の意義について理解を深め、教職を目指す上での心構え、教職論の受講にあたっての留意事項を確認する。</p> <p>第2回：学校教育と教員養成・教員採用をめぐる課題ー教員に求められる役割ー 教員に求められる資質・能力、教員養成の制度と課題について理解し、教職の職業的特徴を理解した上で、教職への進路選択について考える。</p> <p>第3回：教育課程・教科指導（1）ー「生きる力」の育成に向けてー 学習指導要領の変遷や学びの改革の動向をふまえて、「生きる力」を育む教科指導の展開にあたり、教員に求められる役割を理解する。</p> <p>第4回：教育課程・教科指導（2）ー「学びの改革」に向けてー 学びのあり方をめぐる改革の動向をふまえて、知識の理解の質を高め、思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価のあり方について考える。</p> <p>第5回：総合的な学習の時間ー「知」の総合化とはー 総合的な学習の時間のねらいと内容について理解し、教師はその意義をふまえた効果的な指導の展開のためにどのような役割を果たすべきかを考える。</p> <p>第6回：特別活動ー学級（LHR）活動、生徒会、学校行事ー</p>			

特別活動のねらいと内容について理解し、教師はその意義をふまえた効果的な指導の展開のためにどのような役割を果たすべきかを考える。

第7回：進路指導・キャリア教育－勤労観・職業観の醸成と進路探索の支援－

狭義の「進路指導」ではなく、「キャリア教育」が提唱されるようになった背景を理解し、「社会的・職業的自立」に必要な力を育む指導について考える。

第8回：生徒指導・教育相談

生徒指導や教育相談が、学校の教育活動において担う役割を理解し、生徒指導に取り組むうえで教師に求められる資質・能力について考える。

第9回：特別支援教育

障がい者の「教育を受ける権利」の保障と特別支援教育の意義・内容について理解し、インクルーシブ教育の構築にあたり、教師が担うべき役割について考える。

第10回：外国にルーツを持つ児童・生徒の教育

外国につながる児童・生徒がおかれている状況や抱えている課題を理解し、学校にどのような支援体制の構築が求められているかについて考える。

第11回：保護者・地域との連携－「開かれた学校」のあり方を考える－

保護者・地域との連携体制の構築の必要性を理解し、より良い教育活動の展開のための「チーム学校」としての連携体制について考える。

第12回：事故防止・危機管理・防災教育の推進

学校教育における事故防止・危機管理体制の整備の重要性を認識し、安全管理、防災教育等、教師が果たすべき責務を理解する。

第13回：教育行財政と学校、校内組織と連携体制－チーム学校のあり方－

教育行財政の基本的な仕組みを理解する。校内運営を担う分掌組織と、多様な専門性を持つ人材との連携・分担による「チーム学校」としての組織的な運営について理解する。

第14回：教員の研修と学び続ける教師、教員の服務および身分保障

授業のまとめ教職の意義と自らの教職観を再確認し進路選択をする
専門職として職務を適切に遂行するための教員研修と、生涯にわたっての学び続けることの重要性を理解する。

教員に課せられる服務上、身分上の義務、及び身分保障について理解する。

教育職員の果たすべき役割、教職の意義をふまえて、自らの目指す教師像を再構築し、教職への意欲を高める。

期末試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領

高等学校学習指導要領

KGU教職課程スタンダード

学生に対する評価

期末テスト：50%、授業内演習課題等の提出・授業への取り組み状況：50%

授業科目名： 学校の制度	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：江 津 和 也 宮 口 誠 矢 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。			
授業の概要 近代学校の成立、戦後の教育改革、高度経済成長と教育の関係など、学校を歴史的、社会的、制度的側面から見ていくことで、学校の機能や役割への理解を深める。 諸外国の学校制度、学校が抱える問題、教育関連法規、学習指導要領と教育の内容や方法、学校改革の事例や動向などの学習を通じて、学校制度や教育制度への理解をさらに深める。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：授業の目的・内容・方法・評価—シラバスに基づき講義内容を説明する。 授業内容を理解する。 第2回：学校改革の現在 学校改革の現在について理解する。 第3回：近代学校の成立、公教育制度の確立と教育政策・教育法制 学校の成立、教育政策、教育法制について理解する。 第4回：教育の制度化と「学校化社会」 学校化社会とは何かを理解する。 第5回：「学校」「学び」の再定義 学校、学びについて考える。 第6回：各国の学校制度—欧米とアジアの学校制度— 諸外国の学校の制度について学ぶ。 第7回：日本の学校制度—教育基本法、学校教育法と教育関連法規— 日本の学校制度、教育法規について理解する。 第8回：学校の制度と「学習指導要領」 学習指導要領について理解を深める。 第9回：「学習指導要領」の変遷と教育の内容・方法 学習指導要領の変遷について学ぶ。 第10回：「学力」問題と日本の教育水準			

<p>学力とは何か、日本の教育水準はどのレベルにあるのか知る。</p> <p>第11回：知識基盤社会における学校の役割 学校の役割とは何かについて考える。</p> <p>第12回：開かれた学校づくり—地域との連携・融合、生涯学習社会の構築— 開かれた学校とは何か、地域連携のあり方を考える。</p> <p>第13回：学校の運営—学校評価、学校評議会・学校運営協議会— 学校の運営の詳細について学ぶ。</p> <p>第14回：学校安全の課題と取り組みと授業のまとめ 学校安全の必要性とその課題を理解する。 全体を振り返り授業で学んだことを確認する。</p> <p>期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>学校の制度を学ぶ 藤田祐介 文化書房博文社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験及び発表80%提出物及び授業の取り組み20%</p>

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：細田 聡 大泉（梅田） 郷子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 子どもの発達と学習についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>(2) 教育心理学の観点から、主体的な学習を促すための教育に関する基礎的な考え方について理解する。</p>			
授業の概要			
子どもの発達の過程と特徴、および、学習の理論について解説する。また、動機づけや学級集団、学習評価や学習指導といった、主体的な学習を促すための教育に関する基礎的な考え方について説明する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：オリエンテーション、教育心理学とは何か			
本講義の一連の概要を理解するとともに、教職課程における教育心理学の位置づけを学び、講義のテーマ、目的・概要、講義方針を理解する。			
第2回：発達とは何か			
人間の誕生から老年期までの一生涯にわたる心身の変化や各種能力の発達について、発達段階ごとの特徴を理解する。			
第3回：発達の規定要因と発達の理論			
発達の規定要因と基礎的な発達の理論について理解する。			
第4回：子どもの発達（1）～言語と認知の発達～			
言語と認知の発達のプロセスと基礎的な理論を理解する。			
第5回：子どもの発達（2）～運動と社会性の発達～			
運動と社会性の発達のプロセスと基礎的な理論を理解する。			
第6回：子どもの発達（3）～パーソナリティ～			
パーソナリティの観点から発達のプロセスと基礎的な理論を理解する。			
第7回：学習のメカニズム（1）～条件づけと観察学習～			
条件づけおよび観察学習の理論について理解する。			
第8回：学習のメカニズム（2）～記憶～			
記憶に関する基礎的理論について理解する。			
第9回：学習のメカニズム（3）～認知と問題解決～			
認知と問題解決に関する基礎的理論について理解する。			

第10回：学習指導の理論と方法（1）～学習指導の理論～

学習指導の諸理論について理解する。

第11回：学習指導の理論と方法（2）～協同学習と個に応じた学習～

協同学習の理論について理解するとともに個に応じた学習について考えられるようになる。

第12回：動機づけと自律的な学習の意欲

動機づけの諸理論を理解するとともに、自律的な学習の意欲を高めるために必要なことは何かについて考えられるようになる。

第13回：学級集団～仲間関係と教師のリーダーシップ～

仲間関係と教師のリーダーシップについて教育心理学的観点から考えられるようになる。

第14回：教育評価とまとめ

教育評価の理論と方法について理解する。

これまでの学習を振り返り、到達目標に達しているかを確認し、教育心理学の諸理論についてさらに理解を深めることができる。

期末試験

テキスト

やさしい教育心理学／鎌原雅彦、竹綱誠一郎著／有斐閣／第5版

参考書・参考資料等

教育心理学I発達と学習指導の心理学大村彰道編 東京大学出版会

教育心理学II発達と臨床援助の心理学下山晴彦編 東京大学出版会

学生に対する評価

期末試験（70％）リアクションペーパー（30％）

授業科目名：特別支援教育	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：生駒 忍 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 特別支援教育の対象となる子どもの抱える問題の特徴に関する知識を身につける。</p> <p>(2) 特別な援助ニーズを抱える子どもを支援するための視点・方法、および、その教育課程を理解し、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成することができるようになる。</p> <p>(3) 個別の教育的ニーズに対し、学校内外において連携しながら組織的に対応するための知識および支援方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育の概要、様々な障害の種類と内容、特別な支援を必要とする子どもの教育課程、ならびに援助の方法について解説する。また、個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成や学校内外における連携等の意義や方法について解説する。さらに、実践的な視点を身につけるために、事例をもとにした議論検討を行う。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション、特別支援教育とは何か。シラバスに基づき、講義内容を説明する。特別支援教育とは何かを理解する。</p> <p>第2回：特別支援教育の歴史と法制度 特別支援教育の歴史を、それを形作る法規とあわせて理解する。</p> <p>第3回：特別支援教育の対象となる障害 特別支援教育の対象となる各種の障害について、基礎的な理解を得る。</p> <p>第4回：特別支援学校と自立活動 特別支援教育に関する学校と、「自立活動」領域について理解する。</p> <p>第5回：通常の学校における特別支援教育 特別支援学級や通級による指導の位置づけと運用について理解する。</p> <p>第6回：個別の指導計画と個別の教育支援計画 個に応じた理解と支援を行うための教育の組み立て方と進め方を把握する。</p> <p>第7回：共生社会とインクルーシブ教育 多様な困難に対する理解、対応、連携について、共生社会の理念からとらえる。</p>			
<p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

はじめての特別支援教育－教職を目指す大学生のために改訂版－柘植雅義2014有斐閣

学生に対する評価

授業態度（40％）および試験（60％）により評価を行う

授業科目名： 教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤 幸也 姜 華 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の基本的事項と編成内容について説明することができる。 ・学習指導要領について説明することができる。 ・実際に教育課程を編成することができる。 ・教育課程の評価について説明することができる。 ・令和における教育課題を理解し、指導案等を作成する基礎を習得する。 			
授業の概要			
教育課程編成の歴史や内容に関する基本的知識並びに編成方法について習得する。社会の教育課題と教育課程編成のあり方、学習指導要領の変遷や現行学習指導要領を取り上げ、教育課程編成の実際並びに評価について学ぶ。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：ガイダンス			
シラバスに基づいて学習内容、方法、到達目標などについて説明する。教育課程編成の概念や構造を歴史的に理解し、学習指導要領の基礎的知識を習得する。			
シラバスを読み、解説を聞くことで教育課程の概要が理解できる			
第2回：世界や近代日本のカリキュラム編成～明治・大正・昭和のカリキュラム編成の特徴。			
近代日本のカリキュラムを理解する			
第3回：第二次世界大戦後の教育改革と教育課程編成、学習指導要領の特徴。			
教育基本法体制下の教育課程編成と主たる教育実践を理解する			
第4回：学習指導要領の変遷とその特徴。			
改訂ごとの学習指導要領の特徴と社会のあり方を理解する			
第5回：現行学習指導要領と令和の日本型学校教育と生涯学習について解説する。			
平成以降の世界変動と教育改革に基づく教育課程編成を理解する。			
第6回：グローバル社会のカリキュラム編成とレジリエンスな学習能力育成のための授業改革。			
「学力の三要素」「カリキュラム・マネジメント」「地域に開かれた教育課程」、社会人基礎力養成、カリキュラム・マネジメントなどを整理し、「探究科目」の指導案を作成する。			
第7回：まとめと復習			
全体の振り返りする。ICTを含め「総合的な学習の時間／探究」、教科横断的、複合領域によるカリキュラム編成と生涯学習について理解し、基礎的知識を体系化する。			
期末試験			

テキスト
文部省・文部科学省『学習指導要領』(昭和22年～令和6年) 『教育の方法と技術』(第三版) 柴田義松他2014年学文社
参考書・参考資料等
文部省・文部科学省『学習指導要領』(昭和22年～令和6年) 文部省・文部科学省検定済み中学・高等学校教科書(各教科) 『教育の方法と技術』篠原正典・荒木寿友2018ミネルヴァ書房初版
学生に対する評価
期末試験 (100%)

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：新倉 京子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間帯の指導方及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 総合的な探究の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 総合的な学習の時間の意義と目標、各学校における目標や内容設定のあり方を理解する。</p> <p>(2) 指導計画の作成や評価にあたっての考え方や探究的な学習を支援するための方法を理解し、主体的・対話的な深い学びを実現する授業実践のための基礎的な能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習の意義と目標、各学校における目標や内容設定のあり方、指導計画の作成、具体的な指導方法、評価のあり方について、実践例をふまえて解説する。また、指導計画案の作成・検討の演習に取り組み、受講者同士の相互評価等も行い、チームで協働しながら指導計画の検討や授業実践に取り組む力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション(シラバスに基づく内容説明)、総合的な学習の時間の意義と目標</p> <p>「総合的な学習の時間の指導法」の授業計画、受講上の注意を理解する。</p> <p>「総合的な学習(探究)の時間」の意義をその導入の背景と共に理解する。</p> <p>「総合的な学習(探究)の時間」が横断的・総合的、探究的な学習を通じて、どのような能力・資質の育成をめざしているかを理解する。</p> <p>第2回：各学校における「総合的な学習(探究)の時間」の目標と内容</p> <p>学校としての「総合的な学習(探究)の時間」の目標設定のあり方、扱うべき探究課題の種類、目標実現に向けた探究にふさわしい課題設定のあり方や留意点について、実践例をふまえて理解する。</p> <p>第3回：指導計画の作成</p> <p>学校としての「総合的な学習(探究)の時間」の全体計画、各学年の年間指導計画を目標に沿って、各教科等との関連性を図りながら作成していくことの重要性や、作成にあたっての留意点を理解する。</p> <p>第4回：生徒の関心や疑問を生かした単元の構想 / 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成</p> <p>生徒の関心や疑問を生かした単元構成のあり方や、生徒の関心を広げ、疑問を引きだし、主体的な学びを促すための教師側からの働きかけのあり方について理解する。</p> <p>単元のねらいを明確にし、意図した学習、深い学びを探究の過程で効果的に生み出す単元を構成していくことの重要性を理解する。</p>			

第5回：協働的な学習の指導 / 「考えるための技法」とICTの活用

対話的・協働的な学習の意義や指導上の留意点を理解し、「考えるための技法」やICTを効果的に学習に活用しながら、主体的・対話的な深い学びを実現する指導力を身に着ける。

第6回：探究的な学習の指導と評価 / 体験的な学習の活用と外部の教育資源との連携

課題設定、情報の収集と整理・分析、考察、まとめ・発表、新たな課題の発見という探究的な学習過程の展開、生徒の学習過程や成果の多様な評価方法、指導や評価にあたっての留意点を理解する。

体験的な学習や外部教育資源の活用の意義を理解し、外部機関との連携や体験的な学習の指導における留意点について理解する。

第7回：全体計画・単元計画の発表、相互評価

第2～6回の講義の復習課題として取り組んできた、各々が想定した学校の「総合的な学習(探究)の時間」の目標・全体指導計画、その中の一つの単元の指導計画を発表し、相互評価を行い、チームで指導計画の修正・改善に取り組む力を養う。

期末試験は実施しない。

テキスト

『中学校学習指導要領 解説「総合的な学習の時間」編』 文部科学省 東山書房
『高等学校学習指導要領 解説「総合的な探究の時間」編』 文部科学省 学校図書

参考書・参考資料等

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)』文部科学省 アイフィス
『今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開(高等学校編)』文部科学省 アイフィス

学生に対する評価

授業内演習課題50%、「総合的な学習の時間」指導計画(期末レポート)50%

授業科目名：特別活動の 理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中村 豊 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 「特別活動」について理論的に理解した上で、実際に活用できる活動計画を作成する。			
授業の概要 指定テキストを用いながら「特別活動」とは何かを中心に理論的に追求し、知識理解を深める。 また、学校現場における既存の活動計画や実践を踏まえ、特別活動における評価方法や、各校 の実態に応じた活動計画、指導案を作成する。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：オリエンテーションシラバスに基づく授業の説明講義：特別活動とは何か 特別活動の教育的意義について理解する。 第2回：特別活動の歴史的変遷、学校段階別内容及び目標 特別活動の歴史的変遷について知り、学校段階別内容及び目標について理解する。 第3回：各学校別学級活動・ホームルーム活動の内容及び目標 各学校別学級活動・ホームルーム活動の内容及び評価について理解する。 第4回：児童会、生徒会活動の目標と内容 児童会、生徒会活動の目標と内容について理解する。 第5回：学校行事の指導と目標及び校種別目標の共通点と相違点 学校行事の指導と目標及び校種別目標の共通点と相違点が存在することを理解する。 第6回：特別活動の実施上の留意点と評価 特別活動の各内容及び実施上の留意点と評価について理解する。 第7回：活動計画の作成と評価、まとめ 期末試験は実施しない			
テキスト 新しい教職教育講座教職教育編特別活動中村豊・原清治 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 学習指導要領解説特別活動編文科省2018			
学生に対する評価 授業内課題等及び授業後の課題80%、「まとめ」20%の割合で評価する。			

授業科目名： 教育の方法と技術 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤幸也 牧内義信 担当形態：クラス分け・オム ニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 教育方法と技術の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2) 学習指導要領に見る教育方法、技術（教材研究、発問、板書、ICTの活用等）について理解し、身に付ける。</p> <p>3) 現行学習指導要領の目的、ねらい、教育課程編成と教育方法について理解し、対話的で深い学びのための教材作成、評価方法等の基礎となる知識と技術（教材提示、話法、板書や机間巡視による個別指導等）を習得する。</p> <p>4) 情報機器、ICT、マルチメディア教材を適切に用いるための原則を理解している。</p> <p>5) ソサエティ5.0等を理解したうえで、生涯学習の観点からキャリア教育を指導する教育方法の基礎的知識を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育方法や技術を歴史的に理解した上で、現代日本の教育課題に対応するための教育方法や技術に対する基礎的知識を習得する。特に、生涯学習と学校教育の連携、融合も含めた社会と連携する教育方法の理解に努め、実践するための基礎的知識や方法を習得する。対話的、協働的、深い学びにより確かな学力形成につながる教育方法と技術等についての理解を深める。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の進め方・履修上の注意事項）シラバスの説明。（佐藤） 授業全体の構成とテーマ及び教育方法史概説1（西洋教育史） 教育方法についての歴史的理解と教育方法と技術の変遷を説明できる。</p> <p>第2回：教育方法史概説2（日本の近現代の教育方法史と教育技術）（佐藤） 現代日本につながる教育方法と技術（発問、指示、綴り方教育、体験・活動等）を理解し、教育実践を説明できる。</p> <p>第3回：学習指導要領の変遷と教育方法（問題解決学習、系統学習、総合学習等）と教育技術（教育学、発問と支援、板書、討論と学習のまとめ方指導等）、評価（絶対評価、相対評価、形成的評価、観点別評価や児童生徒自身による到達度的学習評価等）等について理解する。（佐藤） 改訂ごとの特徴とそれに伴う教育方法、技術、評価等について説明することができる。</p>			

第4回：平成以降の教育改革を学力（知識基盤社会、コンピテンシー・ベース等）、人間形成、社会人基礎力養成（生涯学習、キャリア教育等）の観点から教育方法や技術について理解する。（佐藤）

急激な社会変動に対応するための教育方法（主体的対話的で深い学び等）や技術（カルテ方式の利用やICTの活用）の開発、授業改革等について説明できる。

第5回：高度情報社会に対応する教育方法（プログラミング教育、デジタル教材等）や技術（学習支援システム、AIドリル等）についてICTを中心として解説する。（牧内）

生涯学習と学校教育を連続的にとらえ、キャリア形成や生き方あり方を考える教育方法（個別最適な学び、習熟度別指導等）や技術（発問づくり、反転授業、ワークショップ等）について説明することができる。

第6回：新たな教育課題であるSDGs、防災教育、多文化共生教育の学習課題（教科横断的学習、探究的学習等）と実践（言語活動の充実、体験的な学習、自己・相互評価等）について考察する。（牧内）

社会の持続的発展に寄与する学校教育（環境教育、STEAM教育等）と教育方法（学習指導案づくり、板書技術、教材提示の仕方等）のあり方について説明できる。

第7回：まとめと振り返り（佐藤）

教育方法や技術の今日的課題を整理し、要点が説明できるようになる。

教育方法や技術についての基礎的知識を確認し、体系化した内容について理解を深める。

期末試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

柴田義松、木内剛他『教育の技術と方法』第3版（現行版）、学文社。

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省 東山書房

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）文部科学省

文科省検定済み中学・高校教科書（各教科）

新聞や教育関連雑誌等の資料は講義中に適宜配布する。

学生に対する評価

期末試験 100%

授業科目名： 教育の方法と技術 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田 広毅 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 教育方法と技術の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2) 学習指導要領に見る教育方法、技術（教材研究、発問、板書、ICTの活用等）について理解し、身に付ける。</p> <p>3) 現行学習指導要領の目的、ねらい、教育課程編成と教育方法について理解し、対話的で深い学びのための教材作成、評価方法等の基礎となる知識と技術（教材提示、話法、板書や机間巡視による個別指導等）を習得する。</p> <p>4) 情報機器、ICT、マルチメディア教材を適切に用いるための原則を理解している。</p> <p>5) ソサエティ5.0等を理解したうえで、生涯学習の観点からキャリア教育を指導する教育方法の基礎的知識を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>教育方法や技術を歴史的に理解した上で、現代日本の教育課題に対応するための教育方法や技術に対する基礎的知識を習得する。特に、生涯学習と学校教育の連携、融合も含めた社会と連携する教育方法の理解に努め、実践するための基礎的知識や方法を習得する。対話的、協働的、深い学びにより確かな学力形成につながる教育方法と技術等についての理解を深める。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
<p>第1回：オリエンテーション（講義の進め方・履修上の注意事項） シラバスの説明。</p> <p>授業全体の構成とテーマ及び教育方法史概説1（西洋教育史）</p> <p>教育方法についての歴史的理解と教育方法と技術の変遷を説明できる。</p> <p>第2回：教育方法史概説2（日本の近現代の教育方法史と教育技術）</p> <p>現代日本につながる教育方法と技術（発問、指示、綴り方教育、体験・活動等）を理解し、教育実践を説明できる。</p> <p>第3回：学習指導要領の変遷と教育方法（問題解決学習、系統学習、総合学習等）と教育技術（教育工学、発問と支援、板書、討論と学習のまとめ方指導等）、評価（絶対評価、相対評価、形成的評価、観点別評価や児童生徒自身による到達度的学習評価等）等について理解する。</p> <p>改訂ごとの特徴とそれに伴う教育方法、技術、評価等について説明することができる。</p> <p>第4回：平成以降の教育改革を学力（知識基盤社会、コンピテンシー・ベース等）、人間形成</p>			

<p>、社会人基礎力養成（生涯学習、キャリア教育等）の観点から教育方法や技術について理解する。</p> <p>急激な社会変動に対応するための教育方法（主体的対話的で深い学び等）や技術（カルテ方式の利用やICTの活用）の開発、授業改革等について説明できる。</p> <p>第5回：高度情報社会に対応する教育方法（プログラミング教育、デジタル教材等）や技術（学習支援システム、AIドリル等）についてICTを中心として解説する。</p> <p>生涯学習と学校教育を連続的にとらえ、キャリア形成や生き方あり方を考える教育方法（個別最適な学び、習熟度別指導等）や技術（発問づくり、反転授業、ワークショップ等）について説明することができる。</p> <p>第6回：新たな教育課題であるSDGs、防災教育、多文化共生教育の学習課題（教科横断的学習、探究的学習等）と実践（言語活動の充実、体験的な学習、自己・相互評価等）について考察する。</p> <p>社会の持続的発展に寄与する学校教育（環境教育、STEAM教育等）と教育方法（学習指導案づくり、板書技術、教材提示の仕方等）のあり方について説明できる。</p> <p>第7回：まとめと振り返り</p> <p>教育方法や技術の今日的課題を整理し、要点が説明できるようになる。</p> <p>教育方法や技術についての基礎的知識を確認し、体系化した内容について理解を深める。</p> <p>期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>柴田義松、木内剛他『教育の技術と方法』第3版（現行版）、学文社。</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省 東山書房</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）文部科学省</p> <p>文科省検定済み中学・高校教科書（各教科）</p> <p>新聞や教育関連雑誌等の資料は講義中に適宜配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験 100%</p>

教育の方法と技術2 (ICTの活用を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：牧内義信 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の中で情報通信技術を活用することの意義を説明することができる。 ・子どもたちに情報活用の能力を身につけさせていく方法について説明することができる。 ・メディアリテラシーの指導の方法について説明することが出来る。 ・情報モラルの指導の方法について説明することができる。 ・情報通信技術を生かした授業の指導計画・授業案を作成することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>情報通信技術を教育活動で有効に活用していくための方法と理論について理解し考察する。まず教育の中で情報通信技術を活用することの意義を理解する。その上で子どもたちに情報活用能力を身につけさせていくための方法について理解する。その際にメディアリテラシーの指導、情報モラルの指導の在り方についても検討する。また、教科の授業、総合的な学習の時間の授業等でどのように情報通信技術を生かしていけばよいのかも考察する。</p>			
<p>授業計画（1回1コマ（1コマは100分））</p> <p>第1回：ガイダンス シラバスに基づいて授業のテーマ及び到達目標等について理解する。教育の中で情報通信技術を活用することの意義、在り方、留意点、および、外部人材や外部機関との連携と環境整備の在り方を理解する。</p> <p>第2回：情報通信技術を活用した効果的な学習指導（適切な教材の作成・活用を含む）や校務の推進の在り方について理解する。学校現場における指導事例、オンライン教育の意義やシステム、校務の推進の在り方について検討し考察する。</p> <p>第3回：メディアリテラシーの重要性、方法、指導の仕方を理解し検討する。</p> <p>第4回：情報モラルの重要性、方法、指導の仕方を理解し考察する。</p> <p>第5回：教科の授業や総合的な学習の時間等の授業で情報通信技術を生かすための方法を理解し考察する。</p>			

第6回：情報通信技術を生かした教科の授業の指導計画・授業案を作成する。

第7回：教育データの活用と教育セキュリティの重要性について理解する。

まとめと復習 情報通信技術を教育活動でどう生かすことができるかについてまとめを行う。授業全体の振り返りを行う。

期末試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

情報通信技術を活用した教育の理論および方法（西野和則 他 著）実教出版

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）文部科学省

学生に対する評価

授業ごとの課題の内容（100%）

授業科目名： 生徒指導・進路指導の 理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：牧内 義信 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>生徒指導及び進路指導・キャリア教育の本質を理解することを目標とする。これらの基礎的理論とその理論に基づいた技法を理解するとともに、望ましい指導・教育の方向性について、実際に起こりうる問題を踏まえて考えられるようになる。また、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の視点に立ち、授業改善や体験活動ならびにカウンセリング等も含めた教育活動全体を通じた指導・教育の在り方を考えられるようになるとともに、学校内外での連携や組織的な取り組みに必要な知識・技能や素養を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>生徒指導及び進路指導・キャリア教育とは何かについて理解するために、その基礎的理論と理論に基づいた技法について解説するとともに、これらの意義や学校の教育活動全体を通じた指導・教育の在り方、学校内外における連携体制等について説明する。また、生徒の発達段階及び発達課題や現状を踏まえた理論の活用方法などを検討することによって、望ましい生徒指導及び進路指導・キャリア教育の在り方を検討する。講義においては、生徒指導及び進路指導・キャリア教育について先進的に実践を行っている地域及び学校の事例をもとにしながらグループでの検討を進める。</p>			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
<p>第1回：オリエンテーション、生徒指導・進路指導・キャリア教育とは何か 生徒指導・進路指導・キャリア教育についてその概要を知ることができる。</p>			
<p>第2回：生徒指導の意義と原理 ～教育課程における位置づけと学校の教育活動全体を通じた生徒指導の意義・重要性～ 生徒指導の意義及び原理について理解することができる。</p>			
<p>第3回：生徒指導の基礎理論～代表的アプローチと集団・個別指導および生徒指導・教育相談体制～ 生徒指導の代表的アプローチと、集団・個別指導など、教育相談体制について理解することができる。</p>			
<p>第4回：学校運営と生徒指導体制～学校内の体制及び学校内外における連携と組織的な取り組み～ 学校運営上必要となる生徒指導体制について理解することができる。</p>			
<p>第5回：生徒理解、生徒の適応・発達と生徒指導のあり方</p>			

～生徒の発達と発達課題および生活習慣・規範意識・自己肯定感・自己実現等～

生徒理解とは何か、生徒の発達と発達課題について知り、それらを生徒指導にどのように反映していくかを検討することができる。

第6回：生徒指導に関する法制度～校則・懲戒・体罰・停学・退学等～

生徒指導に関する法制度の概要を知ることができる。

第7回：生徒指導上の課題と対応①～不登校・いじめ・問題行動等～

生徒指導上の課題となる不登校・いじめ・問題行動等について現状を把握するとともに、その対応について検討することができる。

第8回：生徒指導上の課題と対応②～インターネット・性・虐待等～

生徒指導上の課題となるネットとの関わり、虐待などの実態を知り、学校教育においての対応について考えることができる。

第9回：進路指導・キャリア教育の意義と原理

～教育課程における位置づけと学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の視点と指導の在り方～

進路指導及びキャリア教育の意義と原理について理解することができる。

第10回：進路指導・キャリア教育の基礎理論

進路指導及びキャリア教育の基礎的な理論について理解することができる。

第11回：進路指導・キャリア教育体制～学校内外における連携と組織的な取り組み～

学校内外における連携と組織的な取り組みの現状を把握し、その改善促進について検討することができる。

第12回：進路指導・キャリア教育におけるカリキュラム・マネジメントの意義と留意点

～授業改善・体験活動・評価改善等～

進路指導及びキャリア教育におけるカリキュラム・マネジメントの意義と留意点について知ることができる。

第13回：進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの意義と留意点

進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスの意義と留意点について知ることができる。

その上で、現状での活用方法について検討することができる。

第14回：個別の進路指導及びキャリアカウンセリングの意義と方法①

～自己評価の意義及びポートフォリオ・適性検査の活用～

個別の進路指導及びキャリアカウンセリングの意義と方法②

～キャリアカウンセリングの基礎的考え方と実践方法～

自己評価の意義及びポートフォリオ・適性検査の活用の必要性について理解することができる。キャリアカウンセリングの基礎的考え方と実践方法について理解することができる。

期末試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

生徒指導提要（改訂版） 文部科学省（令和4年12月公表）

中学校・高等学校キャリア教育の手引き 文部科学省

生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・伊藤秀樹 学文社

学生に対する評価

授業毎の課題の内容（100%）

授業科目名： 教育相談（カウンセリングを含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：生駒 忍 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法について理解する。			
(2)子どもが抱える問題とその支援の方法について理解する。			
授業の概要			
子どもを支援するとはどういうことか、また、どのような支援の方法があるのかを理解するために、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法について解説する。また、教育現場で子どもが抱える問題を取り上げ、教育相談の意義を考察するとともに、学校内外と連携しながらチームで子どもを支援する方法について考える。			
授業計画（1回1コマ（1コマは100分））			
第1回：オリエンテーションシラバスに基づく授業の説明教育相談とは何か シラバスに基づき講義内容を説明する。			
第2回：教育相談の意義・目的と課題 教育相談の目標を理解する。			
第3回：不適応の子どもの理解と関わり（1）～基本的理論と視点～ 子どもの不適応を理解する。			
第4回：不適応の子どもの理解と関わり（2）～発達と個性に応じた支援～ 発達の個人差に応じた支援を理解する			
第5回：教育相談の方法（1）～心理教育的アセスメント～ 心理教育的アセスメントを理解する。			
第6回：教育相談の方法（2）～カウンセリングマインド～ カウンセリングマインドの概念を理解する。			
第7回：教育相談の方法（3）～カウンセリングの理論と方法～ カウンセリングの理論と実践を理解する。			
第8回：教育相談の実際（1）～学校内の連携と組織的体制づくり～ 学校内の連携を理解する。			
第9回：教育相談の実際（2）～支援計画の作成と教育相談の進め方～ 支援計画について理解する。			

第10回：教育相談の実際（3）～学校外との連携～

学校外との連携について理解する。

第11回：子どもの抱える問題（1）～不登校～

不登校について理解する。

第12回：子どもの抱える問題（2）～いじめ～

学校におけるいじめについて理解する。

第13回：子どもの抱える問題（3）～虐待・親子関係～

児童虐待について理解する。

第14回：子どもの抱える問題（4）～問題行動～

非行について理解する。

期末試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

随時、資料を配付する。

学生に対する評価

授業態度（40％） レポート（60％）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）	単位数：2単位	担当教員名：細田 聡 細谷（松山） 早里 佐藤 幸也 久保田 英助			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制 シラバス作成段階から共同で作業するとともに、学内会議その他でしばしば情報共有と時に共同で実践演習を行っている。外部講師の講義や神奈川県教育委員、横浜市教育委員会、本学教職実践センター指導講師などとも連携しながら教師としての資質向上に資する授業を展開している。					
授業のテーマ及び到達目標 教員免許状取得見込みの学生が、学部および教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、職務を遂行できる資質・能力が身についているかを、以下の①～⑤の目標について確認する。また不足している場合は知識や技能を補う。					
① 教育に対する使命感や倫理観、規範意識を持つとともに、教員としての資質・能力の向上のために、常に努力し成長しようとする姿勢を身につける。 ② 子どもとの関係を構築したり、他の教職員や保護者、地域の人々と協力・連携するための社会性や対人関係能力を身に付ける。 ③ 生徒理解を促進し、一人一人のニーズにあった対応や適切な学級経営が出来るようになる ④ 幅広い教養と専門知識を獲得するとともに、ICTを活用して効果的な学習指導の方法を身に付ける。 ⑤ 奉仕とボランティアの建学の精神をもって、広い視野に立ち、人や社会に貢献できる人格を形成する。					
授業の概要 ①～⑤の目標を達成するために、担当教員は教科の教員や外部講師の協力を得て、講義、個別指導をはじめ、ロールプレイング、模擬授業、グループ討議、グループワークなど、主に演習形式による授業を行う。必要に応じて学校見学、奉仕・ボランティア活動なども取り入れる。これらの活動を通じて、学生が主体的・積極的に授業に参加し、教員としての資質・能力の向上を図るとともに、教員になるために最小限必要な指導力を身に付ける。（このシラバスは自動的に英語に翻訳されます。					
授業計画（1回1コマ（1コマは100分）） 第1回：シラバスに基づき授業内容を説明する。 【使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項】 『履修カルテ』に7セメスターの成果を記入する。これまでの学習（教育実習を含む）を振り返り、『履修カルテ』から各自が 【振り返りシート】 を作成し、自己の課題を発見する。自分の課題を発表し深め合う。 これまでの学習（教育実習を含む）を振り返り、「履修カルテ」から自己の課題を発見する。					

第2回：【使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項】

教育委員会等の外部講師の講義を聴き、学校現場において求められる教師の資質と能力についての理解を深める。グループ討議。【外部講師・教育委員会講師による指導】

第3回：使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項】

グループ討議を通して教職の意義、役割、倫理的問題等について確認する。

第4回：【社会性や対人関係能力に関する事項】

他教員・保護者・地域社会との連携の重要性について、みずからの体験や事例から確認するとともに、コミュニケーション能力向上のためICTを効果的に活用したグループワークを行う。

第5回：【社会性や対人関係能力に関する事項】

他教員・保護者・地域社会との連携の重要性について再確認するとともに、コミュニケーション能力向上のためのグループワークを行う。

第6回：【生徒理解や学級経営等に関する事項】

グループ討議やロールプレイングを通して、いじめや不登校、発達障害など特別なニーズを持つ子どもへのサポートに関する理解を深める。

第7回：【生徒理解や学級経営等に関する事項】

グループワークやロールプレイングを通して、みずからの人間理解を深めるとともに、相互に信頼し合える学級経営についての洞察を深める。

第8回：【生徒理解や学級経営等に関する事項】

学校見学や教育実習における経験をもとに、学級経営の在り方について理解を深める。

第9回：【教科内容等の指導力に関する事項】

教科教育・現場教員等の協力を得て、教科に関する知識・理解について、『履修カルテ』等から自分の長所や弱点を自覚する。教科に関する専門的知識、ICTを活用した効果的なプレゼンテーション、板書、教材、授業方法等についてのグループ研究を行う。

第10回：【教科内容等の指導力に関する事項】

教科教育・現場教員等の協力を得て、教科に関する専門的知識を高め、ICTを活用した効果的なプレゼンテーション、板書、教材、授業方法等についてのグループ研究を行う。教科教育法または現職教員による指導を受ける。【教科教育法又は現職教員による指導1】

第11回：【教科内容等の指導力に関する事項】

【模擬授業】自分の課題に応じてグループ毎に教材研究等を行い、それに基づいてICTを効果的に活用した模擬授業を行う。

第12回：【教科内容等の指導力に関する事項】

【模擬授業】自分の課題に応じてグループ毎に教材研究等を行い、それに基づいて模擬授業を行う。教科教育法または現職教員による講評・評価を受け、自己の改善点を自覚する。

【教科教育法又は現職教員による指導2】

第13回：【人や社会への貢献を目指した人格形成に関する事項】

学校、その他のフィールドにおける奉仕・ボランティア活動への参加体験から、そこで学んだことについてグループ討議を行うことで、人や社会に対する関心を深め、これに貢献できる人格を形成する。

第14回：【人や社会への貢献を目指した人格形成に関する事項】

世界的視野に立ち、社会の諸問題を認識し、自ら参加・貢献できることを企画する。さら

に、グループ討議を行うことで、人や社会に対する関心を深め、これに貢献できる人格を形成する。

【資質・能力の確認とまとめ】

高い専門性と優れた人格をそなえた教員とはどのような教員か、『履修カルテ』および「KGU教職課程スタンダード」を基に、教職課程での学びを振り返るとともに、みずから理想とする教師像を描いてみる。[自己評価および相互評価]【振り返りシート】を仕上げます。

期末試験は実施しない

テキスト

関東学院大学教職課程編「KGUスタンダード」

参考書・参考資料等

「KGU教職課程履修カルテ」

【振り返りシート】

学生に対する評価

平常点（授業への積極的参加、課題シート、試験等）で総合的に評価する。全出席を前提とする。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。